

第7回
メディアに関する全国世論調査
(2014年)

公益財団法人 新聞通信調査会

目 次

《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？…………… 1
 《1位「NHK テレビ」71.1点、2位「新聞」69.2点、3位「民放テレビ」60.2点》
2. 各メディアにつけた信頼度得点に影響が大きかったのは？…………… 2
 《「情報源として欠かせない」「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」》
3. 各メディアの信頼感の変化は？…………… 3
 《この1年間で新聞の信頼感が「低くなった」が5.6%から10.2%に増加、
 低くなった理由は「誤報があったから」が28.7%で最多》
4. 各メディアの印象は？…………… 4
 《情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」》

《原発関連報道について》

5. 放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発廃炉などの問題に関心がある？…………… 6
 《「関心がある」86%、男性や高年層ほど「非常に関心がある」》
6. 各メディアの放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発廃炉に関する報道の印象は？…………… 7
 《新聞は「正確な報道」「参考になる」で他メディアより評価》
7. 今後、新聞に期待する原子力発電についての報道は？…………… 9
 《「放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理について」が63%で最多》
8. 今後、新聞に期待する日本のエネルギーに関する報道は？…………… 10
 《「自然エネルギーのメリット・デメリットについて」が72%で最多》

《憲法改正問題に関する報道》

9. 憲法改正問題に関心がある？…………… 11
 《「関心がある」7割と依然高い》
10. 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディアは？…………… 12
 《「新聞」と「NHK テレビ」60%、「民放テレビ」58%》
11. 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいメディアは？…………… 13
 《「新聞」「NHK テレビ」「民放テレビ」ともに48%》
12. 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道は？…………… 14
 《新聞は「国民世論形成の役割を果たすような憲法報道」を》
13. 集団的自衛権に関する新聞の報道は？…………… 15
 《「分かりやすかった」が21%、「分かりにくかった」が23%》

《STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道》

14. STAP 細胞の論文不正疑惑に関する新聞報道の印象は？…………… 16
 《「報道が過剰だと感じた」が40%》
15. STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道でよかったと思うメディアは？…………… 17
 《「ない」が38%で最多。「NHK テレビ」30%、「新聞」と「民放テレビ」28%》

《新聞への意見》

16. 新聞についてどう思う？…………… 18
 《情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価》
17. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？…………… 20
 《「不正を追及」に4割が肯定。
 「政治家について全て報道している」には変わらず厳しい評価》
18. 新聞の政治的立場についてどう思う？…………… 22
 《欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず》
19. 新聞の記事の満足度は？…………… 23
 《ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い》
20. 新聞全般の満足度は？…………… 25
 《満足している人は53%、不満な人は7%。高年齢層で満足度が高い》

《生活の中の新聞》

21. 新聞を読んでいる人は？…………… 26
 《「読んでいる」は朝刊77%、夕刊27%。朝夕刊共に閲読率は前年より微減》
22. この1年間で新聞を読む回数や時間に変化は？…………… 28
 《「変わらない」が79%、「減った」が14%》
23. 新聞を読む時間は？…………… 29
 《平均時間は26分で前回から微減。若い世代ほど短い》
24. 新聞を読む場所は？…………… 30
 《新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心》
25. 新聞を読む理由は？…………… 31
 《新聞を読むことは生活の一部。
 1位「習慣になっている」、2位「世間の動きが分かる」》
26. よく読む新聞記事は？…………… 32
 《身近な記事が人気。1位「地元記事」、2位「社会記事」、3位「ラ・テ欄」》
27. 新聞を読まない理由は？…………… 33
 《1位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(73%)、
 昨年より6ポイント増》
28. 戸別配達をどう思う？…………… 34
 《日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」73%。2012年より減少続く》
29. 夕刊の発行をどう思う？…………… 35
 《「続けてほしい」は18%、前回から減少》
30. 月ぎめ新聞の購読状況は？…………… 36
 《78%が購読、購読率は初めて8割を切る》
31. 新聞の購読料をどう思う？…………… 38
 《「高い」とする人は53%。若い世代で負担感が大きい》

32. 通信社の役割を知っている？…………… 39

 《「役割を知っている」人の割合は前年に続き 50%超》

33. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？…………… 40

 《1 位「共同通信社」(69%)、2 位「ロイター通信」(68%) で順位変わらず》

《新聞のこれからとインターネット》

34. インターネットのニュースをどの程度見る？…………… 41

 《「インターネットニュースを毎日見る」20 代・30 代では半数超。

 インターネットニュースの毎日閲覧は全年代で前回より増加》

35. よく見るインターネットニュースの記事は？…………… 42

 《1 位「スポーツ・芸能に関する記事」(70%)、2 位「社会記事」(58%)》

36. インターネットニュースを見るサイトは？…………… 43

 《ポータルサイトが 89%、新聞社の公式サイトは 22%》

37. 将来の新聞の役割についてどう思う？…………… 44

 《新聞の役割減少派 43%、役割持続派 40%。役割減少派が初めて役割持続派を上回る》

38. 電子新聞の利用意向は？…………… 46

 《利用希望は伸びず。「利用してみたい」は 13%》

(注) 本文の見出しに (＊) があるのは昨年度調査と同一質問であることを示している。

《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？（＊）

－ 1位「NHK テレビ」71.1点、2位「新聞」69.2点、3位「民放テレビ」60.2点 －

- ・各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、平均点が最も高かったのは「NHK テレビ」で71.1点、次いで「新聞」が69.2点、「民放テレビ」が60.2点となっている。
- ・性別、年代別に見ても、「NHK テレビ」、「新聞」が全てのカテゴリで上位2位を占めており、幅広く厚い信頼を得ていることが分かる。
- ・第1回調査（2008年12月、標本数3,000、以下、「2008年度調査」と言う）、第2回調査（2009年10月、標本数5,000、以下、「2009年度調査」と言う）、第3回調査（2010年9月、標本数5,000、以下、「2010年度調査」と言う）、第4回調査（2011年9月、標本数5,000、以下、「2011年度調査」と言う）、第5回調査（2012年9月、標本数5,000、以下、「2012年度調査」と言う）、第6回調査（2013年9月、標本数5,000、以下、「2013年度調査」と言う）でも、1位「NHK テレビ」（2008年度74.0点、2009年度73.5点、2010年度73.5点、2011年度74.3点、2012年度70.1点、2013年度72.5点）、2位「新聞」（同72.0点、同70.9点、同72.0点、同72.0点、同68.9点、同70.7点）で、順位に変化はなかった。2012年度に過去最低となった信頼度は2013年度にかけて若干の回復がみられたが、今年度は再度低下に転じた。

図1-1 各メディアの信頼度

(n=3,270)

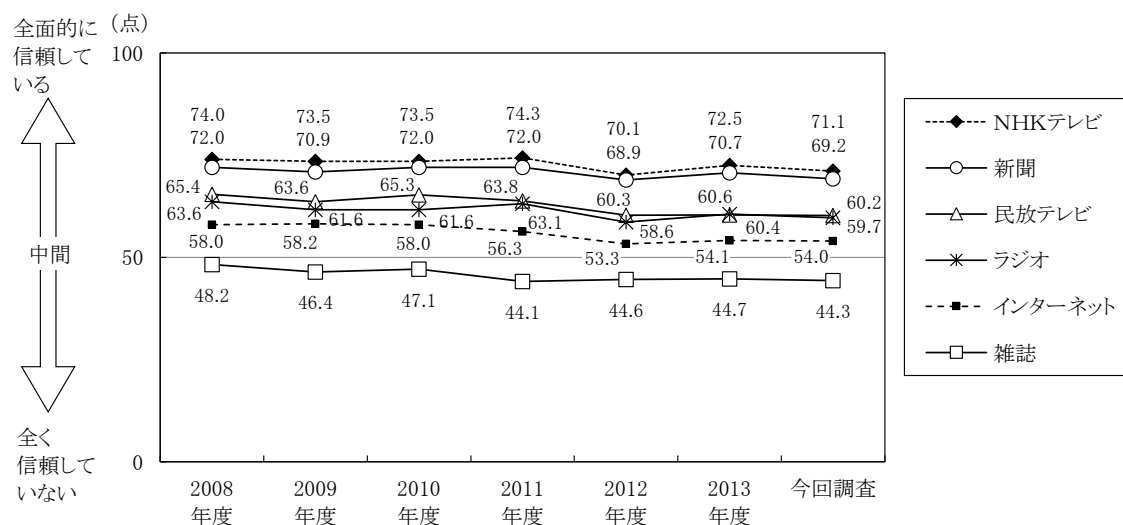


表1-1 各メディアの信頼度（性・年代別）

(n=3,270)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	(点)
総 数	NHKテレビ 71.1	新聞 69.2	民放テレビ 60.2	ラジオ 59.7	インターネット 54.0	雑誌 44.3	
男 性	NHKテレビ 70.8	新聞 68.5	ラジオ 59.3	民放テレビ 58.8	インターネット 53.3	雑誌 43.8	
女 性	NHKテレビ 71.3	新聞 69.9	民放テレビ 61.5	ラジオ 60.0	インターネット 54.6	雑誌 44.7	
18-19歳	NHKテレビ 69.4	新聞 63.5	民放テレビ 59.7	インターネット 55.6	ラジオ 54.4	雑誌 45.5	
20 代	NHKテレビ 67.5	新聞 64.9	民放テレビ 57.7	ラジオ 56.2	インターネット 53.6	雑誌 45.8	
30 代	NHKテレビ 67.6	新聞 66.1	民放テレビ 58.0	ラジオ 57.7	インターネット 55.1	雑誌 46.4	
40 代	NHKテレビ 71.1	新聞 69.8	民放テレビ 60.3	ラジオ 58.5	インターネット 54.3	雑誌 44.8	
50 代	NHKテレビ 71.3	新聞 70.9	民放テレビ 60.6	ラジオ 60.2	インターネット 55.0	雑誌 42.9	
60 代	NHKテレビ 72.4	新聞 70.3	ラジオ 61.8	民放テレビ 60.7	インターネット 53.8	雑誌 42.8	
70代以上	NHKテレビ 73.8	新聞 70.9	ラジオ 62.3	民放テレビ 62.0	インターネット 51.1	雑誌 43.9	

2. 各メディアにつけた信頼度得点に影響が大きかったのは？（＊）

－ 「情報源として欠かせない」「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」 －

- ・各メディアの信頼度得点をつける際に最も影響の大きい要因を聞いたところ、「情報源として欠かせない」が18.0%で最も多く、次いで、「情報が分かりやすい」が16.3%、「社会的影響力がある」が14.8%となった。また、「何となく」と回答した人の割合は7.3%となった。
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、60代までは年代が上がるほど割合が高くなり、50代以上では最も影響の大きい要因となった。一方、「何となく」と回答した人の割合は年代が低い層で割合が高くなった。「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」は全ての年代で10%以上の割合となった。

図2-1 各メディアの信頼度得点をつけた要因

(n=3,270)

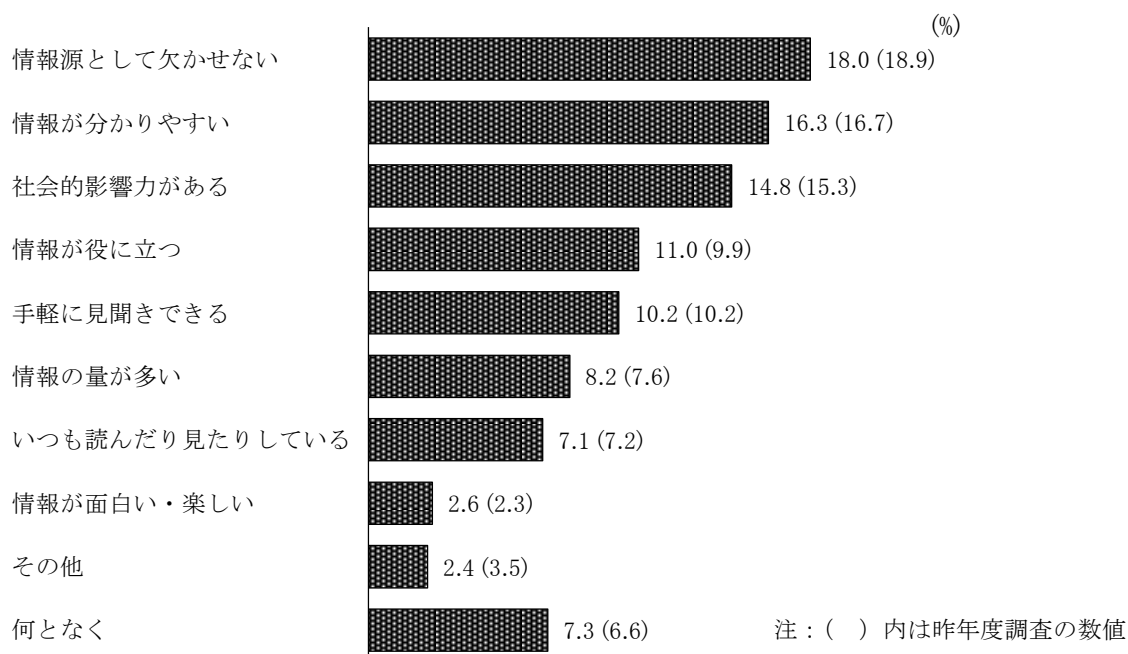
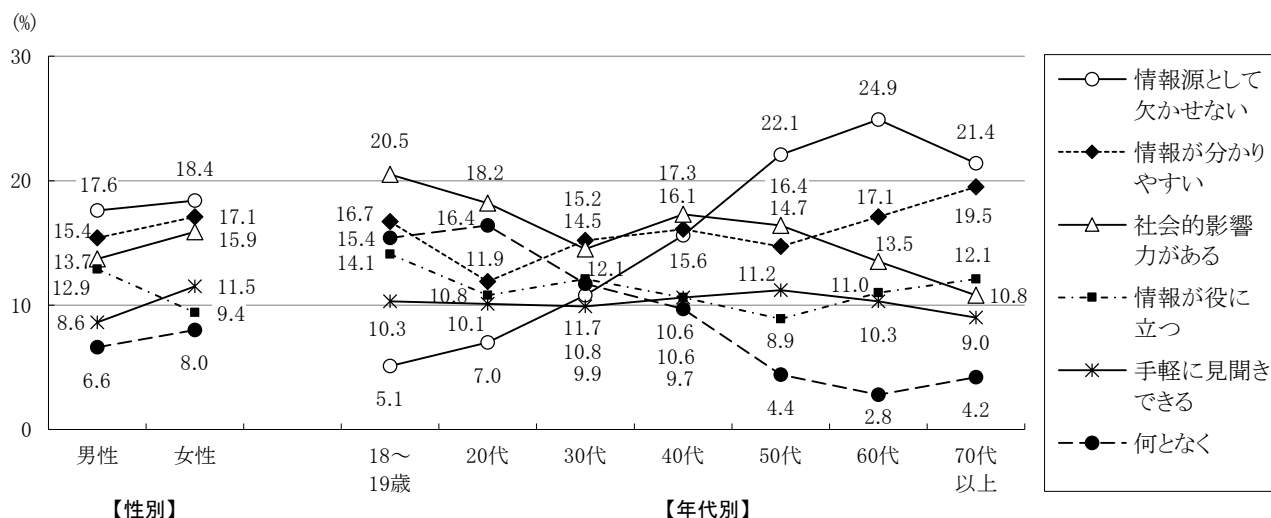


図2-2 各メディアの信頼度得点をつけた要因（性・年代別）

(n=3,270)



3. 各メディアの信頼感の変化は？（＊）

- － この１年間で新聞の信頼感が「低くなった」が5.6%から10.2%に増加、
低くなった理由は「誤報があったから」が28.7%で最多 －

- ・この１年間で各メディアの信頼感が変化したか尋ねたところ、全てのメディアで「変わらない」と回答した人が70%以上を占めた。「高くなった」は「インターネット」が8.4%と最も多く「NHK テレビ」5.9%、「新聞」3.9%となった。一方、「低くなった」は「雑誌」が16.9%と最も多く、「民放テレビ」12.2%、「インターネット」11.4%、「新聞」10.2%となった。「新聞」の信頼感が「低くなった」と回答した人の割合が昨年度から4.6ポイントの増加となった。
- ・新聞の信頼感が「高くなった」と答えた人にその理由を聞いたところ、「情報が正確だから」37.0%（前回調査30.6%）、「根拠に基づく情報を報道しているから」25.2%（前回調査25.5%）、「公正・中立な立場で報道しているから」21.3%（前回調査24.2%）となった。
- ・新聞の信頼感が「低くなった」と答えた人にその理由を聞いたところ、「誤報があったから」28.7%（前回調査4.3%）が24.4ポイント増加した。一方、「特定の勢力に偏った報道をしているから」25.1%（前回調査33.3%）は8.2ポイント、「政府や財界の主張通りに報道するだけだから」10.2%（前回調査21.5%）は10.3ポイント減少した。

図3-1 各メディアの信頼感の変化

(n=3,270)

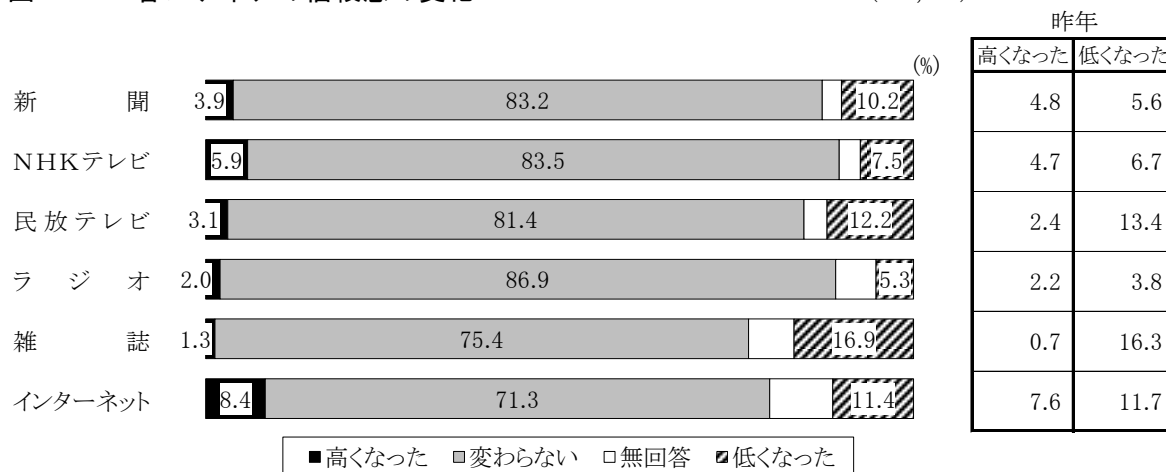


図3-2 新聞の信頼感が高くなった理由 (n=127)

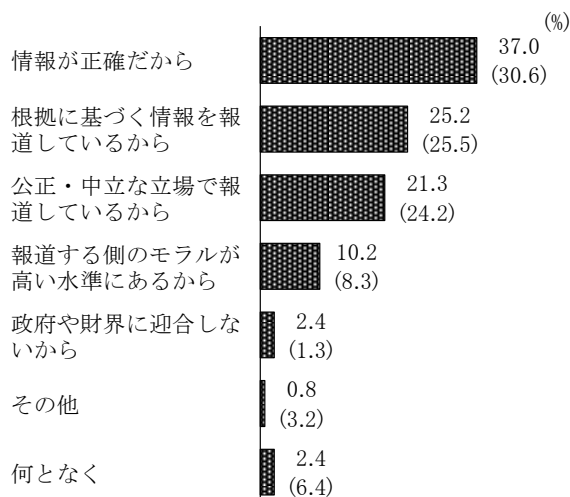
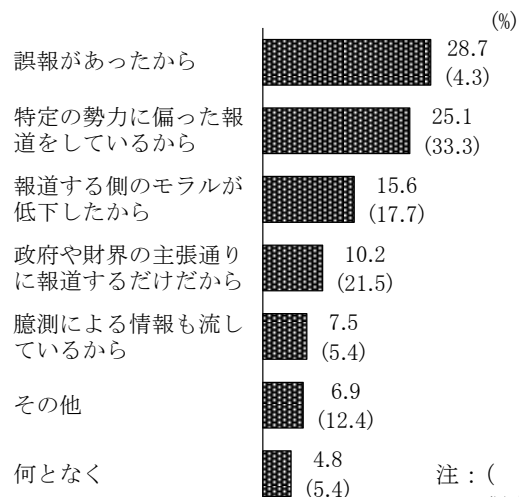


図3-3 新聞の信頼感が低くなった理由 (n=334)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

4. 各メディアの印象は？（＊）

－ 情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」 －

- ・各メディアの印象を聞いたところ、「情報が役に立つ」メディアとして新聞を挙げた人が 52.2%、「情報源として欠かせない」メディアとして新聞を挙げた人が 52.0%、「情報の量が多い」メディアとして新聞を挙げた人が 42.5%とそれぞれ 1 位となった。
- ・「情報が信頼できる」「社会的影響力がある」「情報が分かりやすい」ではNHKテレビが、「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」では民放テレビが 1 位となった。
- ・昨年度調査と比較すると、新聞は全ての項目の割合が、昨年より 3 ポイント以内ではあるが低下した。NHKテレビは「情報が信頼できる」の割合が 2.1 ポイント低下した。民放テレビ、ラジオはほとんど変化が見られなかった。一方、インターネットは、全ての項目で昨年より割合が上昇し、「情報の量が多い」「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」は 2 位、「情報が役に立つ」「情報源として欠かせない」は 3 位となった。
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、新聞では 60 代までは年代が上がるほど、インターネットでは 20 代以上で年代が下がるほど挙げる人の割合が高くなり、20～40 代ではインターネットが 1 位であったが、50 代以上では新聞が逆転して 1 位になった。「情報が信頼できる」は、NHKテレビと新聞では 50 代以上で 6 割以上と他の年代より高くなっているが、民放テレビでは年代差はあまり見られず、インターネットは 20 代から年代が上がるにつれ減少してくる。「手軽に見聞きできる」は、新聞とNHKテレビでは年代が上がるると多く挙げられる傾向にあるが、民放テレビでは年代差は小さい。インターネットは 40 代以下では他のメディアを大きく離して 1 位となっているが、50 代以降は年代が上がるにつれ顕著に減少している。

表 4-1 各メディアの印象

（複数回答、n=3,270）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
情報が役に立つ	新聞 52.2 (54.4)	NHKテレビ 45.9 (44.3)	インターネット 38.4 (36.7)	民放テレビ 38.3 (37.2)	ラジオ 13.0 (13.8)	雑誌 10.3 (10.8)
情報源として欠かせない	新聞 52.0 (54.6)	NHKテレビ 47.3 (46.0)	インターネット 39.8 (38.1)	民放テレビ 39.6 (40.0)	ラジオ 12.3 (13.6)	雑誌 5.9 (6.0)
情報の量が多い	新聞 42.5 (43.8)	インターネット 40.8 (39.4)	民放テレビ 31.4 (31.8)	NHKテレビ 26.5 (25.2)	雑誌 5.8 (5.7)	ラジオ 4.5 (4.9)
情報が信頼できる	NHKテレビ 63.7 (65.8)	新聞 58.2 (60.9)	民放テレビ 23.0 (22.2)	インターネット 13.2 (12.3)	ラジオ 12.7 (13.2)	雑誌 2.8 (2.2)
社会的影響力がある	NHKテレビ 59.9 (59.6)	新聞 55.3 (56.4)	民放テレビ 48.6 (49.4)	インターネット 35.8 (34.3)	ラジオ 9.5 (10.5)	雑誌 8.4 (9.0)
情報が分かりやすい	NHKテレビ 49.1 (49.5)	民放テレビ 44.0 (43.8)	新聞 39.5 (41.4)	インターネット 25.1 (22.6)	ラジオ 9.0 (10.3)	雑誌 6.0 (5.5)
情報が面白い・楽しい	民放テレビ 61.4 (61.9)	インターネット 37.5 (35.1)	雑誌 22.4 (21.2)	NHKテレビ 19.1 (19.9)	新聞 17.6 (18.3)	ラジオ 13.0 (13.0)
手軽に見聞きできる	民放テレビ 51.2 (52.1)	インターネット 47.2 (45.2)	新聞 44.1 (46.6)	NHKテレビ 37.9 (38.7)	ラジオ 16.2 (17.2)	雑誌 9.9 (11.2)

注：（ ）内は昨年度調査の数値

図４－１ 「情報源として欠かせない」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）

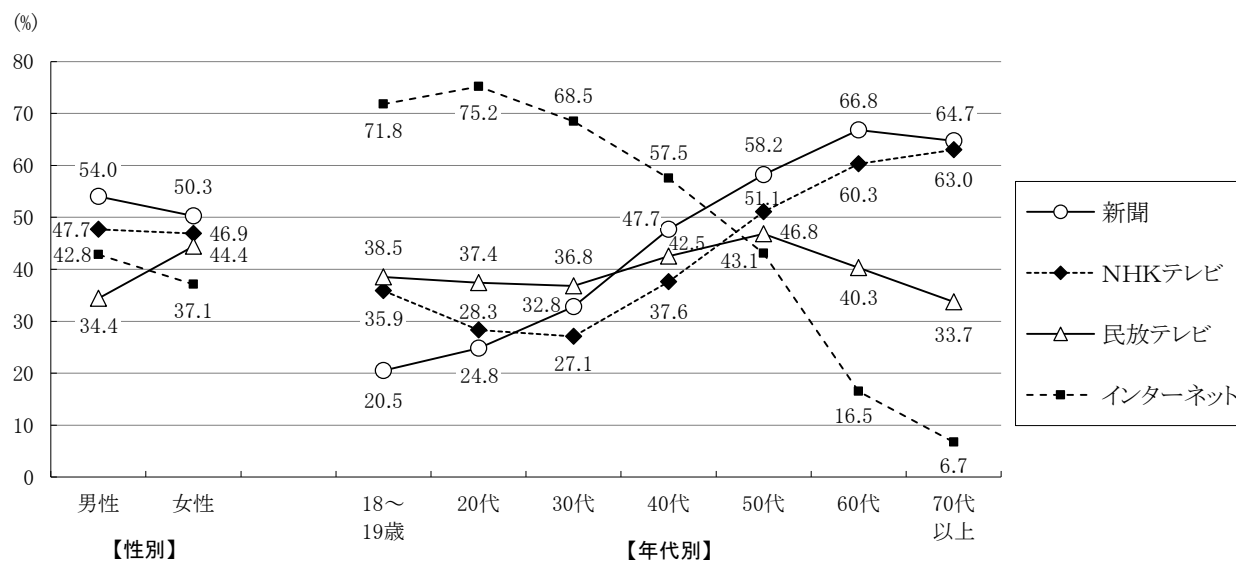


図４－２ 「情報が信頼できる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）

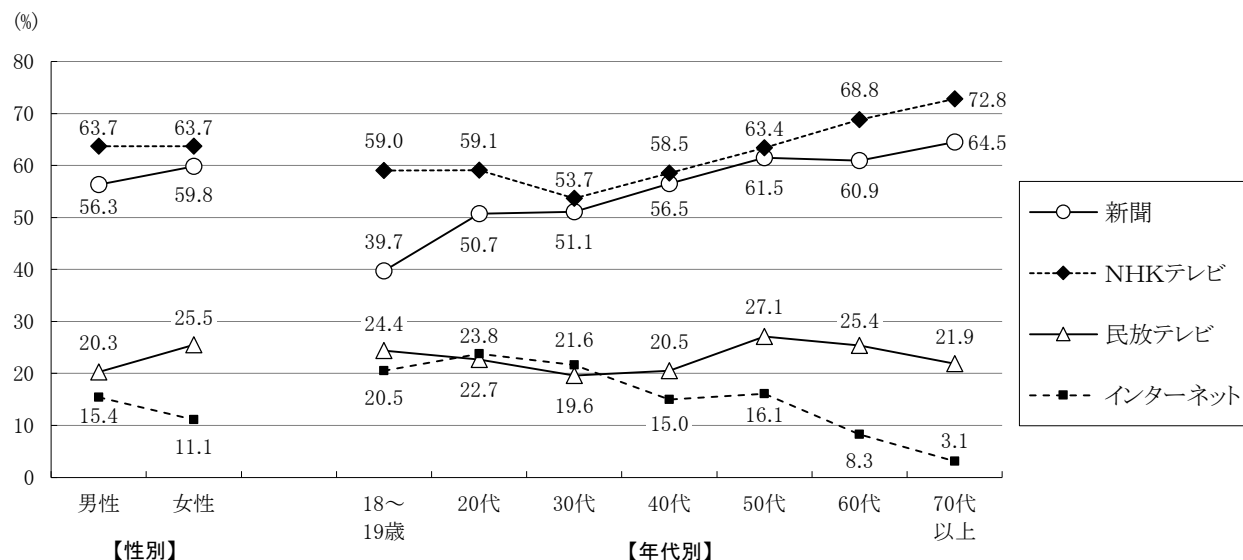
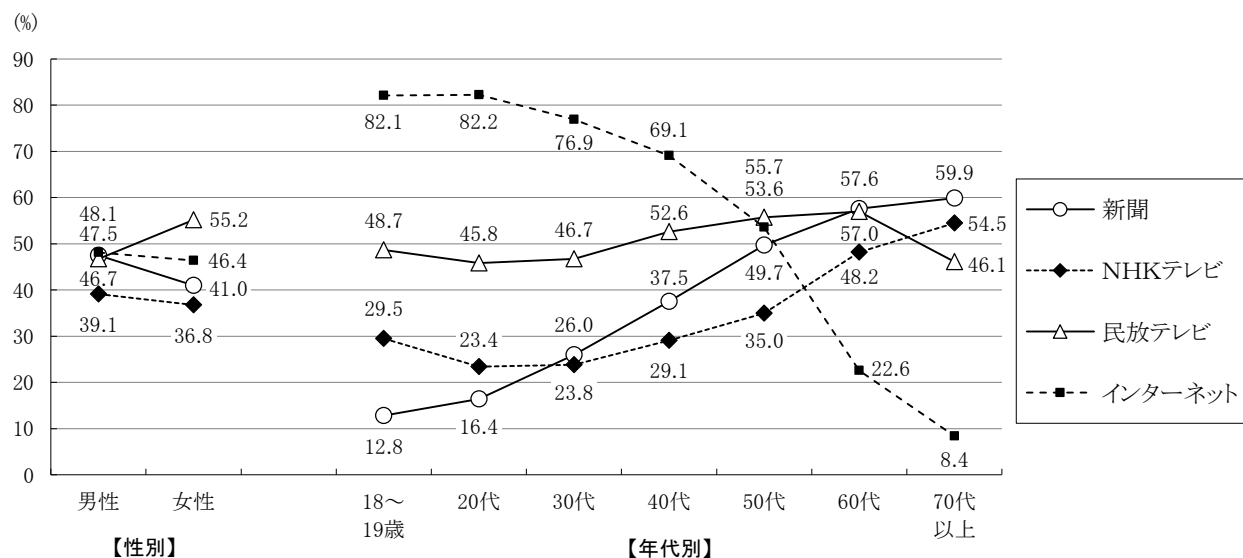


図４－３ 「手軽に見聞きできる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）



《原発関連報道について》

5. 放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発廃炉などの問題に関心がある？

－ 「関心がある」86%、男性や高年層ほど「非常に関心がある」 －

- ・放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発の廃炉などの問題に関心があるか質問したところ、「関心がある」と答えた人が85.6%（「非常に関心がある」33.3%と「やや関心がある」52.3%の計）、「関心がない」と答えた人が13.3%（「あまり関心がない」11.8%と「全く関心がない」1.5%の計）となった。
- ・「関心がある」と答えた人の割合は性別、年代別で大差ないが、そのうち「非常に関心がある」と答えた人の割合を性別に見ると、女性が28.0%に対し男性が39.2%と、男性の方が11.2ポイント高かった。年代別に見ると、「非常に関心がある」と答えた人の割合は年代が上がるに従って高くなっていく。

図5-1 放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発の廃炉などの問題への関心

(n=3,270)

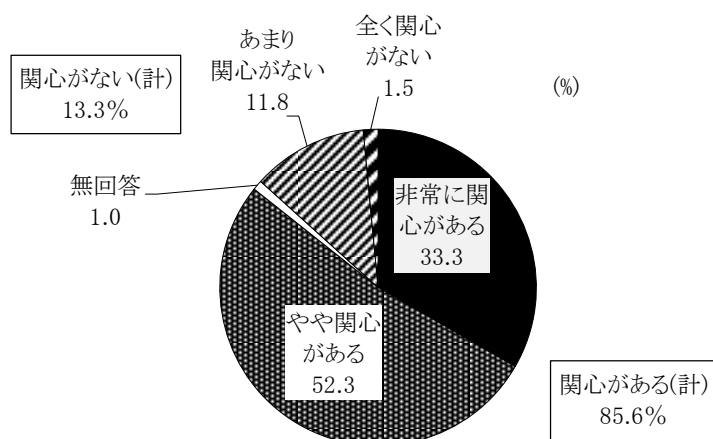
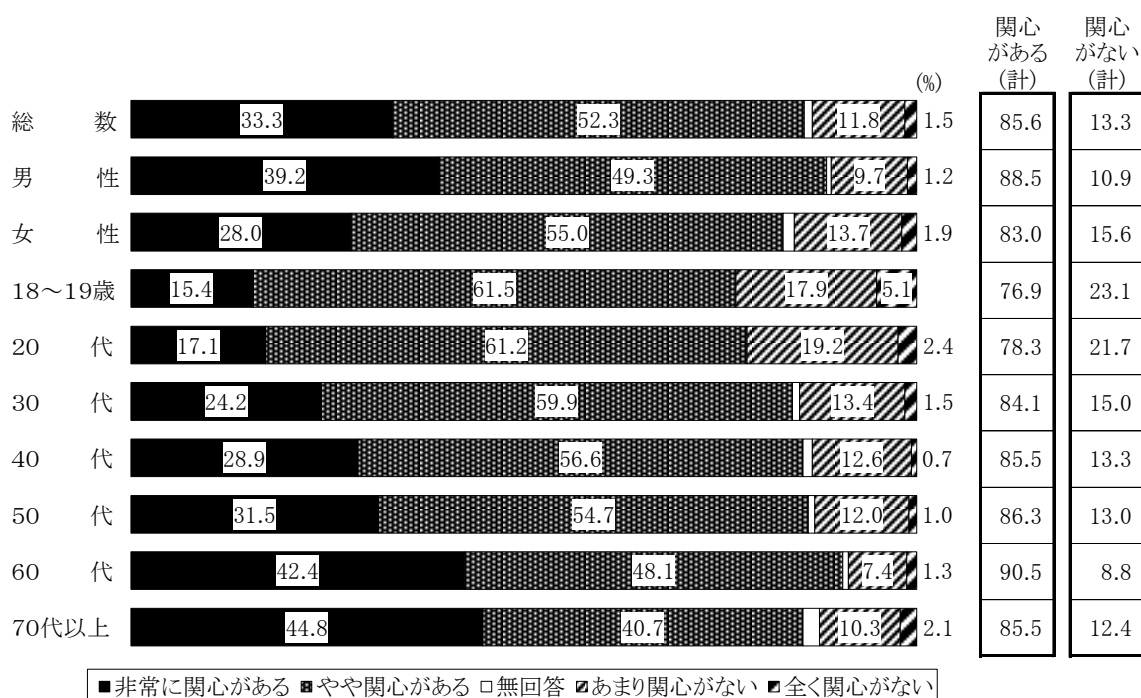


図5-2 放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発の廃炉などの問題への関心（性・年代別）

(n=3,270)



6. 各メディアの放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、 原発廃炉に関する報道の印象は？

－ 新聞は「正確な報道」「参考になる」で他メディアより評価 －

- ・放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発の廃炉に関する報道について、各メディアの印象を聞いたところ、新聞が「事実が正確に報道されている」で 50.9%、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になる」で 47.6%と 1 位になった。
- ・NHKテレビは「他のメディアの情報より信頼している」で 47.0%、「この問題に対する報道姿勢がよいと評価できる」で 44.4%と 1 位となった。民放テレビは「いろいろな立場の専門家の意見を比較できる」で 46.0%、「難しい内容が分かりやすく解説されている」で 41.8%と 1 位となった。
- ・一方、「政府や電力会社に都合の悪いことは報道していないと感じる」はNHKテレビが 44.0%、「やみくもに不安をあおるような報道が多いと感じる」は民放テレビが 50.7%と他のメディアより割合が高かった。
- ・年代別に見ると「他のメディアの情報より信頼している」はNHKテレビと新聞が全年代で 1 位～2 位となった。「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になる」は、30 代以下の年代ではインターネットが 1 位、40 代以上の年代では新聞が 1 位となっており、年代が上がるほど新聞が参考になるとする傾向が見られた。「政府や電力会社に都合の悪いことは報道していないと感じる」については、30 代以下の年代では民放テレビが 1 位、40 代以上の年代ではNHKテレビが 1 位となった。新聞は 60 代以下ではNHKテレビ、民放テレビより低い結果となった。

表 6-1 放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理、原発の廃炉に関する報道について各メディアの印象
(複数回答、n=3,270)

	(%)				
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
事実が正確に報道されている	新聞 50.9	NHKテレビ 49.6	民放テレビ 24.1	インターネット 13.9	雑誌 3.5
自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になる	新聞 47.6	NHKテレビ 40.7	民放テレビ 36.0	インターネット 23.9	雑誌 6.7
他のメディアの情報より信頼している	NHKテレビ 47.0	新聞 44.9	民放テレビ 14.2	インターネット 11.7	雑誌 2.2
この問題に対する報道姿勢がよいと評価できる	NHKテレビ 44.4	新聞 42.5	民放テレビ 18.0	インターネット 8.7	雑誌 2.3
政府や電力会社に都合の悪いことは報道していないと感じる	NHKテレビ 44.0	民放テレビ 39.6	新聞 34.4	雑誌 15.1	インターネット 9.4
やみくもに不安をあおるような報道が多いと感じる	民放テレビ 50.7	雑誌 36.6	インターネット 24.4	新聞 12.9	NHKテレビ 11.1
いろいろな立場の専門家の意見を比較できる	民放テレビ 46.0	NHKテレビ 33.3	新聞 26.2	インターネット 17.1	雑誌 5.4
難しい内容が分かりやすく解説されている	民放テレビ 41.8	NHKテレビ 34.8	新聞 33.1	インターネット 16.4	雑誌 5.4

図6-1 「他のメディアの情報より信頼している」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）

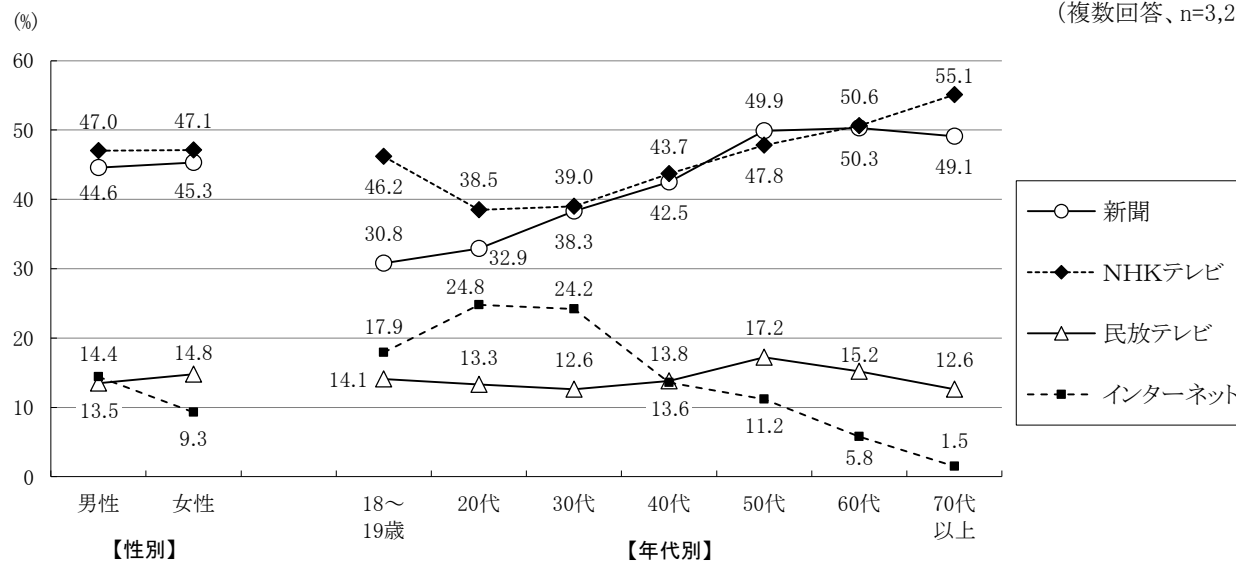


図6-2 「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）

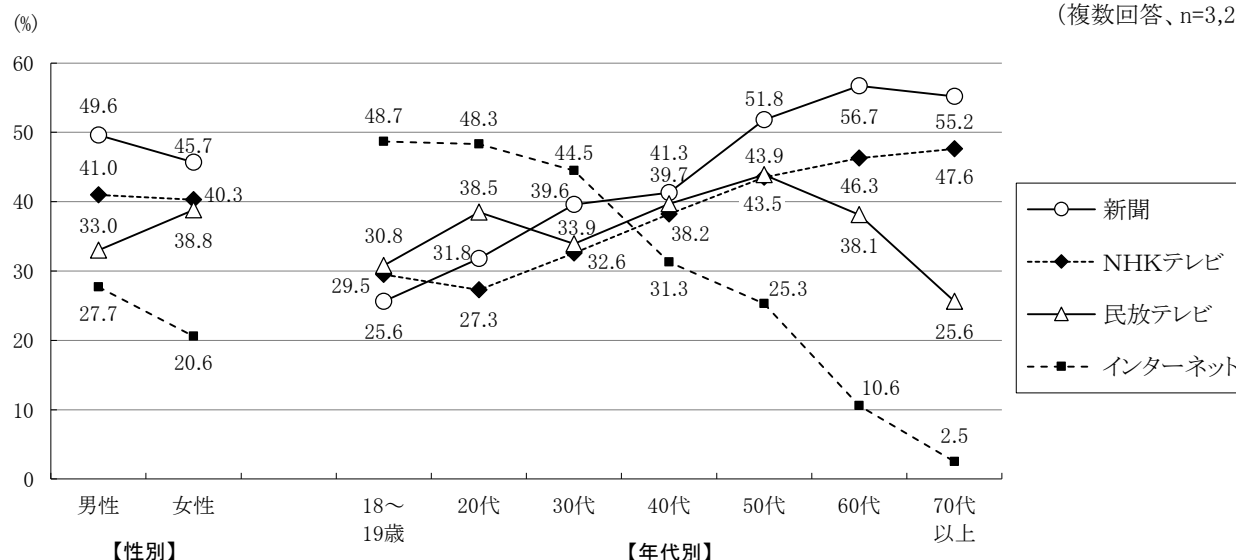
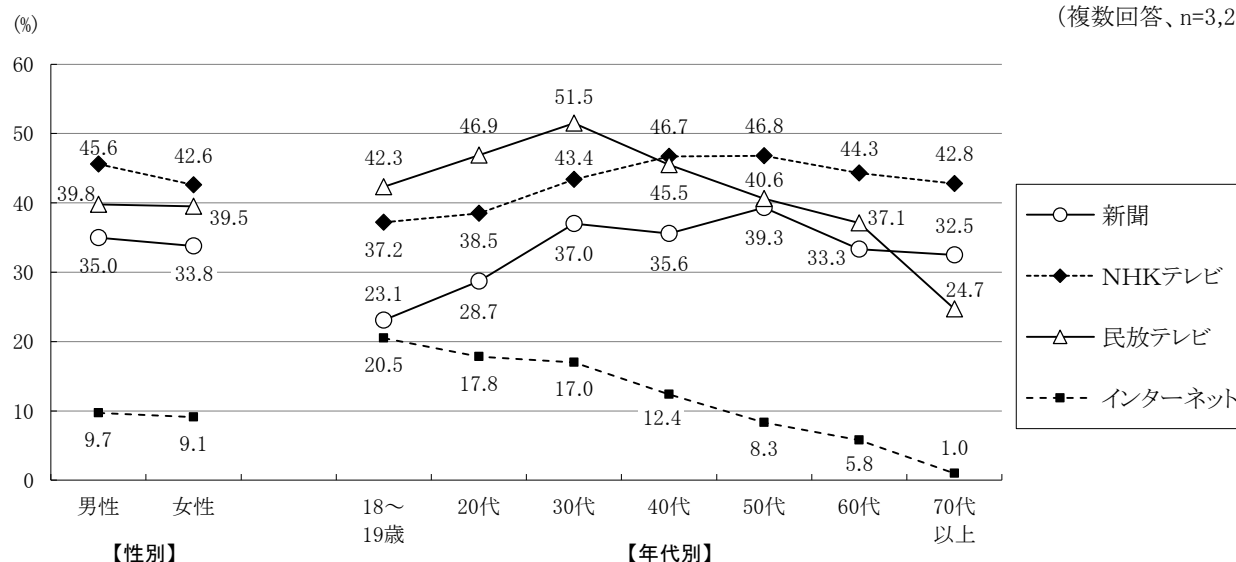


図6-3 「政府や電力会社に都合の悪いことは報道していないと感じる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）



7. 今後、新聞に期待する原子力発電についての報道は？

－ 「放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理について」が63%で最多 －

- ・ 今後、新聞に期待する原子力発電についての報道を尋ねたところ、多い順に「放射性廃棄物や使用済み核燃料の処理について」が62.8%、「放射能の拡散状況や健康への影響」が62.3%、「原子力発電を継続もしくは廃止した場合の生活への影響」が60.9%となった。
- ・ 性別に見ると、「放射能の拡散状況や健康への影響」は女性の方が挙げる割合が10.5ポイント多かった。一方、「原子力発電の廃炉問題について」は男性の方が挙げる割合が5.3ポイント、「原子力発電の再稼働について」は男性の方が挙げる割合が7.6ポイント多かった。年代別に見ると、20代以上の全ての年代で上位3項目が50%以上の割合で挙げられており、年代を問わず要望が高いことが分かった。

図7-1 今後、新聞に期待する原子力発電についての報道

(複数回答、n=3,270)

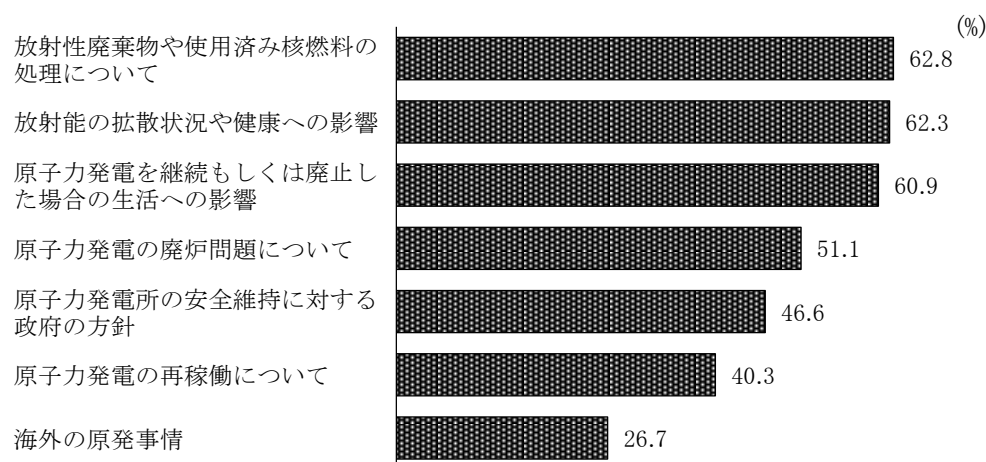
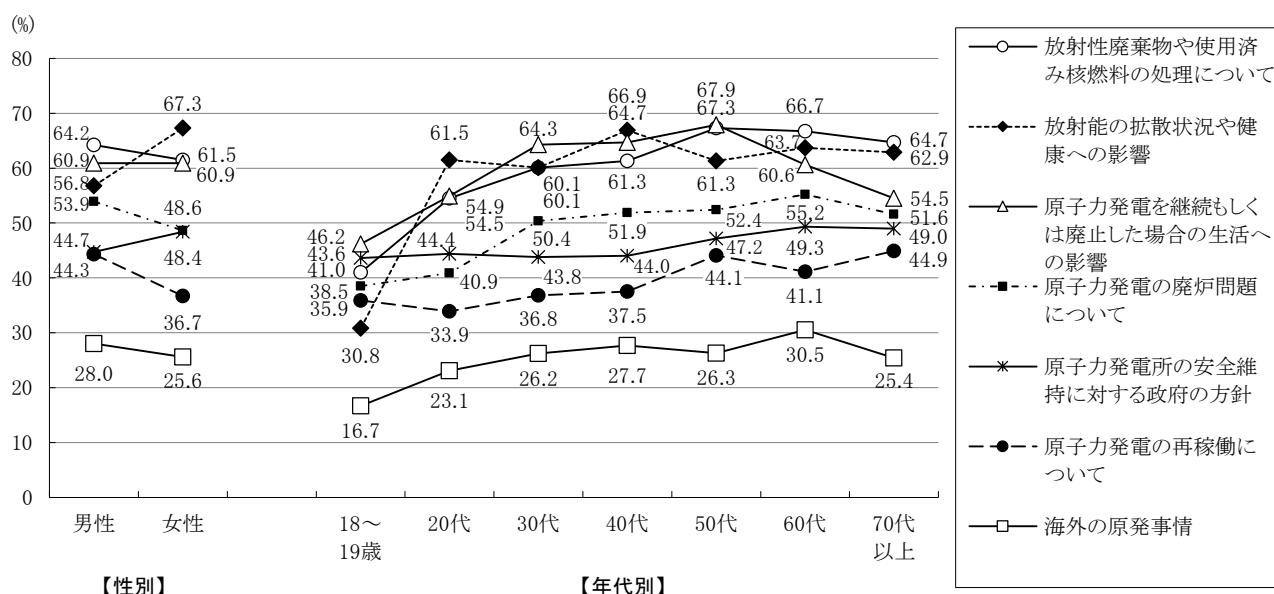


図7-2 今後、新聞に期待する原子力発電についての報道（性・年代別）

(複数回答、n=3,270)



8. 今後、新聞に期待する日本のエネルギーに関する報道は？

ー 「自然エネルギーのメリット・デメリットについて」が72%で最多 ー

- ・ 今後、新聞に期待する日本のエネルギーに関する報道を尋ねたところ、多い順に「自然エネルギー（太陽光・風力・水力・地熱など）のメリット・デメリットについて」が 71.8%、「電気料金の値上がりなど生活への影響」が 58.6%、「電気の安定供給に関して」が 43.8%、「日本の経済や産業への影響」が 43.5%となった。
- ・ 性別に見ると、男女とも「自然エネルギーのメリット・デメリットについて」が 1 位、「電気料金の値上がりなど生活への影響」が 2 位に挙げられたが、男性で 3 位に挙げられた「日本の経済や産業への影響」は男性の方が挙げる割合が 9.6 ポイント多く、女性では 5 位であった。年代別に見ると、全年代で「自然エネルギーのメリット・デメリットについて」が 1 位、「電気料金の値上がりなど生活への影響」が 2 位に挙げられたが、「自然エネルギーのメリット・デメリットについて」は 60 代までは年代の上昇とともに割合も高くなっているのに対し、「電気料金の値上がりなど生活への影響」は 30 代と 40 代をピークに 18-19 歳と 60 代が低くなる曲線を描いている。

図 8-1 今後、新聞に期待する日本のエネルギーに関する報道

(複数回答、n=3,270)

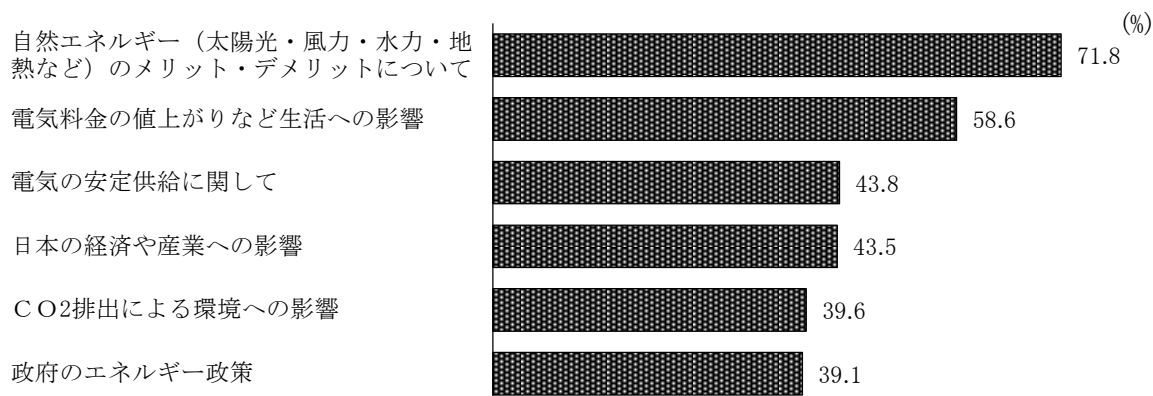
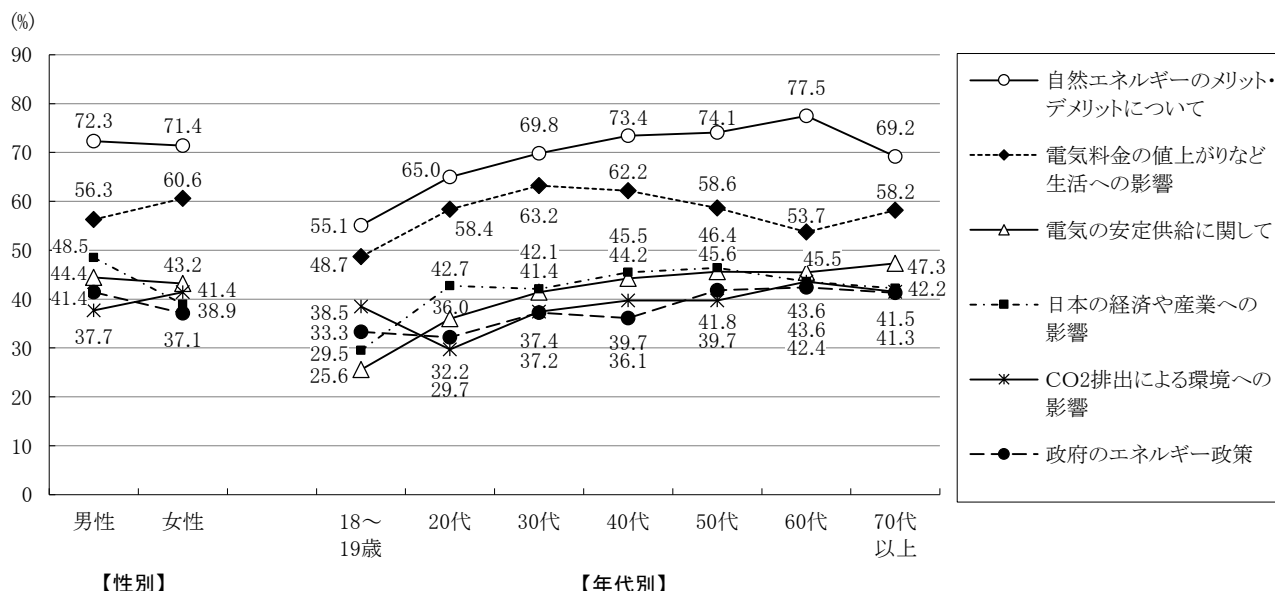


図 8-2 今後、新聞に期待する日本のエネルギーに関する報道（性・年代別）

(複数回答、n=3,270)



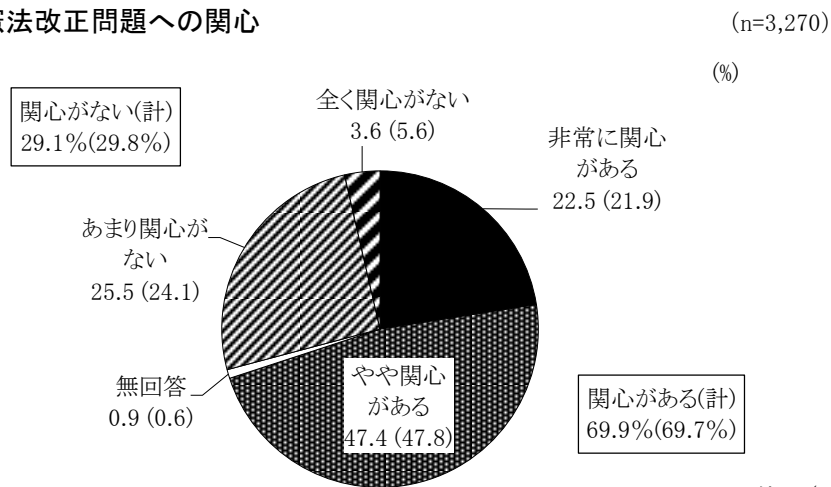
≪憲法改正問題に関する報道≫

9. 憲法改正問題に関心がある？（＊）

— 「関心がある」7割と依然高い —

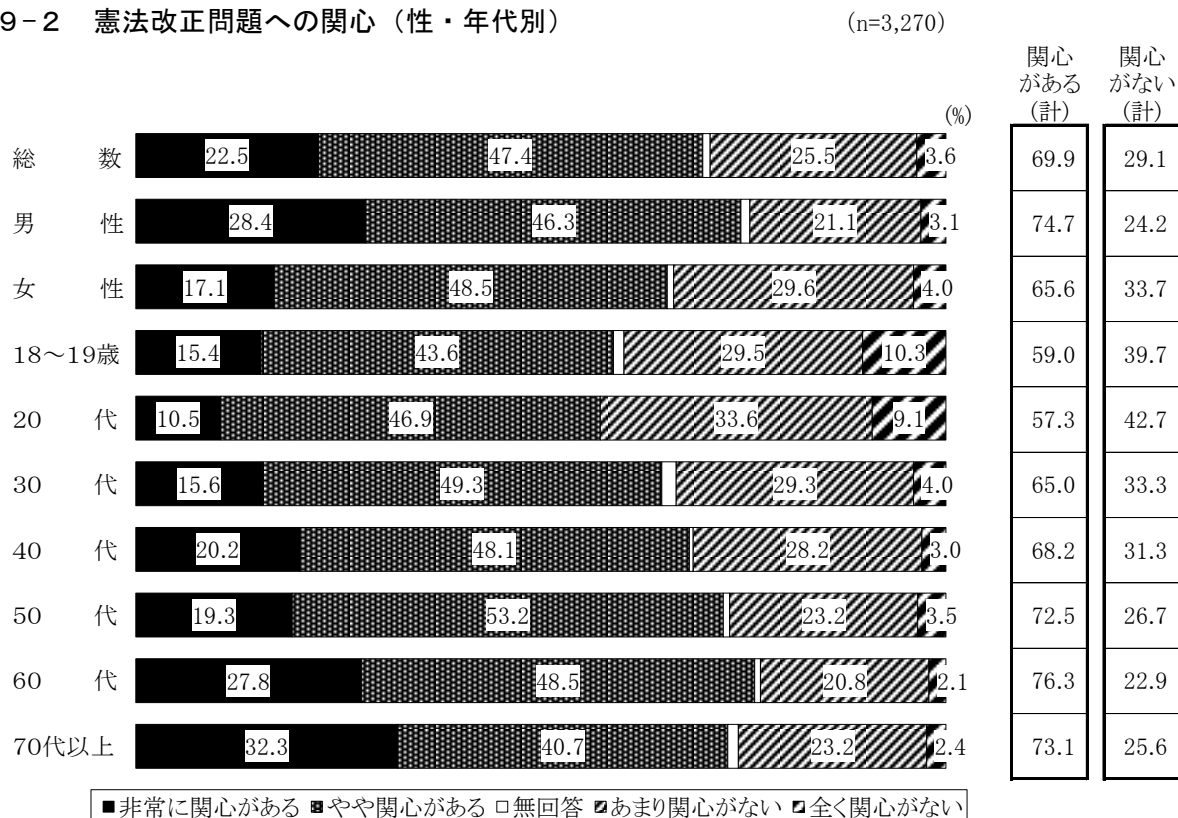
- ・憲法改正問題に関心があるか質問したところ、「関心がある」と答えた人が69.9%（「非常に関心がある」22.5%と「やや関心がある」47.4%の計）、「関心がない」と答えた人が29.1%（「あまり関心がない」25.5%と「全く関心がない」3.6%の計）となった。昨年度調査同様、依然高い関心がある。
- ・性別に見ると、「関心がある」と答えた人の割合は、女性が65.6%に対し男性が74.7%と、男性の方が9.1ポイント高かった。年代別に見ると、最も関心が高かったのが60代で76.3%、続いて70代以上で73.1%、50代で72.5%という結果になった。

図9-1 憲法改正問題への関心



注：（ ）内は昨年度調査の数値

図9-2 憲法改正問題への関心（性・年代別）



10. 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディアは？（＊）

－ 「新聞」と「NHK テレビ」60%、「民放テレビ」58% －

- ・憲法改正問題に関する情報をどのメディアから入手しているか質問したところ、「新聞」を挙げた人が60.3%と最も多く、以下、「NHKテレビ」が59.8%、「民放テレビ」が57.9%、「インターネット」が25.8%という結果になった。前回調査と比べると、いずれのメディアも増加し、新聞は2.0ポイント増、NHKテレビは5.7ポイント増、民放テレビは5.3ポイント増、インターネットは4.6ポイント増となった。
- ・年代別に見ると、40代以下では民放テレビが1位、50代・60代では新聞が1位、70代以上ではNHKテレビが1位となった。また、30代以下ではインターネットが2位となり、3位のNHKテレビ、4位の新聞を上回った。新聞、NHKテレビは年代の上昇とともに割合が高くなるが、インターネットは年代が低いほど割合が高くなる傾向にある。

図 10-1 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディア

（複数回答、n=3,270）

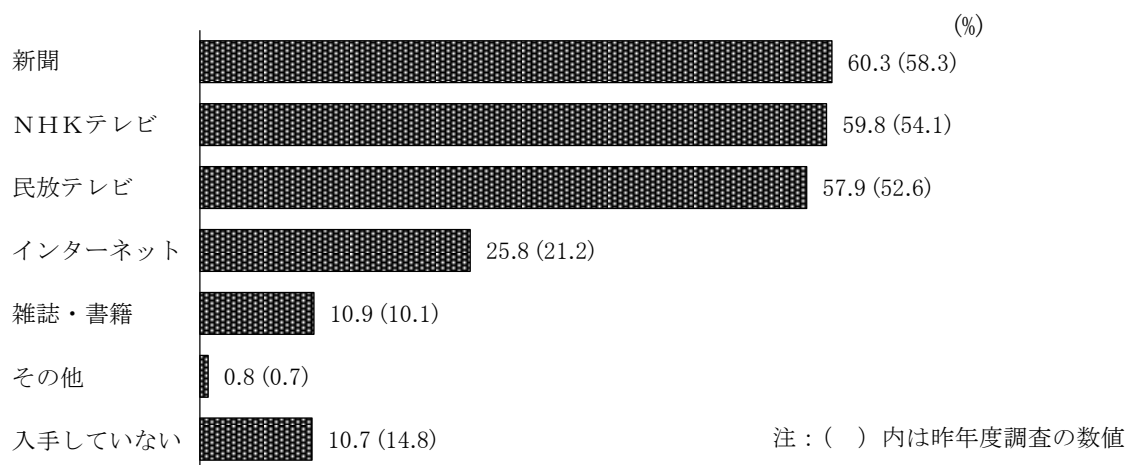


表 10-1 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディア（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	5 位
総 数	新聞 60.3	NHKテレビ 59.8	民放テレビ 57.9	インターネット 25.8	雑誌・書籍 10.9	入手していない 10.7
男 性	新聞 65.1	NHKテレビ 62.7	民放テレビ 56.3	インターネット 32.7	雑誌・書籍 12.7	入手していない 7.7
女 性	民放テレビ 59.4	NHKテレビ 57.0	新聞 55.9	インターネット 19.6	入手していない 13.5	雑誌・書籍 9.2
18-19歳	民放テレビ 52.6	インターネット 37.2	NHKテレビ 35.9	新聞 24.4	入手していない 21.8	雑誌・書籍 2.6
20 代	民放テレビ 54.2	インターネット 46.5	NHKテレビ 39.9	新聞 30.4	入手していない 19.6	雑誌・書籍 7.7
30 代	民放テレビ 55.1	インターネット 48.5	NHKテレビ 41.2	新聞 40.1	入手していない 14.8	雑誌・書籍 8.4
40 代	民放テレビ 60.7	NHKテレビ 53.1	新聞 52.1	インターネット 37.3	入手していない 12.1	雑誌・書籍 10.6
50 代	新聞 69.2	民放テレビ 65.8	NHKテレビ 62.3	インターネット 26.3	雑誌・書籍 13.2	入手していない 7.5
60 代	新聞 76.6	NHKテレビ 71.7	民放テレビ 60.9	雑誌・書籍 13.1	インターネット 12.1	入手していない 5.7
70代以上	NHKテレビ 75.6	新聞 74.9	民放テレビ 50.6	雑誌・書籍 11.1	入手していない 9.3	インターネット 3.6

(憲法改正問題に関する情報を入手している人に)(全体の 88.4%)

11. 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいメディアは？（＊）

－ 「新聞」「NHK テレビ」「民放テレビ」ともに 48% －

- ・憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディアを挙げてもらったところ、「民放テレビ」が 48.4%、「NHKテレビ」が 47.9%、「新聞」が 47.8%、「インターネット」が 17.4%という結果になった。前回調査では、新聞がNHKテレビと民放テレビより多かったが、今回調査では3つのメディアの評価は同等となった。
- ・性別に見ると、男性では新聞・NHKテレビ・民放テレビの順であったが、女性は民放テレビが1位であった。年代別にみると、60代以上では新聞・NHKテレビ・民放テレビの順であったが、50代以下では民放テレビが1位となった。また、30代以下では情報入手メディア同様、インターネットが2位となった。新聞、NHKテレビは年代の上昇とともに割合が高くなるが、インターネットは年代が低いほど割合が高くなる傾向にある。

図 11-1 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディア

(複数回答、n=2,891)

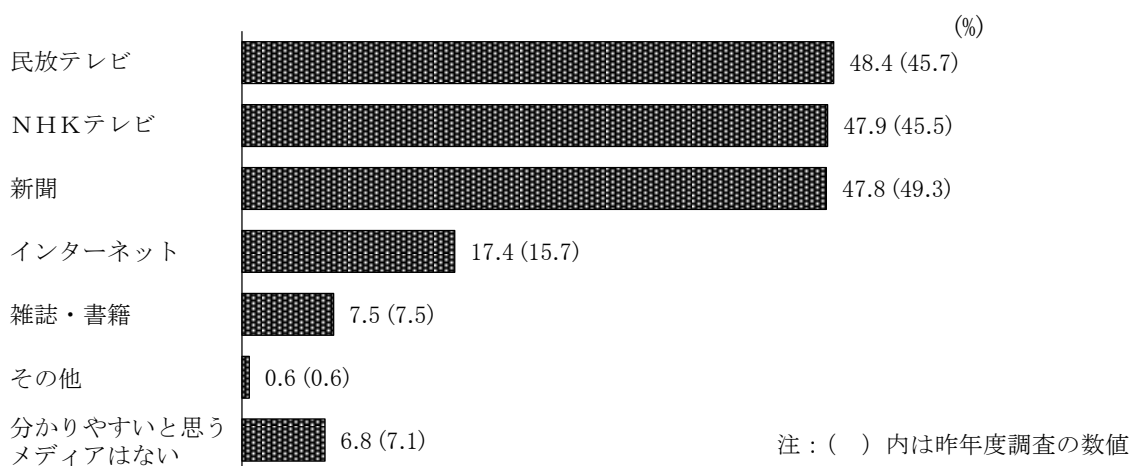


表 11-1 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディア（性・年代別）（複数回答、n=2,891）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
総 数	民放テレビ 48.4	NHKテレビ 47.9	新聞 47.8	インターネット 17.4	雑誌・書籍 7.5
男 性	新聞 52.7	NHKテレビ 49.7	民放テレビ 44.5	インターネット 21.8	雑誌・書籍 9.3
女 性	民放テレビ 52.2	NHKテレビ 46.1	新聞 43.1	インターネット 13.0	雑誌・書籍 5.7
18-19歳	民放テレビ 55.9	インターネット 32.2	NHKテレビ 27.1	新聞 22.0	雑誌・書籍 3.4
20 代	民放テレビ 46.7	インターネット 39.3	NHKテレビ 32.3	新聞 23.1	雑誌・書籍 4.8
30 代	民放テレビ 47.2	インターネット 35.6	新聞 31.7	NHKテレビ 29.6	雑誌・書籍 5.5
40 代	民放テレビ 51.7	NHKテレビ 39.6	新聞 38.5	インターネット 24.2	雑誌・書籍 7.3
50 代	民放テレビ 50.4	新聞 46.0	NHKテレビ 44.6	インターネット 16.3	雑誌・書籍 9.0
60 代	新聞 59.9	NHKテレビ 58.1	民放テレビ 50.6	雑誌・書籍 8.3	インターネット 6.8
70代以上	新聞 67.1	NHKテレビ 66.6	民放テレビ 42.1	雑誌・書籍 8.4	インターネット 1.8

12. 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道は？（＊）

－ 新聞は「国民世論形成の役割を果たすような憲法報道」を －

- ・今後、国会で憲法改正問題が議論されていく中で新聞に期待する報道を尋ねたところ、前回同様、「現行の憲法について詳しく解説してほしい」54.5%、「政党の意見の違いがよく分かるような報道をしてほしい」51.0%が多かった。
- ・「国民世論を形成する中心的な役割を果たすような報道をしてほしい」は30.8%（前回調査21.0%）、「憲法改正の賛否については、新聞社の立場を明確にしてほしい」は18.7%（前回調査10.9%）とそれぞれ増加した。昨年から議論が続く中で、人々が新聞に求めることに変化が生じている。
- ・性別に見ると、「現行の憲法についての詳しい解説」は女性の方が挙げる割合が5.0ポイント多く、「政党の意見の違い」は男性の方が挙げる割合が4.0ポイント多かった。また、「新聞社の立場を明確に」は10.8ポイント、「海外における改憲の実情や、日本の現況に対する反応」は6.8ポイント、男性の方が挙げる割合が多かった。年代別に見ると、全ての年代で「現行の憲法についての詳しい解説」が1位、「政党の意見の違い」が2位となった。「国民世論を形成」は年代が高い層で割合が高かった。

図 12-1 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道

（複数回答、n=3,270）

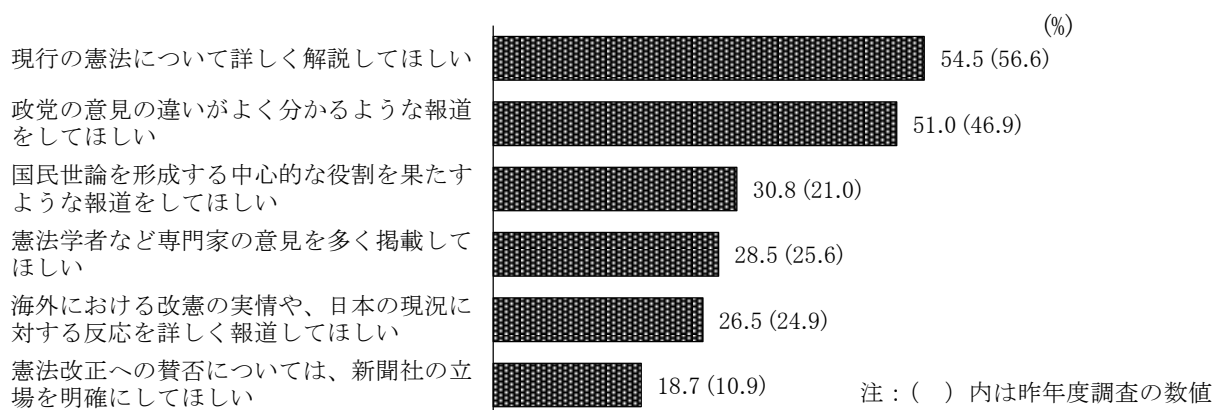
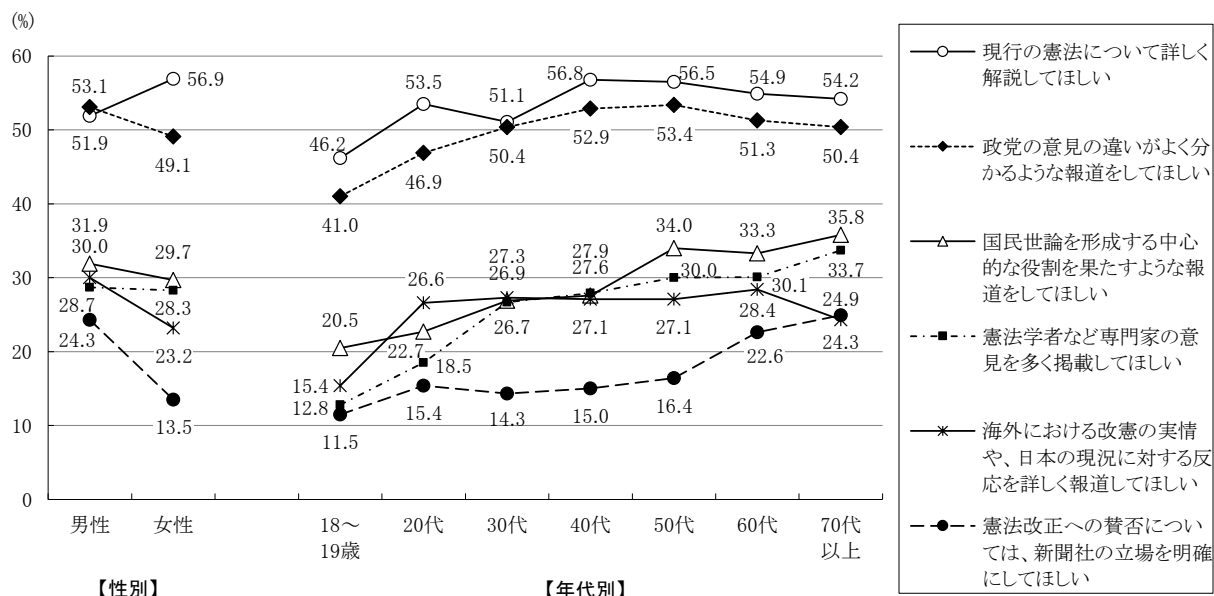


図 12-2 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道（性・年代別）

（複数回答、n=3,270）



13. 集団的自衛権に関する新聞の報道は？

－ 「分かりやすかった」が21%、「分かりにくかった」が23% －

- ・集団的自衛権に関する新聞報道に、「分かりやすかった」と答えた人が21.0%（「分かりやすかった」2.8%と「どちらかと言えば分かりやすかった」18.3%の計）、「分かりにくかった」と答えた人が22.6%（「どちらかと言えば分かりにくかった」16.3%と「分かりにくかった」6.4%の計）となった。「どちらとも言えない」と答えた人が54.1%と半数以上を占めた。
- ・性別に見ると、「分かりやすかった」と答えた人の割合は、女性が17.2%に対し男性が25.3%と、男性の方が8.1ポイント高かった。年代別に見ると、「分かりやすかった」と答えた人の割合が最も低い20代の12.2%から年代の上昇に従って割合が高くなり、60代で25.0%、70代以上で24.1%となった。

図 13-1 集団的自衛権に関する新聞報道の評価

(n=3,270)

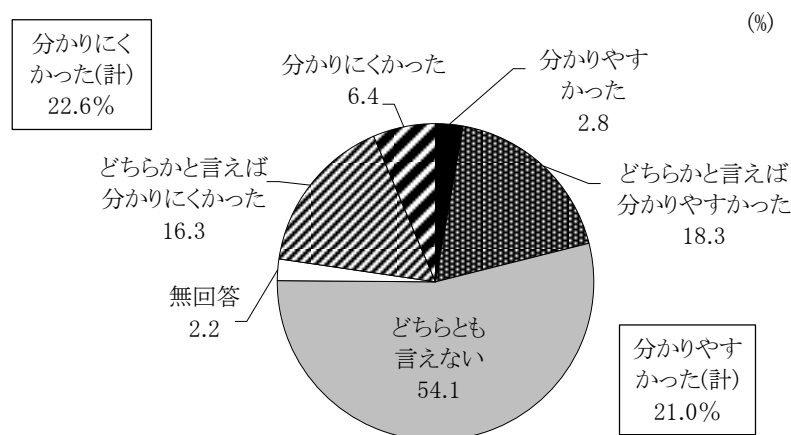
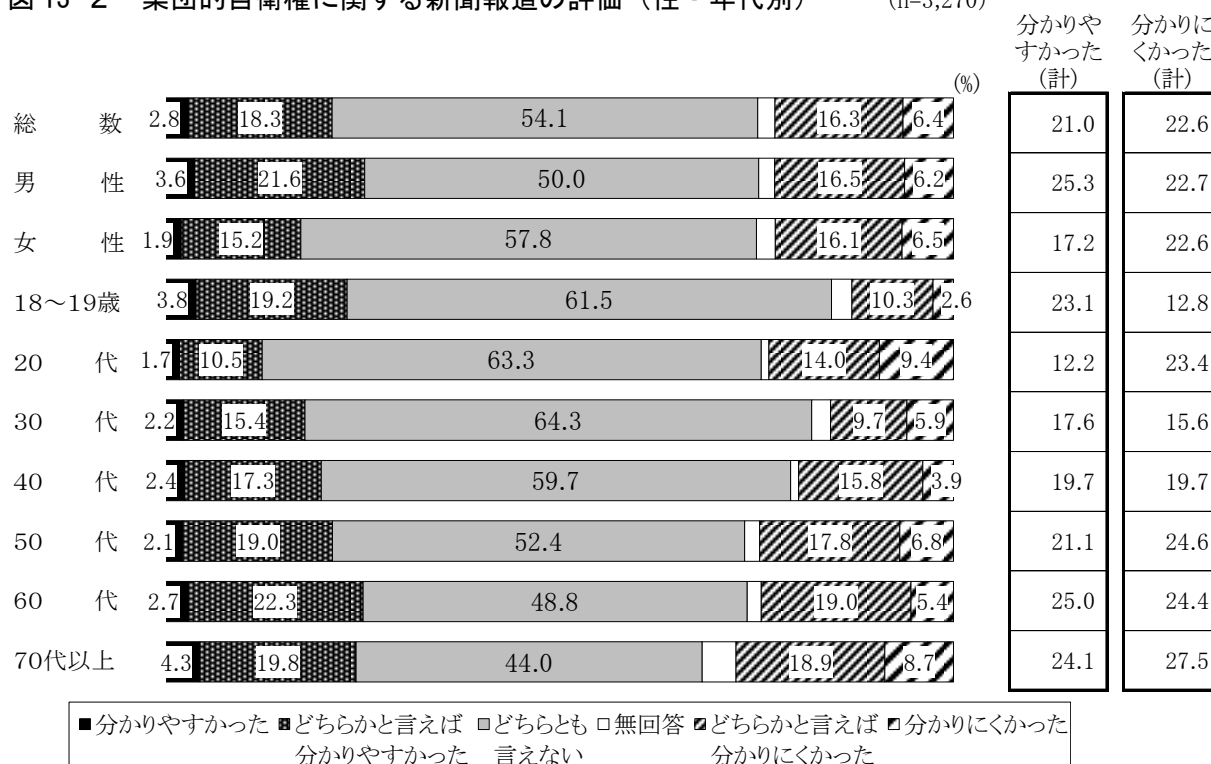


図 13-2 集団的自衛権に関する新聞報道の評価（性・年代別）

(n=3,270)



<<STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道>>

14. STAP 細胞の論文不正疑惑に関する新聞報道の印象は？

— 「報道が過剰だと感じた」が 40% —

- STAP 細胞の論文不正疑惑に関する新聞報道の印象を聞いたところ、「報道が過剰だと感じた」が 39.8%と最も多かった。以下、「不正疑惑が生じた後に、新たな視点の報道が少なかった」が 24.7%、「知りたいことが報道されていないと感じた」が 22.6%、「特定の立場に偏った報道が多いと感じた」が 22.4%という結果になった。
- 性別に見ると、いずれの印象も女性より男性の方が挙げる割合が多かった。年代別に見ると、「報道が過剰だと感じた」が全ての年代で 1 位となり、30～60 代では 40%を超えた。「不正疑惑が生じた後に、新たな視点の報道が少なかった」「深く追及する姿勢が足りないと感じた」は年代が高い層で高くなる傾向が見られた。

図 14-1 STAP 細胞の論文不正疑惑に関する新聞報道の印象

(複数回答、n=3,270)

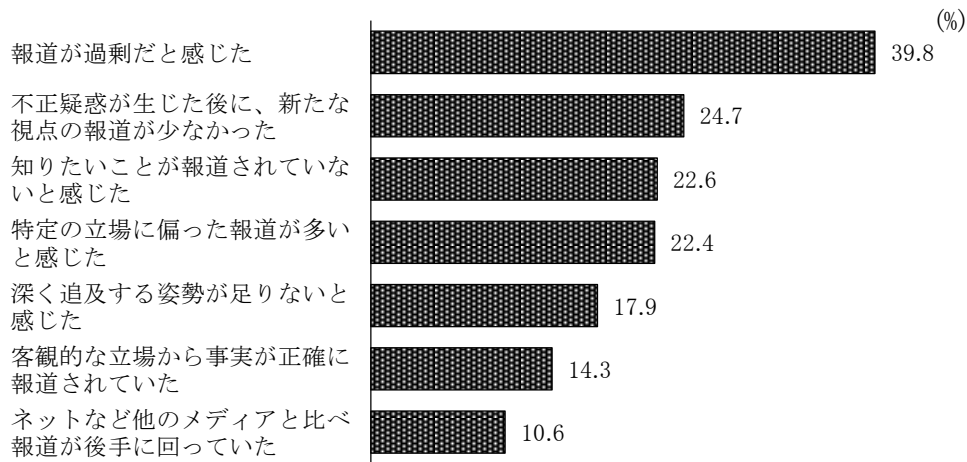
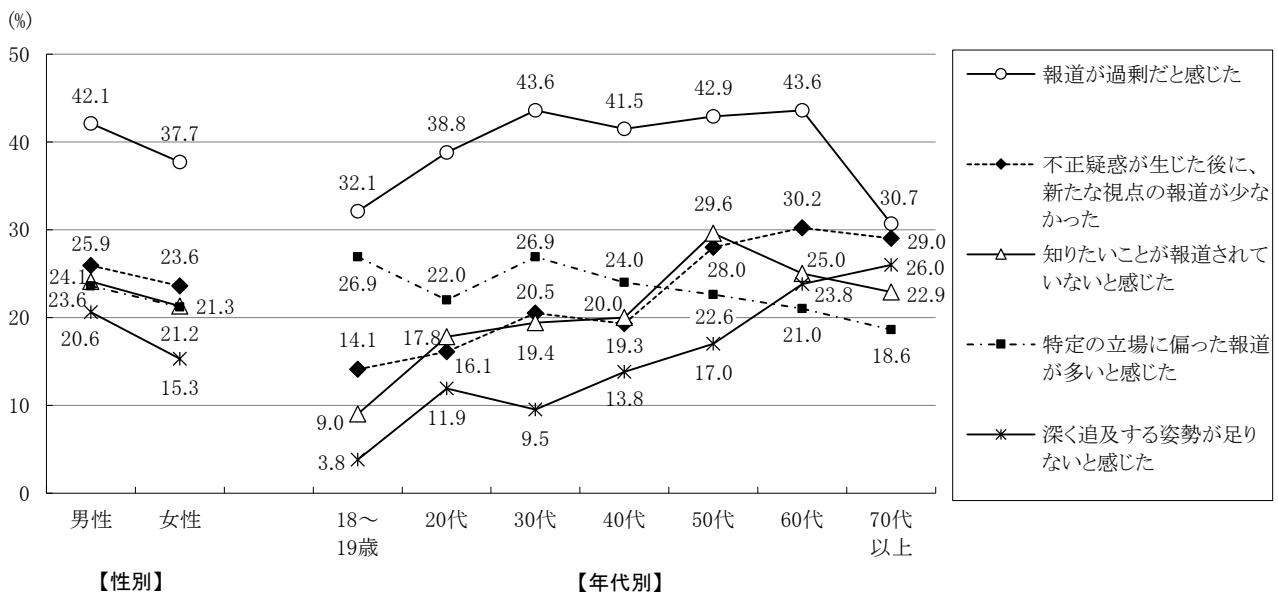


図 14-2 STAP 細胞の論文不正疑惑に関する新聞報道の印象 (性・年代別)

(複数回答、n=3,270)



15. STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道でよかったと思うメディアは？

－ 「ない」が38%で最多。「NHK テレビ」30%、「新聞」と「民放テレビ」28% －

- ・ STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道でよかったと思うメディアを尋ねたところ、「NHK テレビ」30.3%、「新聞」28.2%、「民放テレビ」27.8%、「インターネット」9.8%となった。一方、「どれもよいと思わない」が37.9%に上った。
- ・ 性別に見ると、男性ではNHKテレビ・新聞・民放テレビの順であったが、女性は民放テレビ・NHKテレビ・新聞の順であった。年代別にみると、40 代以下では民放テレビが1 位、50 代以上ではNHKテレビが1 位であった。また、インターネットは 30 代以下の年代では2 位となり、新聞を上回った。新聞は20 代から年代が上がるとともに割合が高くなり、40 代と60 代以上の年代では2 位となった。50 代以下では「どれもよいと思わない」と回答した人の割合が、1 位に挙げられた項目の割合を上回った。

図 15-1 STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道でよかったと思うメディア (複数回答、n=3,270)
(%)

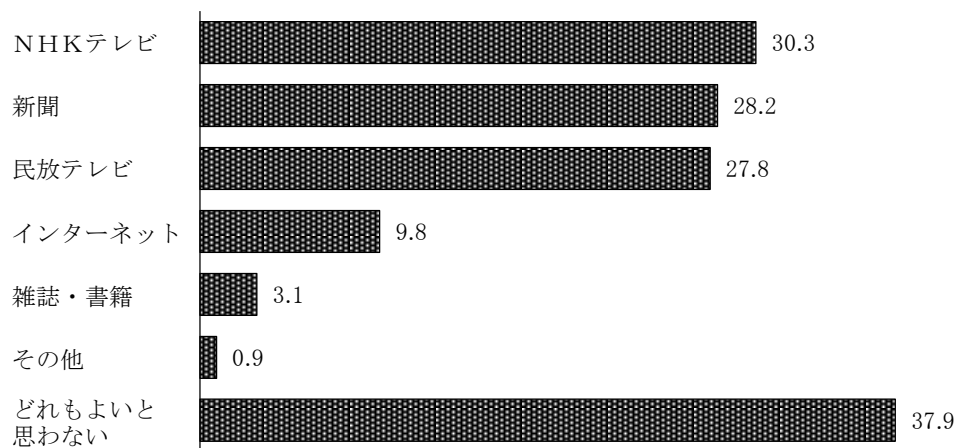


表 15-1 STAP 細胞の論文不正疑惑に関する報道でよかったと思うメディア (性・年代別)
(複数回答、n=3,270)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	どれもよいと思わない (%)
総 数	NHKテレビ 30.3	新聞 28.2	民放テレビ 27.8	インターネット 9.8	雑誌・書籍 3.1	37.9
男 性	NHKテレビ 34.3	新聞 31.4	民放テレビ 28.7	インターネット 13.1	雑誌・書籍 3.9	33.6
女 性	民放テレビ 27.0	NHKテレビ 26.6	新聞 25.2	インターネット 6.7	雑誌・書籍 2.4	41.9
18-19歳	民放テレビ 26.9	インターネット 17.9	NHKテレビ 16.7	新聞 11.5	雑誌・書籍 -	38.5
20 代	民放テレビ 21.7	NHKテレビ 21.7	インターネット 17.5	新聞 9.8	雑誌・書籍 2.4	50.0
30 代	民放テレビ 22.0	インターネット 17.2	NHKテレビ 15.6	新聞 14.1	雑誌・書籍 2.2	50.9
40 代	民放テレビ 24.5	新聞 21.3	NHKテレビ 20.2	インターネット 12.1	雑誌・書籍 2.7	46.6
50 代	NHKテレビ 28.8	民放テレビ 28.6	新聞 25.7	インターネット 12.0	雑誌・書籍 4.1	39.7
60 代	NHKテレビ 40.0	新聞 37.6	民放テレビ 35.6	雑誌・書籍 4.0	インターネット 2.4	28.6
70代以上	NHKテレビ 47.6	新聞 46.1	民放テレビ 29.0	雑誌・書籍 3.1	インターネット 2.4	24.3

《新聞への意見》

16. 新聞についてどう思う？（＊）

－ 情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価 －
「多種多様な情報を知ることができる」が70%

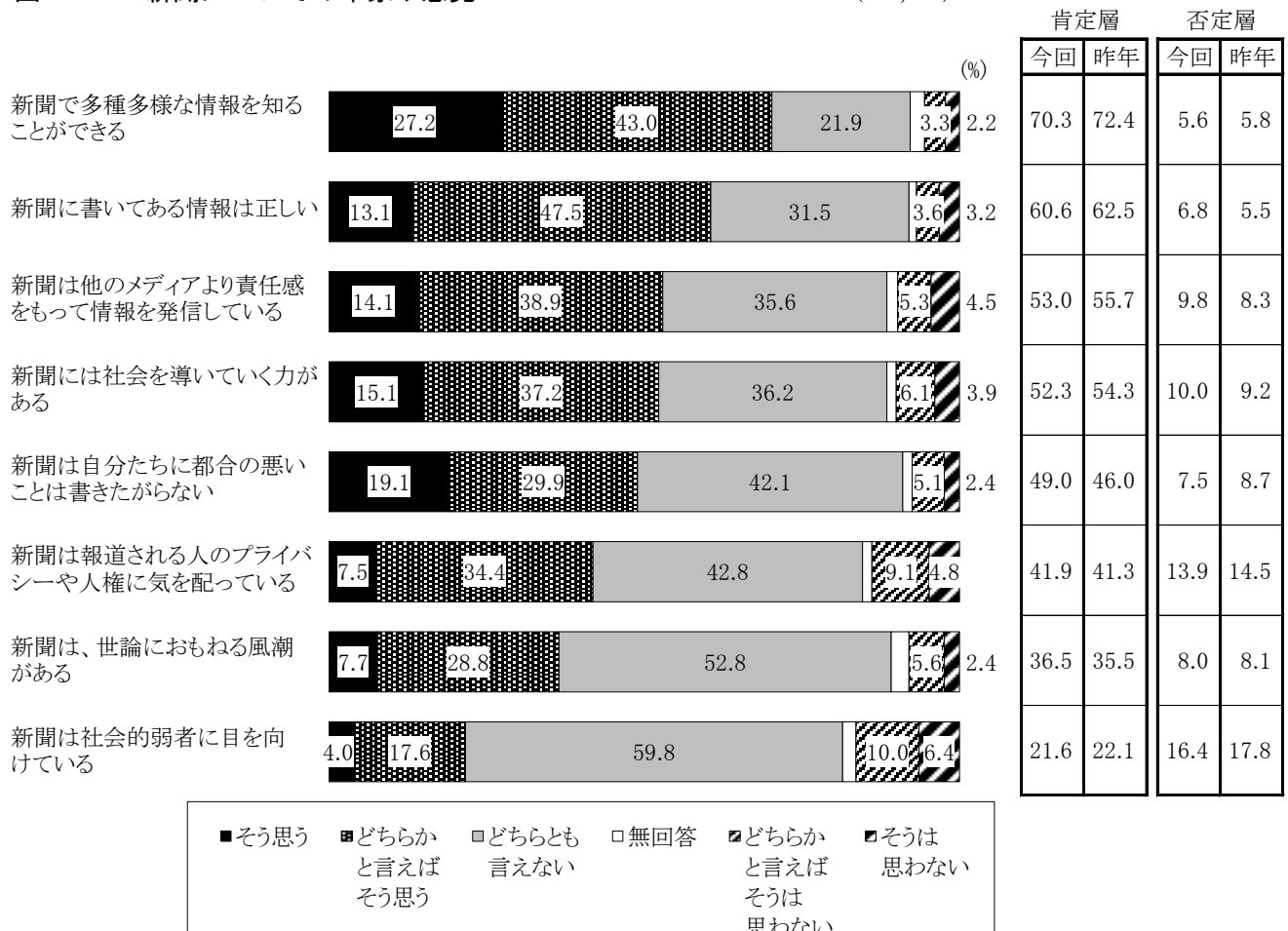
- ・新聞についての印象や意見について、肯定層の占める割合を比較すると、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」（70.3％）が最も多く、次いで、「新聞に書いてある情報は正しい」（60.6％）、
「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」（53.0％）、「新聞には社会を導いていく力がある」（52.3％）の順に多くなっており、新聞が発信している情報に対しての評価は高い。
- ・他方、「新聞は報道される人のプライバシーや人権に気を配っている」と「新聞は社会的弱者に目を向けている」で、否定層がそれぞれ13.9％、16.4％となり、新聞の報道倫理に対しては比較的厳しい目が向けられている。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞は自分たちに都合の悪いことは書きたがらない」の肯定層が3.0ポイント増、「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」の肯定層の2.7ポイント減、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」の肯定層の2.1ポイント減、「新聞には社会を導いていく力がある」の肯定層の2.0ポイント減、「新聞に書いてある情報は正しい」の肯定層の1.9ポイント減と全体に厳しい評価となった。

※肯定層：「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」

否定層：「どちらかと言えばそうは思わない」＋「そうは思わない」

図 16-1 新聞についての印象や意見

(n=3,270)



- ・「新聞で多種多様な情報を知ることができる」の肯定層は、30代以下で6割台、40代以上で7割台となった。幅広い情報を得られる媒体という点が、世代を問わず評価されていることが分かった。
- ・「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」の肯定層は、20代から年代が上がるほど増加し、70代以上で63.0%となった。
- ・「新聞は社会的弱者に目を向けている」の否定層は、20代・30代で2割台となり、肯定層を上回った。40代以上では肯定層が否定層を上回るが、肯定層の割合は、最も多い70代以上でも3割に届かない。

図 16-2 「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(性・年代別)

(n=3,270)

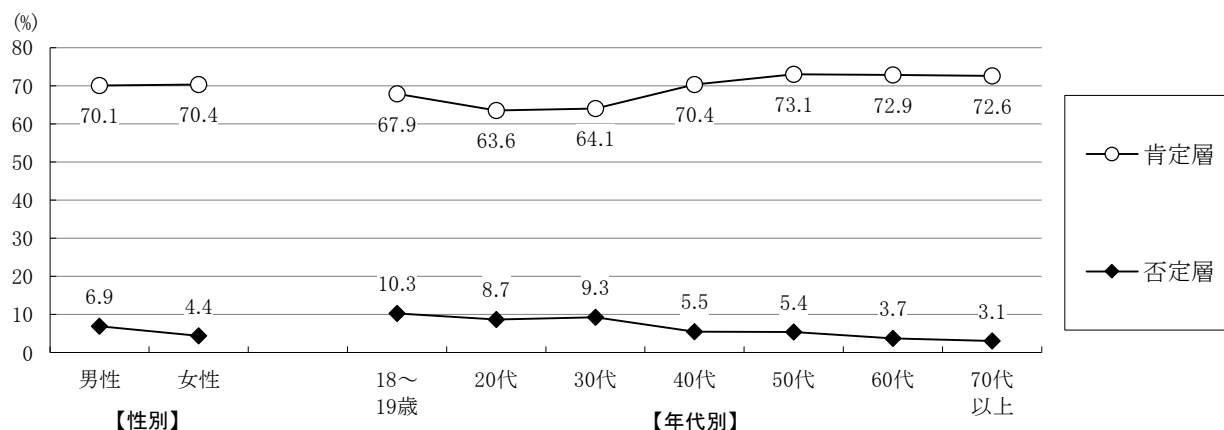


図 16-3 「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」(性・年代別)

(n=3,270)

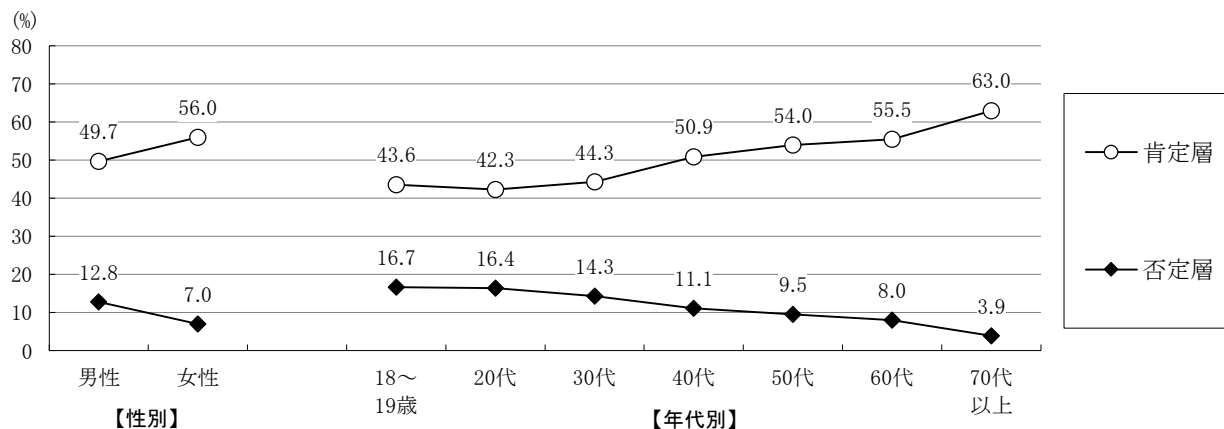
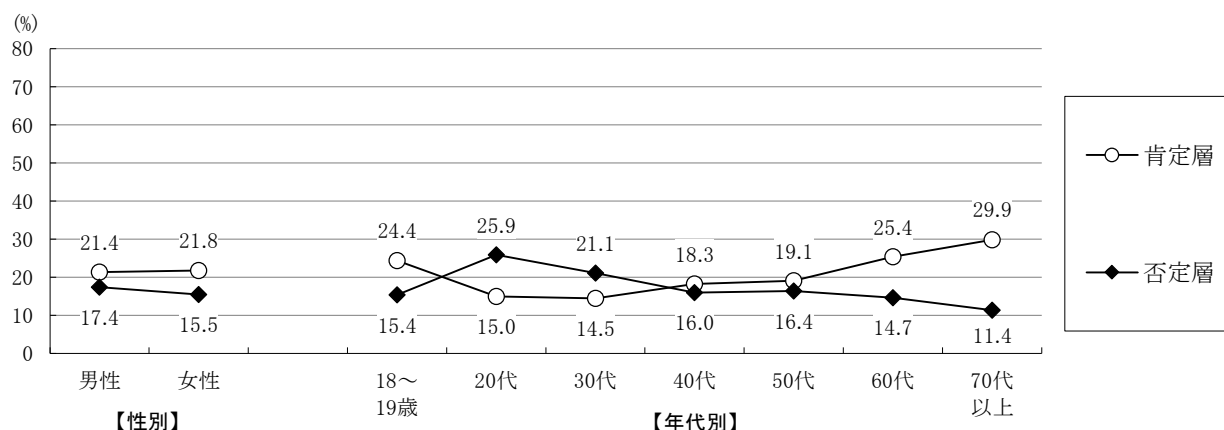


図 16-4 「新聞は社会的弱者に目を向けている」(性・年代別)

(n=3,270)



17. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？（＊）

－ 「不正を追及」に4割が肯定。

「政治家について全て報道している」には変わらず厳しい評価

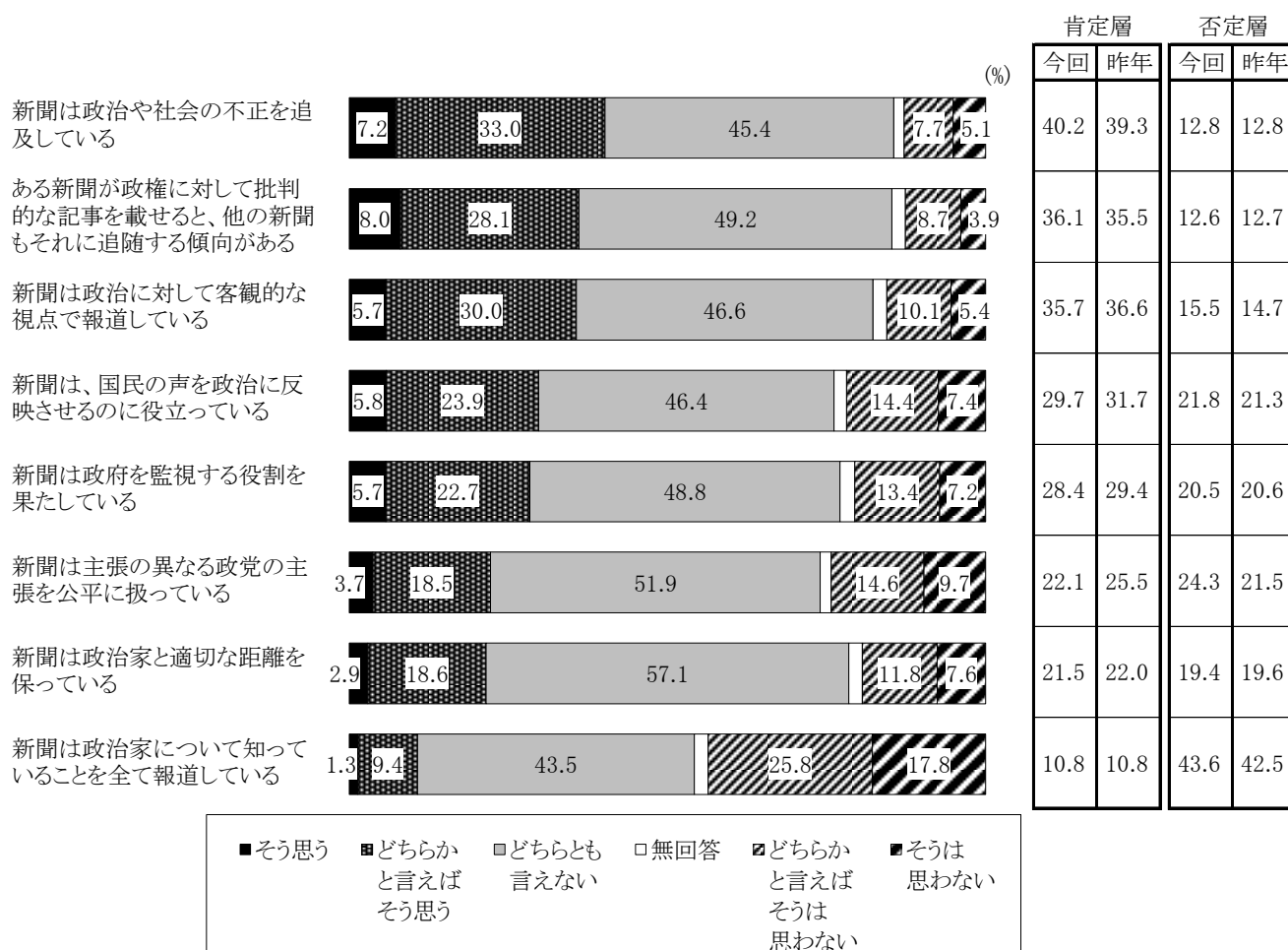
- ・新聞と政治の関係についての意見に関して、肯定層の占める割合を比較したところ、「新聞は政治や社会の不正を追及している」（40.2％）が最も多く、次いで、「ある新聞が政権に対して批判的な記事を書くと、他の新聞もそれに追随する傾向がある」（36.1％）、「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」（35.7％）が多かった。
- ・新聞と政治家の関わりに関する項目については評価が低い傾向にある。「新聞は政治家について知っていることを全て報道している」の否定層が43.6％に上り、「新聞は政治家と適切な距離を保っている」の肯定層が21.5％に留まるなど評価が厳しい。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞は、国民の声を政治に反映させるのに役立っている」の肯定層が2.0ポイント、「新聞は主張の異なる政党の主張を公平に扱っている」の肯定層が3.4ポイントそれぞれ減少した。

※肯定層：「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」

否定層：「どちらかと言えばそうは思わない」＋「そうは思わない」

図 17-1 新聞と政治についての意見

(n=3,270)



- ・「新聞は政治や社会の不正を追及している」の肯定層は、20代（30.8%）と30代（29.5%）で少なく、40代以降、年代が上がるにつれて多くなっている。一方、否定層は20代と30代で多く、年代の上昇と共に少なくなり、肯定層と否定層との差も年代の上昇に伴い大きく開いていく。
- ・「新聞は政府を監視する役割を果たしている」は、20代で否定層が多く、肯定層を14.0ポイント上回った。30代以上では年代が上がるほど肯定層の割合が高くなり、否定層との差が大きくなっていく。
- ・「新聞は主張の異なる政党の主張を公平に扱う」は、20～60代で否定層が肯定層を上回ったが、20代・30代ではその差が15ポイント前後と大きくなった。70代以上では肯定層が否定層を15.1ポイント上回った。

図 17-2 新聞は政治や社会の不正を追及している（性・年代別）

(n=3,270)

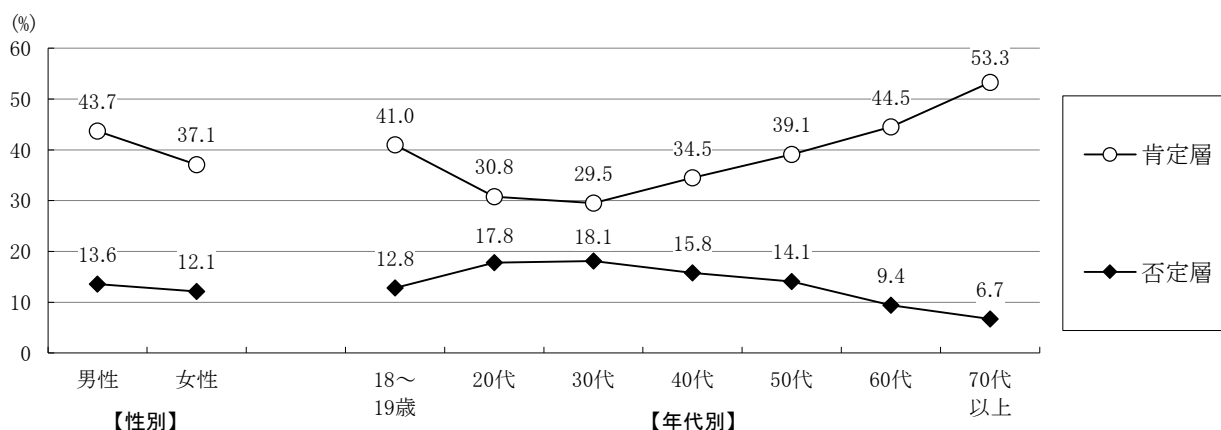


図 17-3 新聞は政府を監視する役割を果たしている（性・年代別）

(n=3,270)

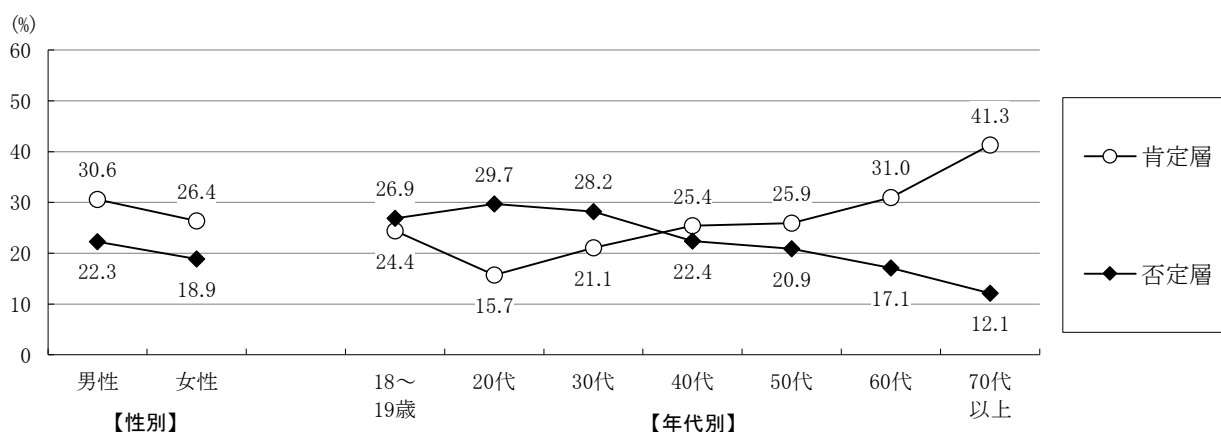
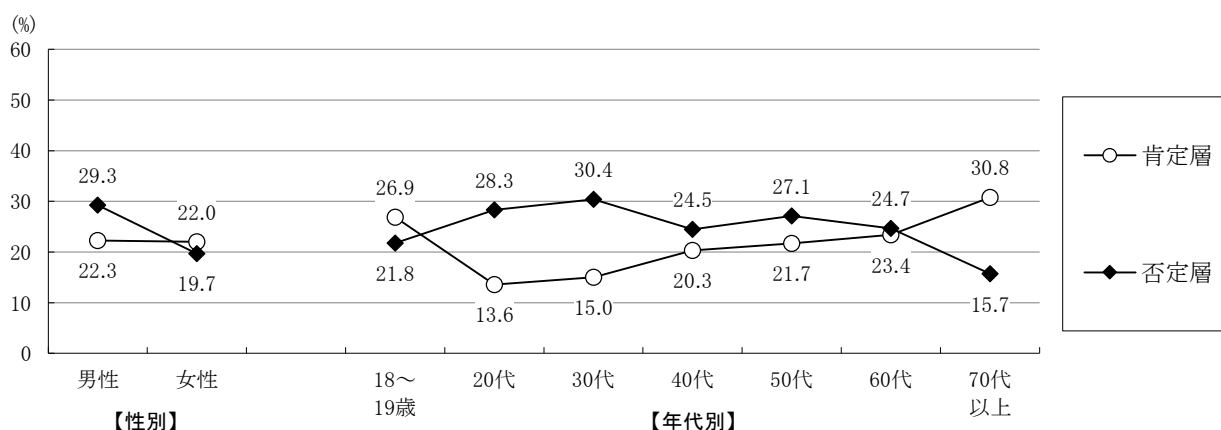


図 17-4 新聞は主張の異なる政党の主張を公平に扱う（性・年代別）

(n=3,270)



18. 新聞の政治的立場についてどう思う？（＊）

－ 欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず －
「独自色」は 14%、「不偏不党」は 64%

- ・新聞の政治的立場について、「A：新聞は、それぞれ独自の政治色をはっきり出した方がよい」と考える独自色派は 14.1%で、「B：新聞は、1つの政党に偏ることなく不偏不党を貫くべきだ」と考える不偏不党派が 63.8%と多く、欧米のように新聞に政治色を出すことに否定的な意見が圧倒的多数を占めた。昨年度と同様、不偏不党派が独自色派を大きく上回った。
- ・年代別に見ると、不偏不党派は最も少ない18-19歳でも51.3%と過半数を占め、いずれの年代(56.6%～69.6%)でも、独自色派(12.2%～21.8%)を大きく上回っており、新聞は不偏不党であるべきとの意見が強いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、不偏不党派優位の傾向は変わらないが、全体で不偏不党派が3.0ポイント減少し、男女、全年代での減少となった。中でも18-19歳で7.9ポイント、20代で8.8ポイントの大幅減となった。

※独自色派：「Aに近い」＋「どちらかと言えばAに近い」
不偏不党派：「どちらかと言えばBに近い」＋「Bに近い」

図 18-1 新聞の政治的立場についての意見

(n=3,270)

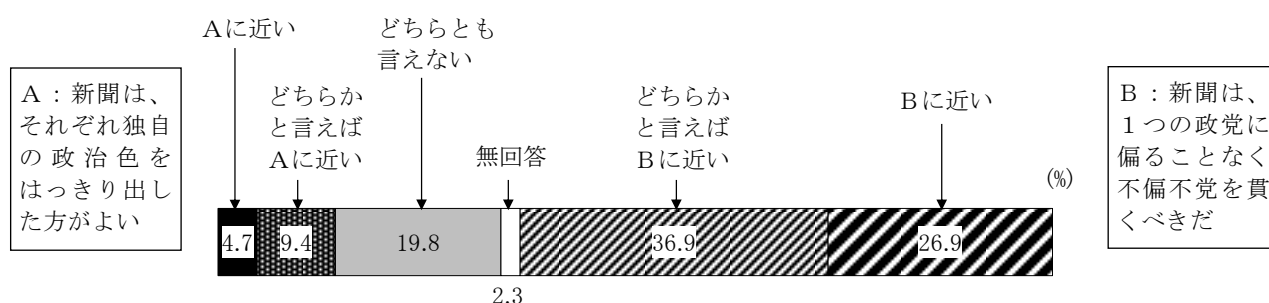
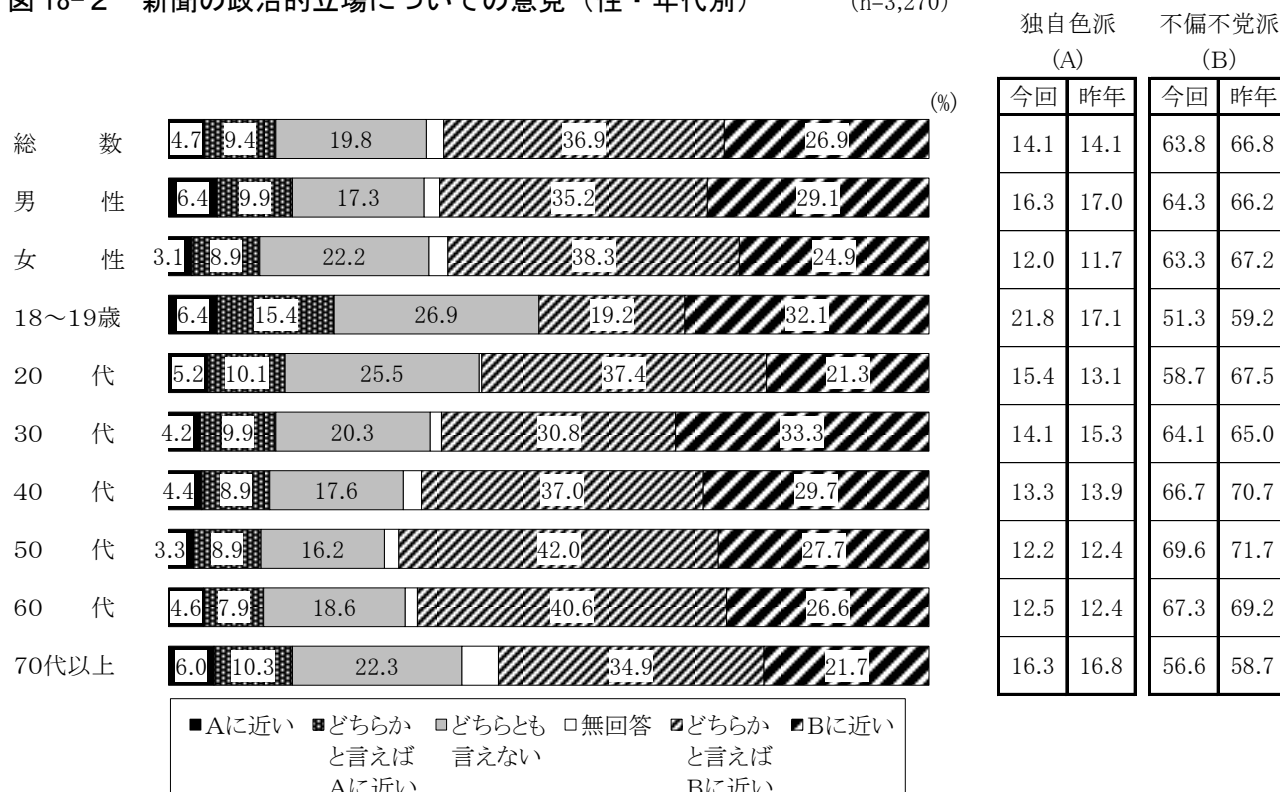


図 18-2 新聞の政治的立場についての意見（性・年代別）

(n=3,270)



19. 新聞の記事の満足度は？（＊）

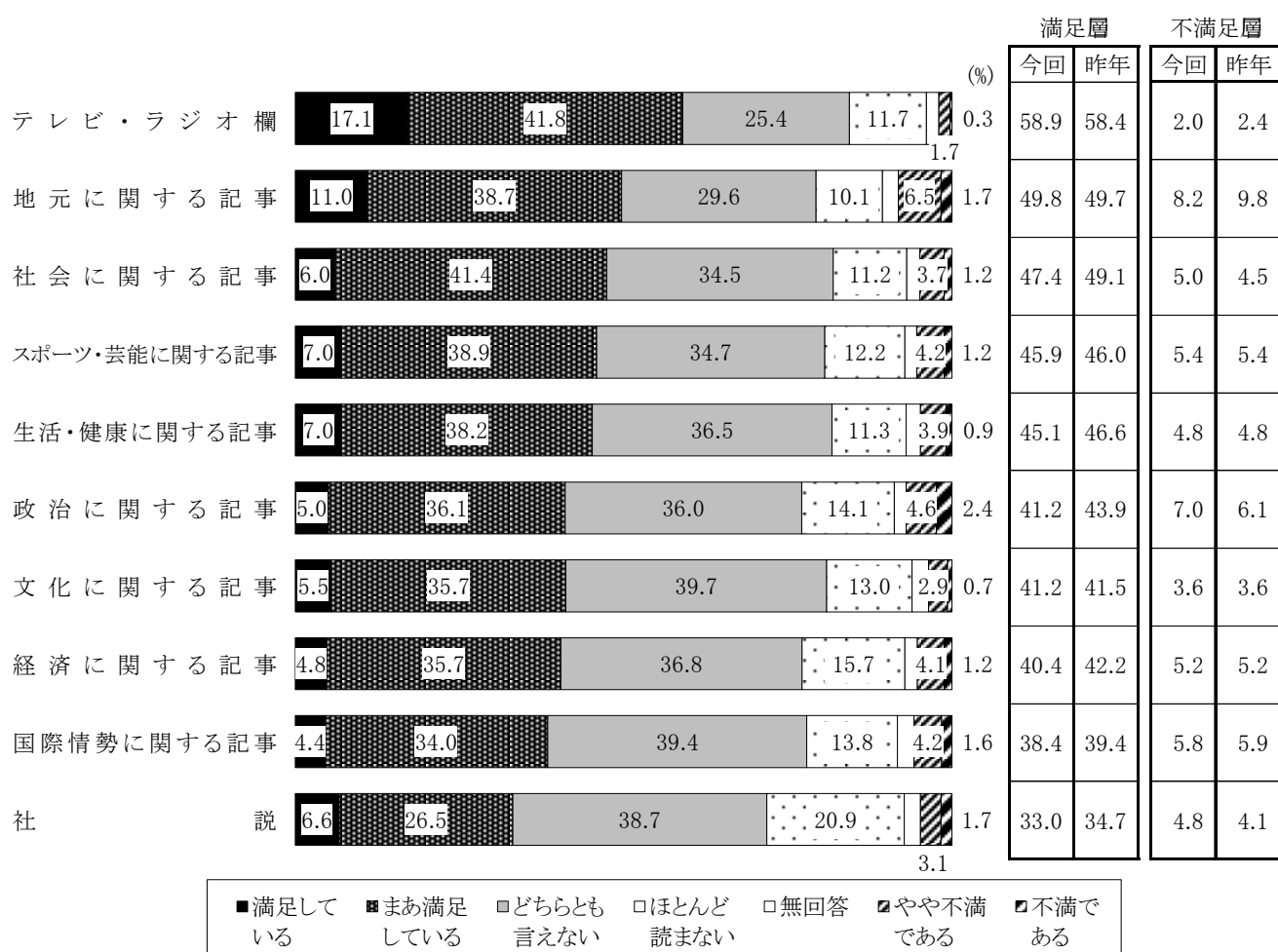
－ ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い －

- ・新聞の各記事について満足層の占める割合を比較すると、「テレビ・ラジオ欄」が 58.9%と 6 割弱を占め、テレビ・ラジオなど他のメディアへの窓口として新聞を利用する人が多いことが分かった。次いで「地元に関する記事」（49.8%）、「社会に関する記事」（47.4%）、「スポーツ・芸能に関する記事」（45.9%）、「生活・健康に関する記事」（45.1%）で満足層が 5 割弱と、生活に密着した身近な記事の満足度が高かった。
- ・「社説」「国際情勢に関する記事」の満足層は 3 割台（33.0%、38.4%）と少ないが、不満層も 1 割（4.8%、5.8%）を下回っており、「どちらとも言えない」や「ほとんど読まない」が多く、閱讀度が低いことがうかがえる。
- ・昨年度調査との比較では、「政治に関する記事」の満足層の割合が 2.7 ポイント減少しているが、大きな変化は見られない。

※満足層：「満足している」＋「まあ満足している」
不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 19-1 新聞の記事の満足度

(n=3,270)



- ・「テレビ・ラジオ欄」は、男女、全ての年代で最も満足度が高くなっている。「地元に関する記事」
「社会に関する記事」は 20 代で満足層が最も少なく、年代の高い層で割合が多くなる傾向が見られた。また、「社会に関する記事」は男性の満足度が女性より 8.6 ポイント高かった。
- ・「政治に関する記事」「経済に関する記事」「国際情勢に関する記事」は、女性よりも男性の満足度が高かった。年代別に見ると、満足度は、最も少ない 20 代から 40 代にかけて増加し、50 代で減少するが、60 代は横ばい、70 代以上は再度増加となった。

図 19-2 テレビ・ラジオ欄、地元、社会に関する記事に満足している人の割合（性・年代別）

(n=3,270)

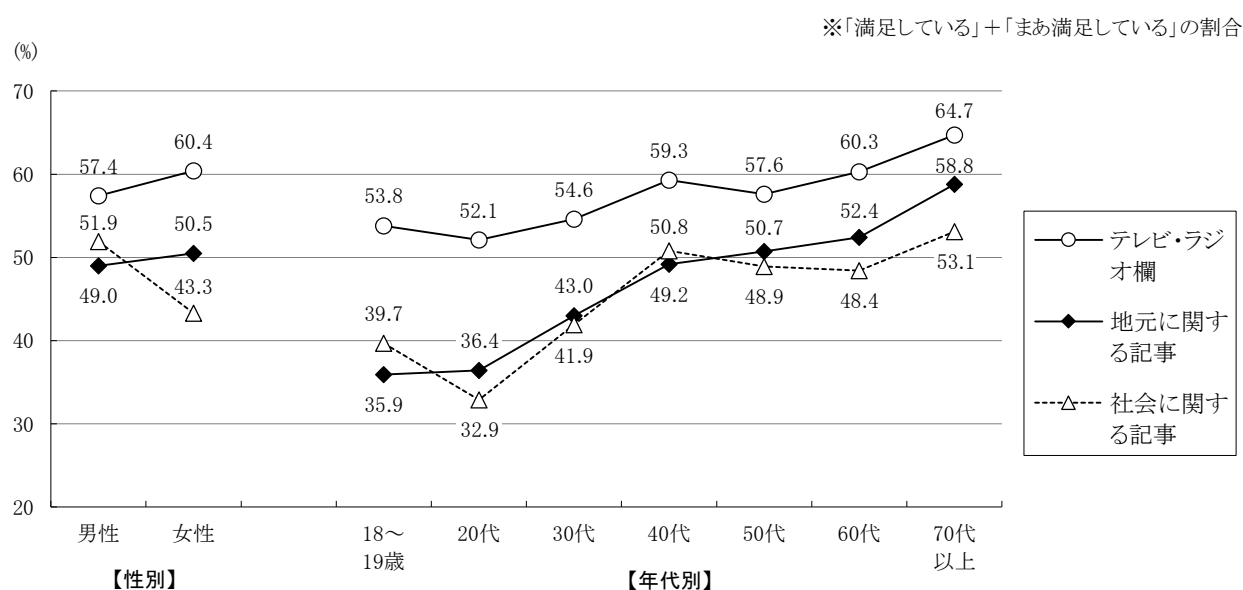
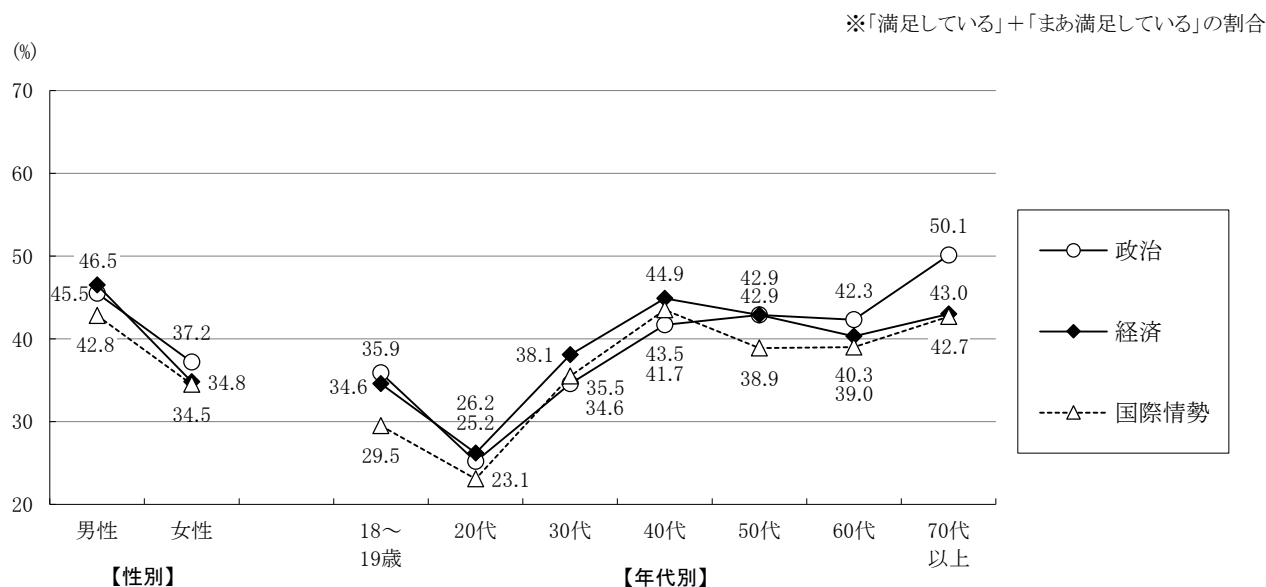


図 19-3 政治、経済、国際情勢に関する記事に満足している人の割合（性・年代別）

(n=3,270)



20. 新聞全般の満足度は？（＊）

－ 満足している人は 53%、不満な人は 7%。高年齢層で満足度が高い －

- ・新聞全般について、「満足している」は 13.0%、「やや満足である」は 40.2%であり、この 2 つを合わせた満足層は 53.2%を占めた。「やや不満である」と「不満である」を合わせた不満層は 7.4%と少数であった。
- ・年代別に見ると、満足層は 30 代以下で半数を下回っている。40 代では満足層が約 5 割、年代の上昇とともに満足層の割合も高くなり 70 代以上では 65.0%となった。一方、不満層は 30 代（10.8%）で最も多いが、他の年代では 1 割未満となり、圧倒的に満足層の方が多くなった。

※満足層：「満足している」＋「やや満足である」
不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 20-1 新聞全般の満足度

(n=3,270)

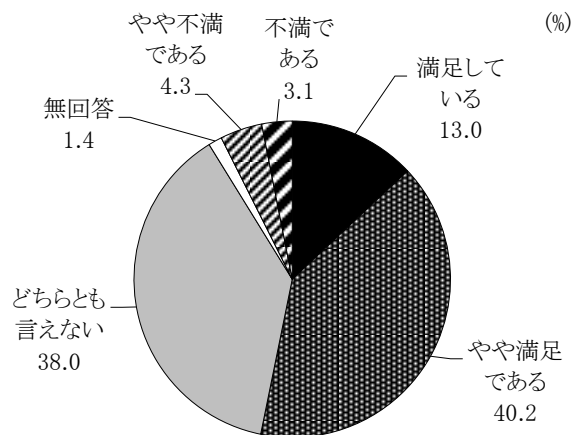
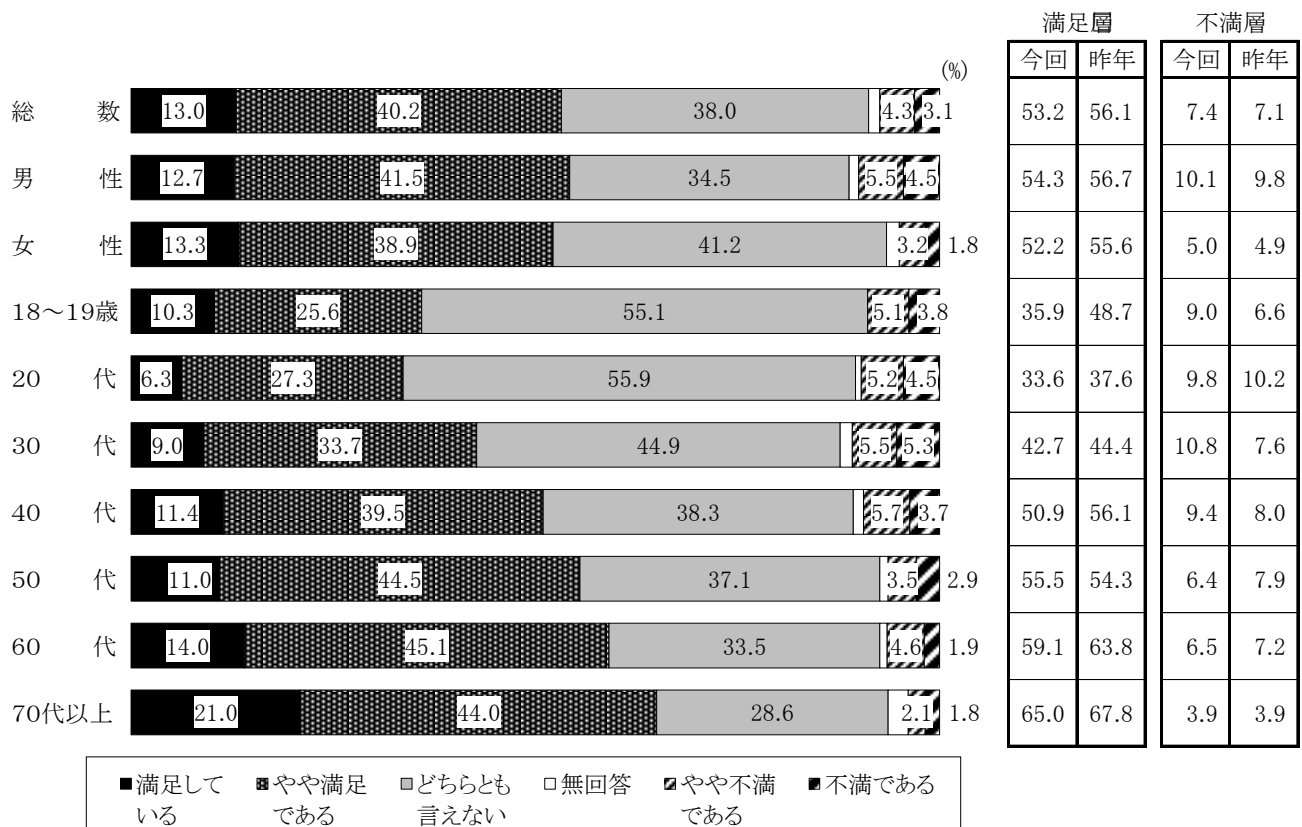


図 20-2 新聞全般の満足度（性・年代別）

(n=3,270)



《生活の中の新聞》

21. 新聞を読んでいる人は？（＊）

－ 「読んでいる」は朝刊 77%、夕刊 27%。朝夕刊共に閲読率は前年より微減 －

- ・朝刊を読んでいる人は 76.9% を占めている。内訳を見ると、「毎日」読んでいる人（55.1%）が過半数を占めている。「毎日」読んでいる人は 18-19 歳で 12.8% に留まるが、年代が上がるほど増加し、50 代（62.7%）、60 代（75.0%）、70 代以上（81.7%）となった。
- ・昨年度調査と比較すると、朝刊を読んでいる人は 20 代（11.1 ポイント減）と 40 代（5.7 ポイント減）で減少が目立った。また、「毎日」読んでいる人については、40 代で 13.7 ポイントの大幅減、30 代で 4.3 ポイント減となった。

図 21-1 新聞（朝刊）の閲読頻度

(n=3,270)

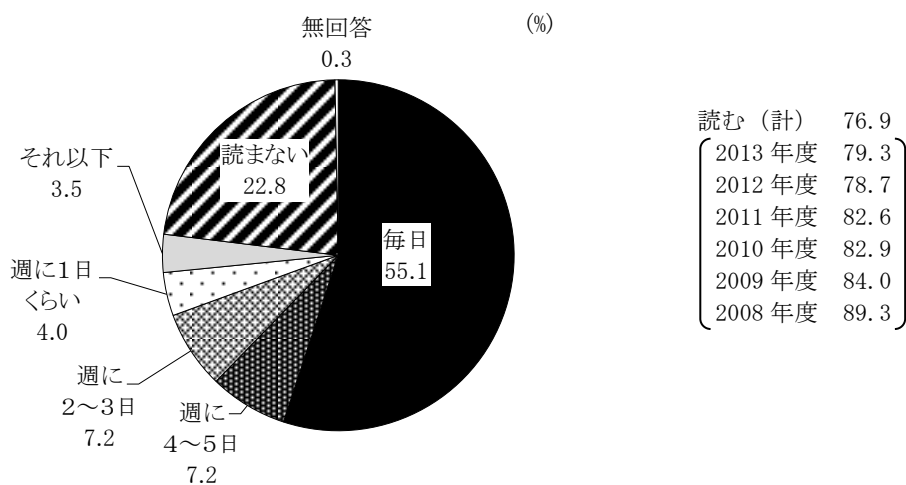


図 21-2 新聞（朝刊）の閲読頻度（読む（計））
（性・年代別）

(n=3,270)

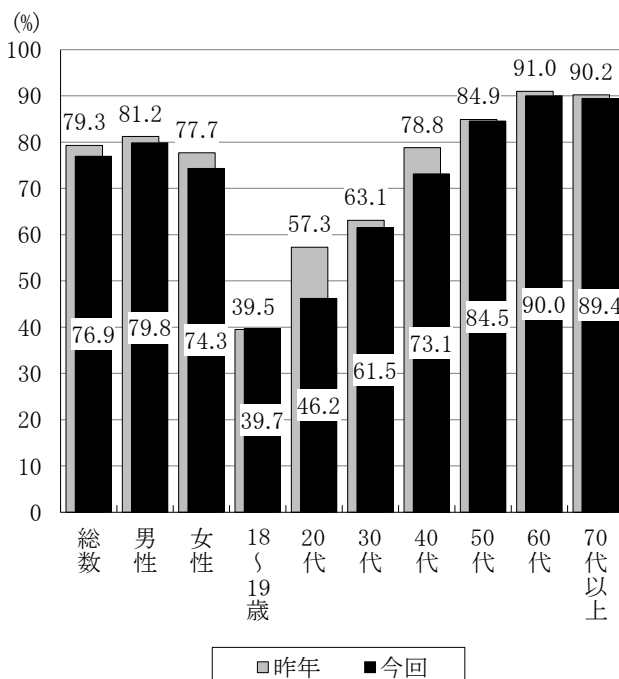
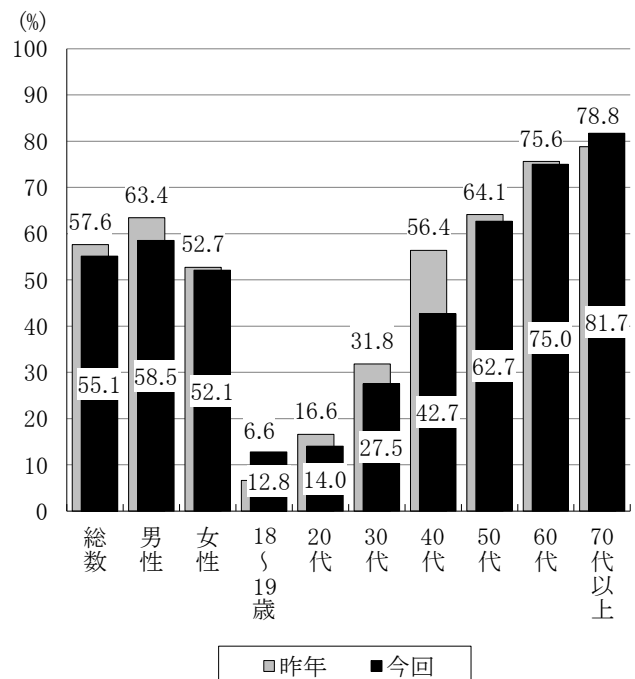


図 21-3 新聞（朝刊）の閲読頻度（毎日）
（性・年代別）

(n=3,270)



- ・夕刊を読む人は26.9%で、調査開始以来、減少傾向が続いている。そのうち「毎日」読んでいる人は18.0%に留まった。
- ・夕刊を読む人は、40代で7.2ポイント、70代以上で5.8ポイント昨年度よりも減少した。

図 21-4 新聞（夕刊）の閲読頻度

(n=3,270)

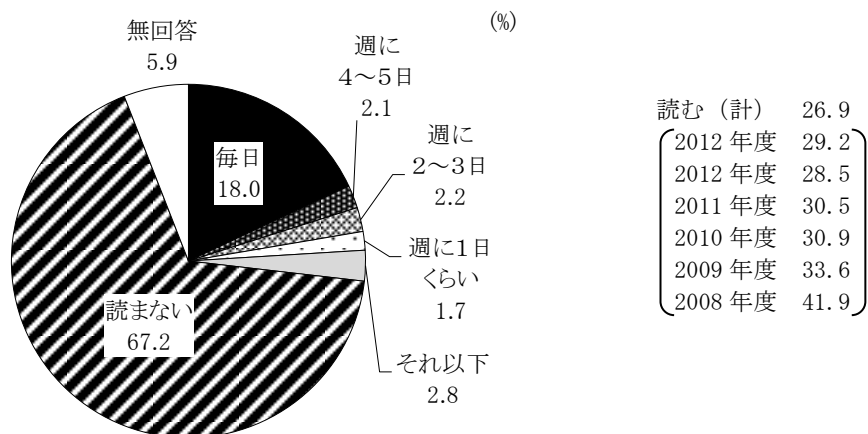


図 21-5 新聞（夕刊）の閲読頻度（読む（計））
（性・年代別）

(n=3,270)

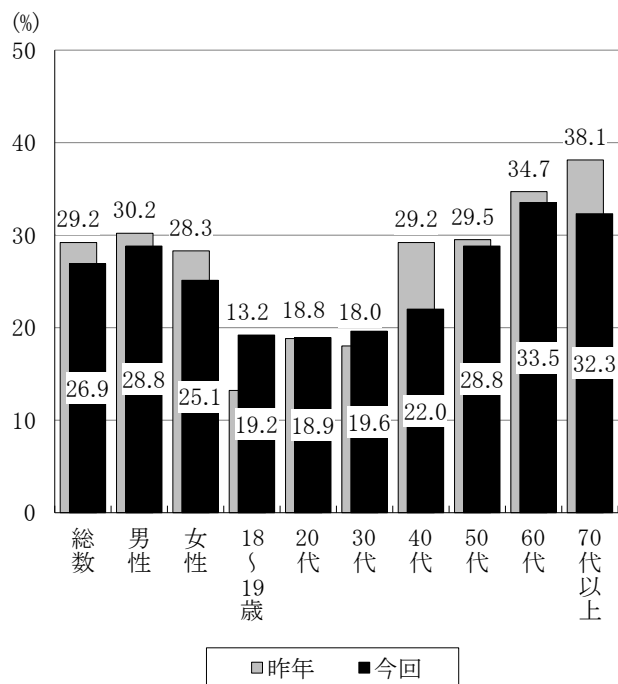
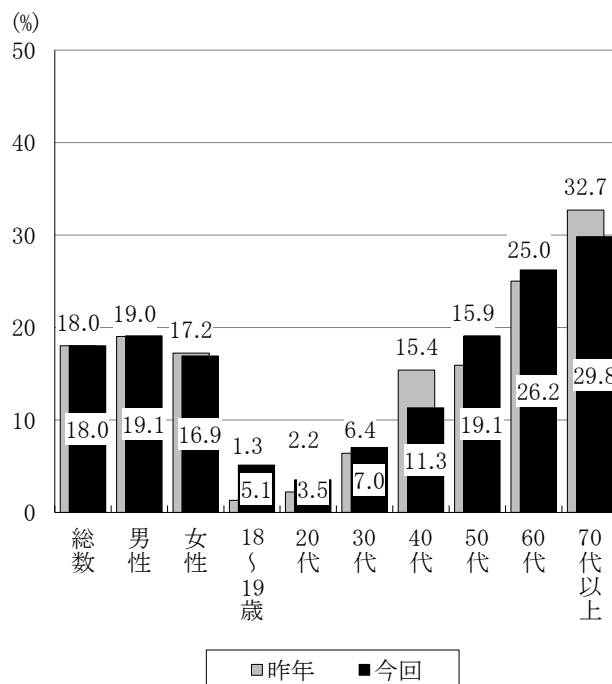


図 21-6 新聞（夕刊）の閲読頻度（毎日）
（性・年代別）

(n=3,270)



22. この１年間で新聞を読む回数や時間に変化は？（＊）

－ 「変わらない」が79%、「減った」が14% －

- ・ 1年間で新聞を読む回数や時間に変化があったかについては、「変わらない」が79.4%と大半を占める。「増えた」は5.5%、「減った」は14.4%である。
- ・ 性別に見ると、「増えた」は男女差がない（男性5.6%、女性5.4%）が、「減った」は女性（15.4%）の方が男性（13.3%）より2.1ポイント多かった。
- ・ 年代別に見ると、「増えた」は、18-19歳で15.4%と多いが、他の年代では1割に満たない。一方、「減った」は60代以下の全ての年代で1割を超え、特に30代・40代（18.1%、19.5%）で2割弱となった。

図 22-1 1年間で新聞を読む回数や時間の変化

(n=3,270)

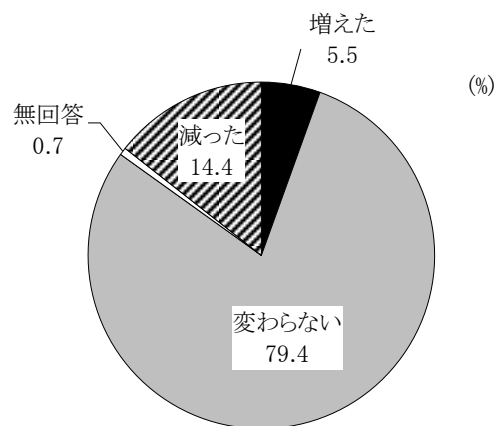
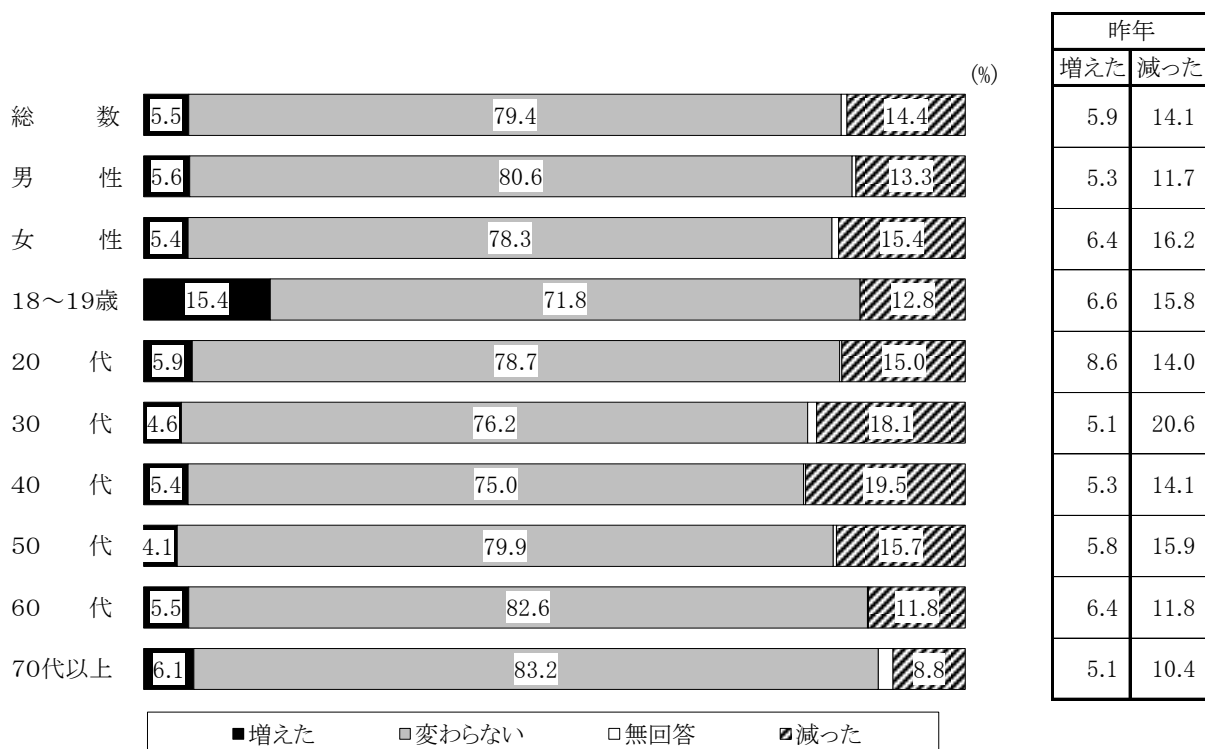


図 22-2 1年間で新聞を読む回数や時間の変化

(n=3,270)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 77.3%)

23. 新聞を読む時間は？（＊）

－ 平均時間は 26 分で昨年度から微減。若い世代ほど短い －

- ・新聞を読む時間は、1 日平均で 26.3 分で、昨年度（26.8 分）より 0.5 分短くなった。
- ・年代別に見ると、平均時間は 60 代以上では 30 分（30.3 分、38.6 分）を超えているが、40 代では 18.8 分と 10 分台に減少し、30 代 16.3 分、20 代、18-19 歳 13.1 分と年代が下がるほど短くなっていく。若い年代での新聞離れが見てとれる。
- ・昨年度調査と比較すると、平均時間は 20～60 代で減少し、40 代で減少が最も多く 2.1 分減となった。

図 23-1 新聞を読んでいる人 (n=3,270)

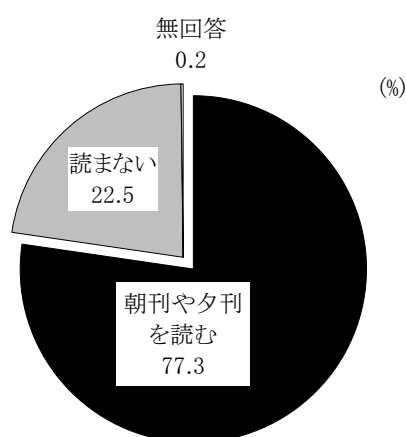


図 23-2 新聞の 1 日の閲読時間 (n=2,528)

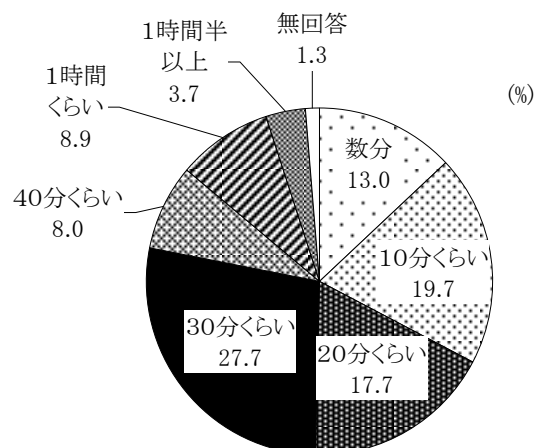
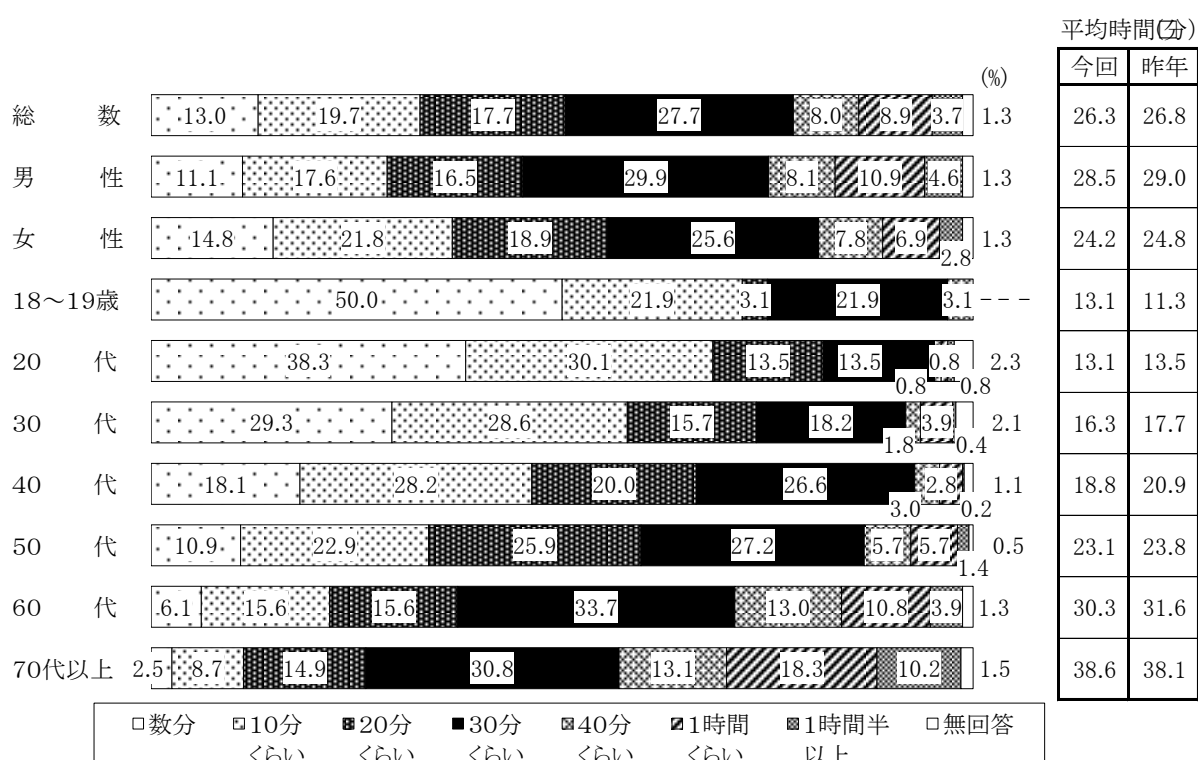


図 23-3 新聞の 1 日の閲読時間（性・年代別） (n=2,528)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 77.3%)

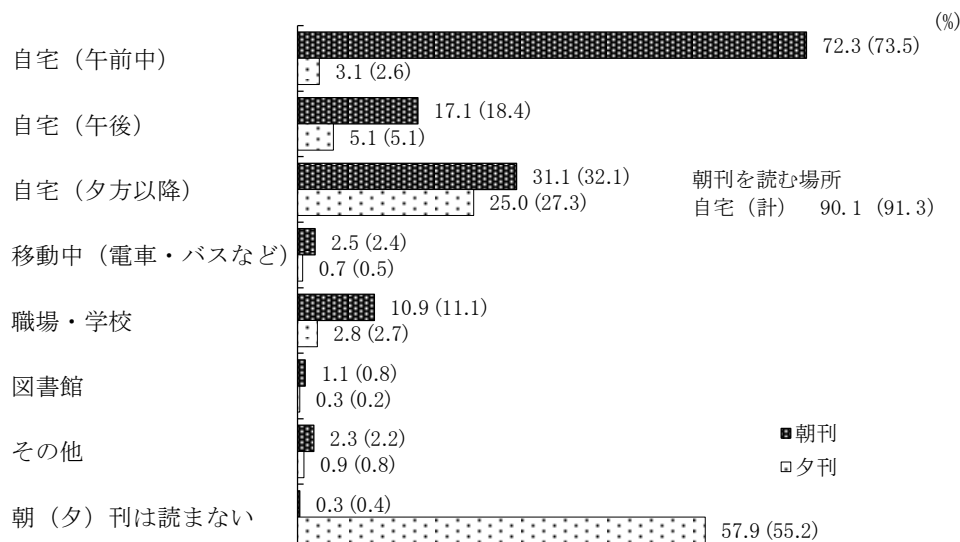
24. 新聞を読む場所は？（＊）

－ 新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心 －

- ・ 新聞を読む場所としては、朝刊は「自宅（午前中）」（72.3％）を挙げる人が7割を超え、圧倒的に多かった。次いで、「自宅（夕方以降）」（31.1％）、「自宅（午後）」（17.1％）、「職場・学校」（10.9％）が続く、全ての時間帯を合わせると「自宅」を挙げた人は90.1％に上った。夕刊も「自宅（夕方以降）」が25.0％で最も多かった。
- ・ 朝刊について年代別に見ると、「自宅（午前中）」は20代で最も少なく、年代が上がるほど増加し、60代以上では8割（80.6％、90.3％）を超えた。「自宅（夕方以降）」は50代以下の年代では3割以上（32.9％～43.8％）、60代以上では2割台（22.3％～26.4％）であった。「職場・学校」は20代（22.6％）で最も多く、30～50代で1割台（14.4％～18.6％）であった。

図 24-1 新聞を読む場所

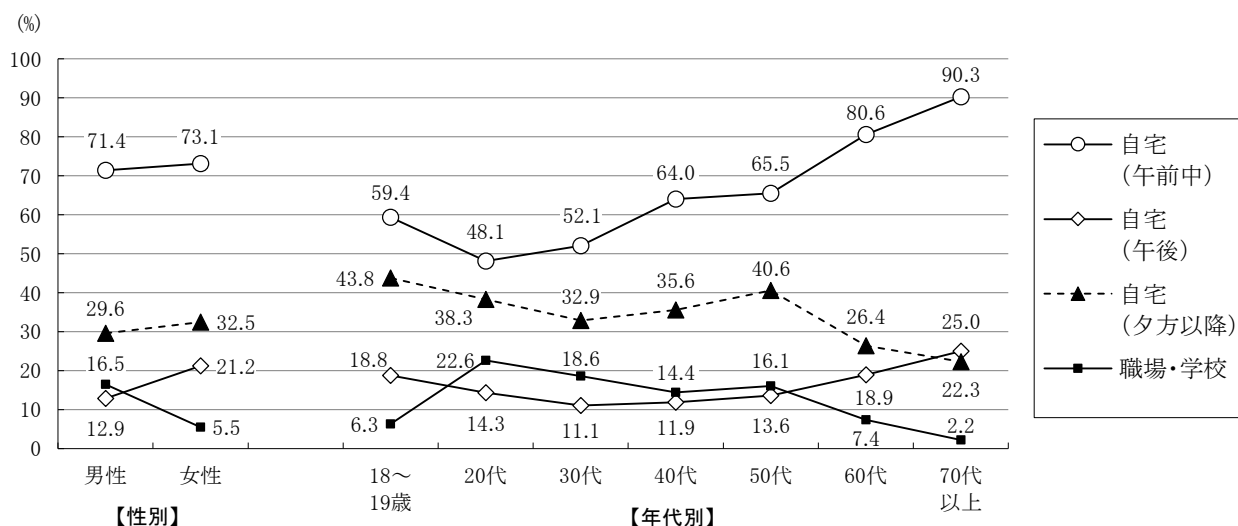
(複数回答、n=2,528)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 24-2 新聞（朝刊）を読む場所（性・年代別）

(複数回答、n=2,528)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 77.3%)

25. 新聞を読む理由は？（＊）

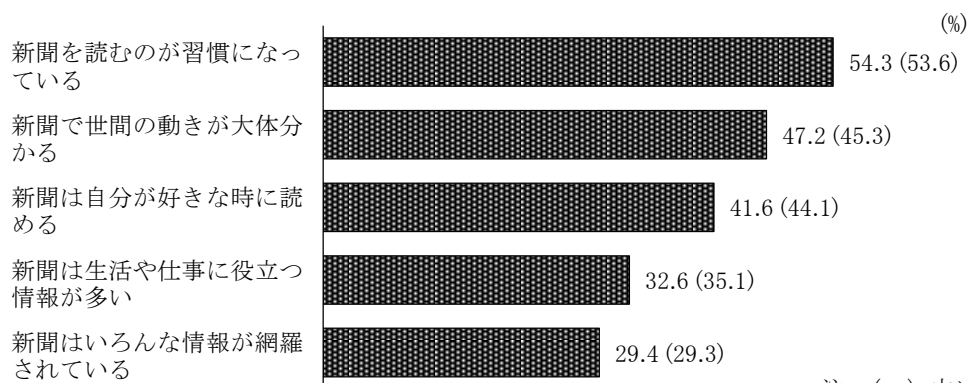
－ 新聞を読むことは生活の一部。－

1 位「習慣になっている」、2 位「世間の動きが分かる」

- ・新聞を読む理由としては、「新聞を読むのが習慣になっている」(54.3%)を挙げる人が半数強と最も多く、新聞を読むことが生活の一部となっていることがうかがえる。次いで、「新聞で世間の動きが大体分かる」(47.2%)、「新聞は自分が好きな時に読める」(41.6%)を挙げる人が多かった。
- ・年代別に見ると、「新聞を読むのが習慣になっている」は20代(16.5%)で最も少なく、年代が上がるほど増加し、40代以上では最大の理由となった。一方、30代以下では「新聞で世間の動きが大体分かる」の方が「新聞を読むのが習慣になっている」より多く挙げられた。

図 25-1 新聞を読む理由

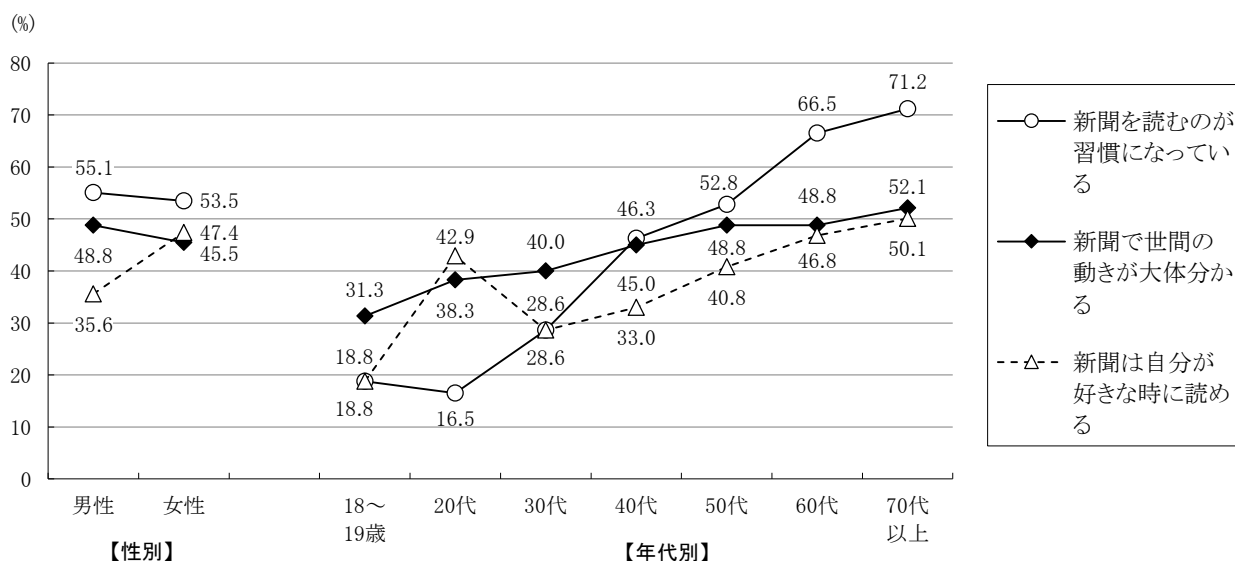
(複数回答、n=2,528)



注：() 内は昨年度調査の数値

図 25-2 新聞を読む理由（性・年代別）

(複数回答、n=2,528)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 77.3%)

26. よく読む新聞記事は？（＊）

－ 身近な記事が人気。1位「地元記事」、2位「社会記事」、3位「ラ・テ欄」 －

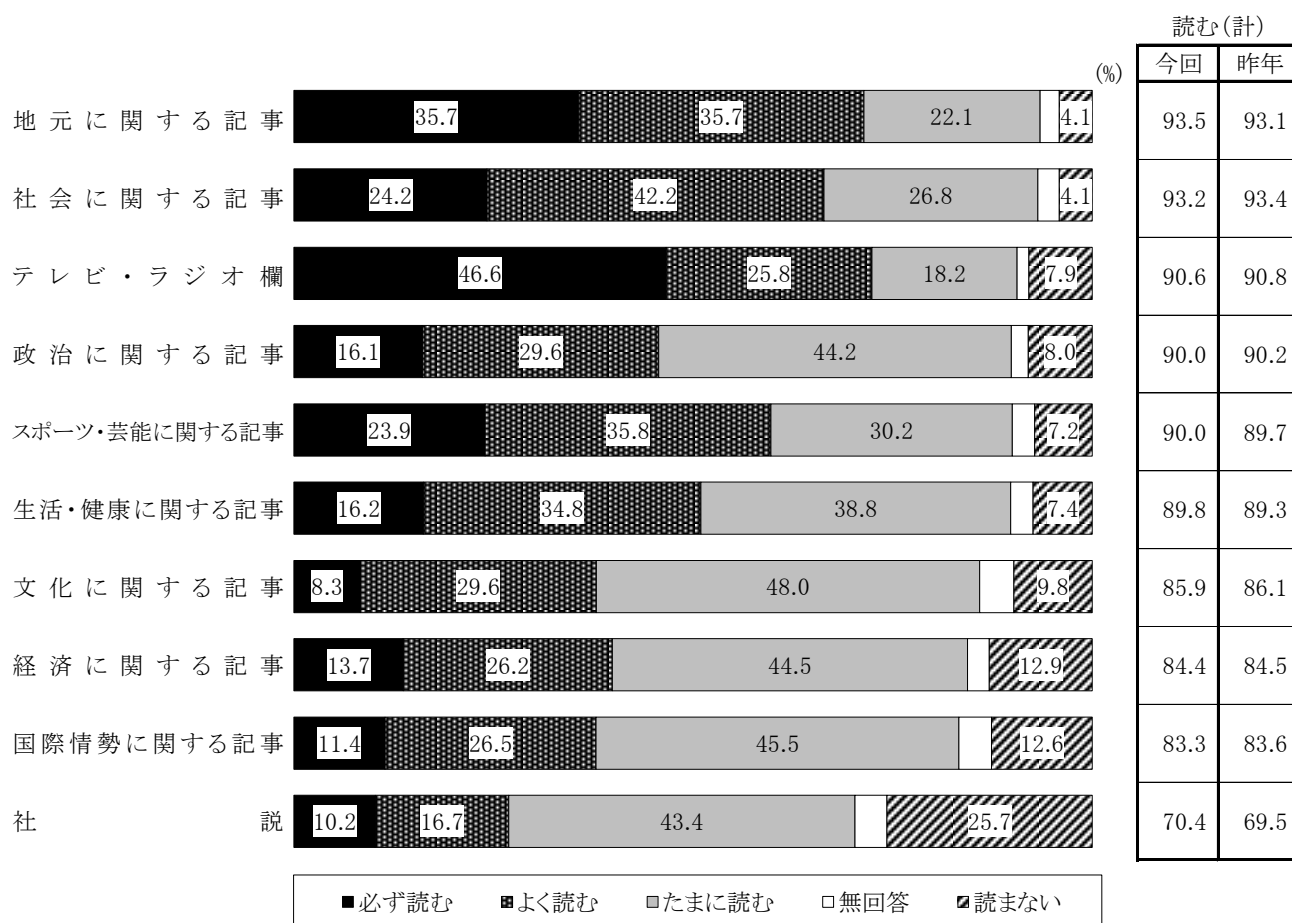
・よく読む新聞の記事については、「必ず読む」「よく読む」「たまに読む」を合わせた『読む(計)』は「地元に関する記事」(93.5%)と「社会に関する記事」(93.2%)が多く、次いで「テレビ・ラジオ欄」(90.6%)、「政治に関する記事」「スポーツ・芸能に関する記事」(各 90.0%)が9割台となっており、生活に密着した身近な記事がよく読まれていた。

・一方、「社説」は、『読む(計)』が7割(70.4%)に留まり、「読まない」が25.7%と他の記事に比べ多かった。

※『読む(計)』＝「必ず読む」＋「よく読む」＋「たまに読む」

図 26-1 新聞でよく読む記事

(n=2,528)



(朝刊や夕刊を「読まない」と答えた人に) (全体の 22.5%)

27. 新聞を読まない理由は？（＊）

ー 1 位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(73%)、

昨年より 6 ポイント増 ー

- ・新聞を読まない理由としては、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(72.7%) を挙げる人が 7 割を超え、最も多かった。次いで、「新聞を取っていないから」(43.1%)、「新聞は高いから（お金が掛かるから）」(30.1%) の順であった。新聞以外のメディアへの接触が新聞離れの大きな要因となっていることがうかがえる。
- ・年代別に見ると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が 70 代以上を除き、最も大きな理由となったが、特に 20～50 代では 7 割 (71.1%～84.9%) を超えた。70 代以上では「新聞を取っていないから」が最大の理由となった。また、「新聞は高いから（お金が掛かるから）」は、30 代 (41.9%) で最も多く、40～60 代の年代では 3 割前後 (29.3%～35.8%) が挙げた。
- ・昨年度調査と比較すると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」の割合が 6.0 ポイント増加した。

図 27-1 新聞を読まない人 (n=3,270)

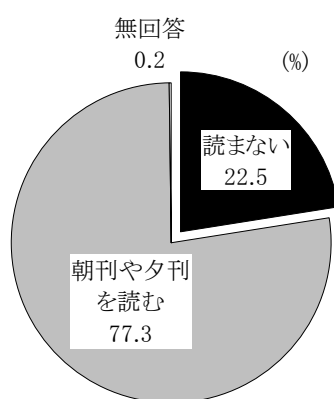
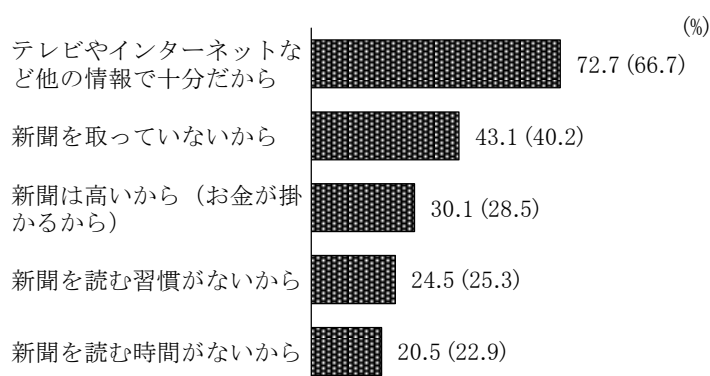


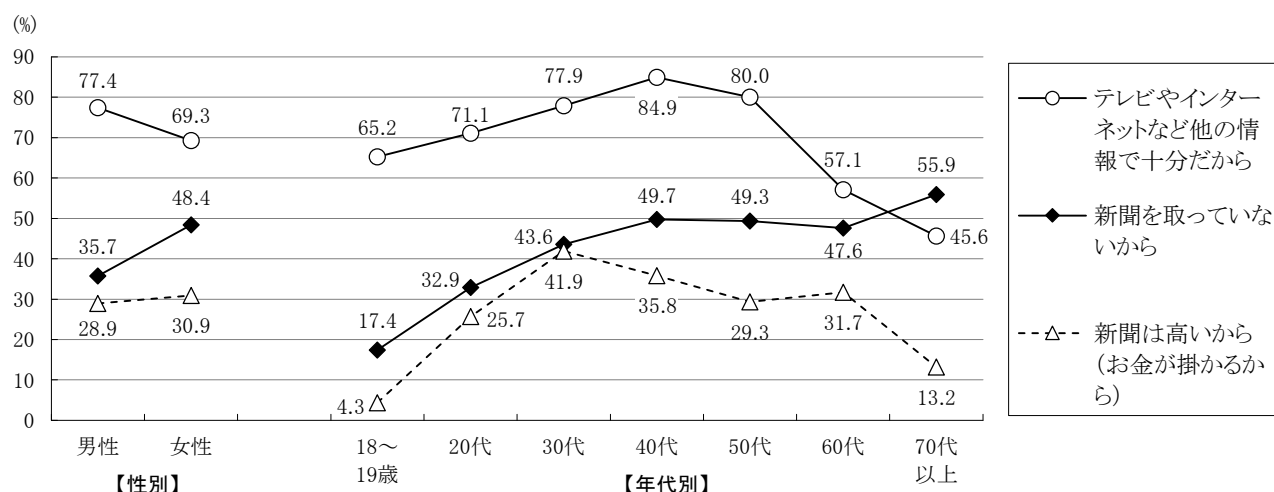
図 27-2 新聞を読まない理由 (複数回答、n=735)



注：() 内は昨年度調査の数値

図 27-3 新聞を読まない理由（性・年代別）

(複数回答、n=735)



28. 戸別配達をどう思う? (*)

ー 日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」73%。2012年より減少続く ー

- ・戸別配達については、「ぜひ続けてほしい」は51.4%、「できれば続けてほしい」は22.0%であり、両者をあわせた『続けてほしい(計)』は73.4%であった。毎日決まった時間に自宅に直接新聞が届くという戸別配達へのニーズは高い。
- ・年代別に見ると、『続けてほしい(計)』は20代(47.6%)で最も少なく、30代以降、年代が高いほど多くなり、60代以上では8割台後半(86.2%、88.0%)に達した。
- ・過去の調査と比較すると、『続けてほしい(計)』の割合は、2009年度以降は80%前後で推移していたが、2012年度から2013年度で3.9ポイント減少、今年度はさらに前年から2.8ポイント減少した。年代別に見ると、2012年度から2013年度にかけて全年代で減少したが、今年度も2013年度から全年代で減少した。50代以上(0.4~1.8ポイント)に比べ40代以下(4.3~7.9ポイント)で減少が大きかった。

※『続けてほしい(計)』=「ぜひ続けてほしい」+「できれば続けてほしい」

図 28-1 戸別配達の存続

(n=3,270)

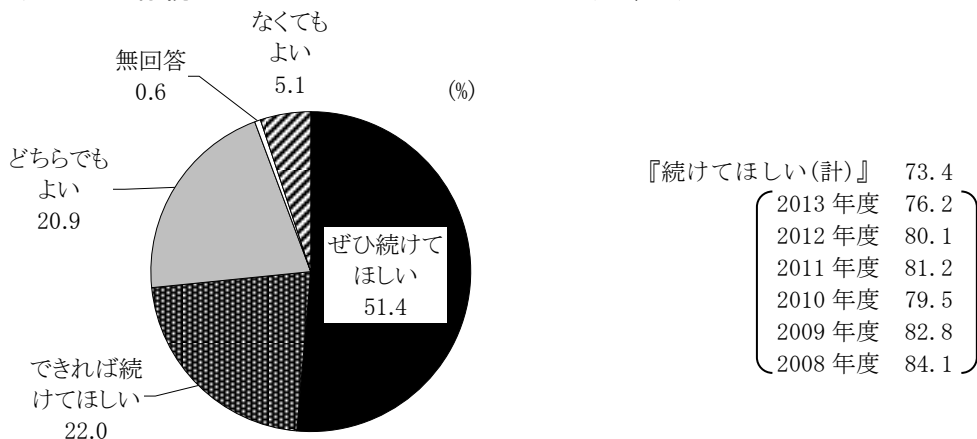
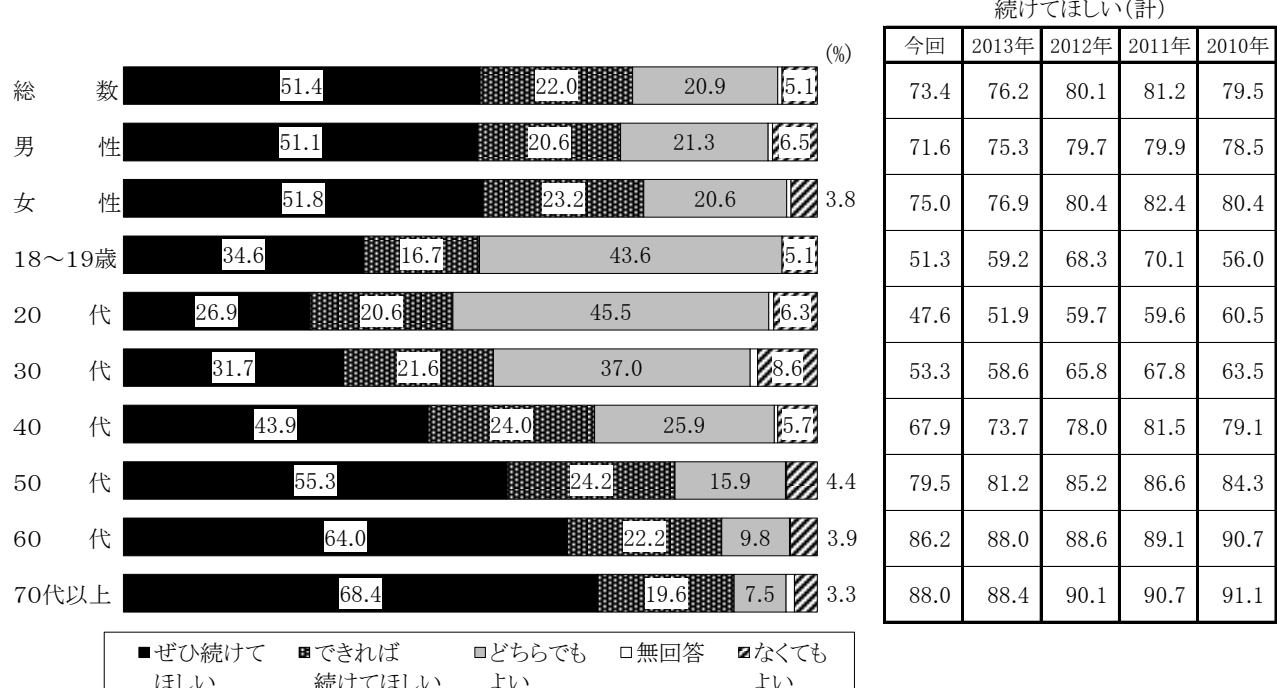


図 28-2 戸別配達の存続 (性・年代別)

(n=3,270)



29. 夕刊の発行をどう思う？（＊）

－ 「続けてほしい」は18%、前回から減少 －

- ・夕刊の発行については、「ぜひ続けてほしい」は7.8%、「できれば続けてほしい」は10.5%であり、両者を合わせた『続けてほしい(計)』は18.3%であった。一方、「なくてもよい」は33.7%であった。夕刊の発行を続けてほしいという層は2割弱に留まり、夕刊の発行への要望は強いとは言えない。
- ・年代別に見ると、夕刊の発行を続けてほしい人は、最も多い18-19歳（28.2%）であっても3割を下回った。20～50代では1割台（11.9%～18.6%）に留まった。20代以上の年代では、夕刊はなくてもよいと考える人が多く、『続けてほしい(計)』の割合を上回った。
- ・過去の調査と比較すると、夕刊の発行への要望は、調査開始の2008年度は28.0%と3割近く、2009年度以来、20%台前半で推移していたが、今回調査で初めて2割を切った。年代別に見ると、2012年度調査から今回にかけて減少が多いのは40代（3.7ポイント減）と70代以上（3.3ポイント減）であった。

※『続けてほしい(計)』＝「ぜひ続けてほしい」＋「できれば続けてほしい」

図 29-1 夕刊発行の存続

(n=3,270)

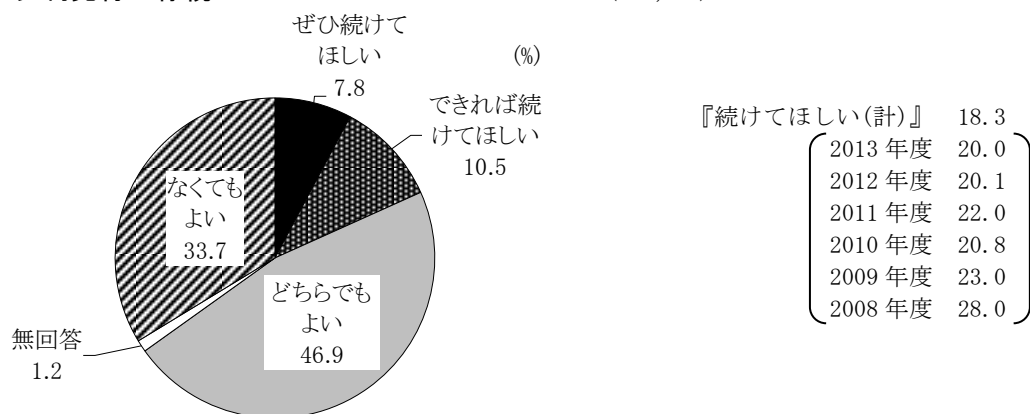
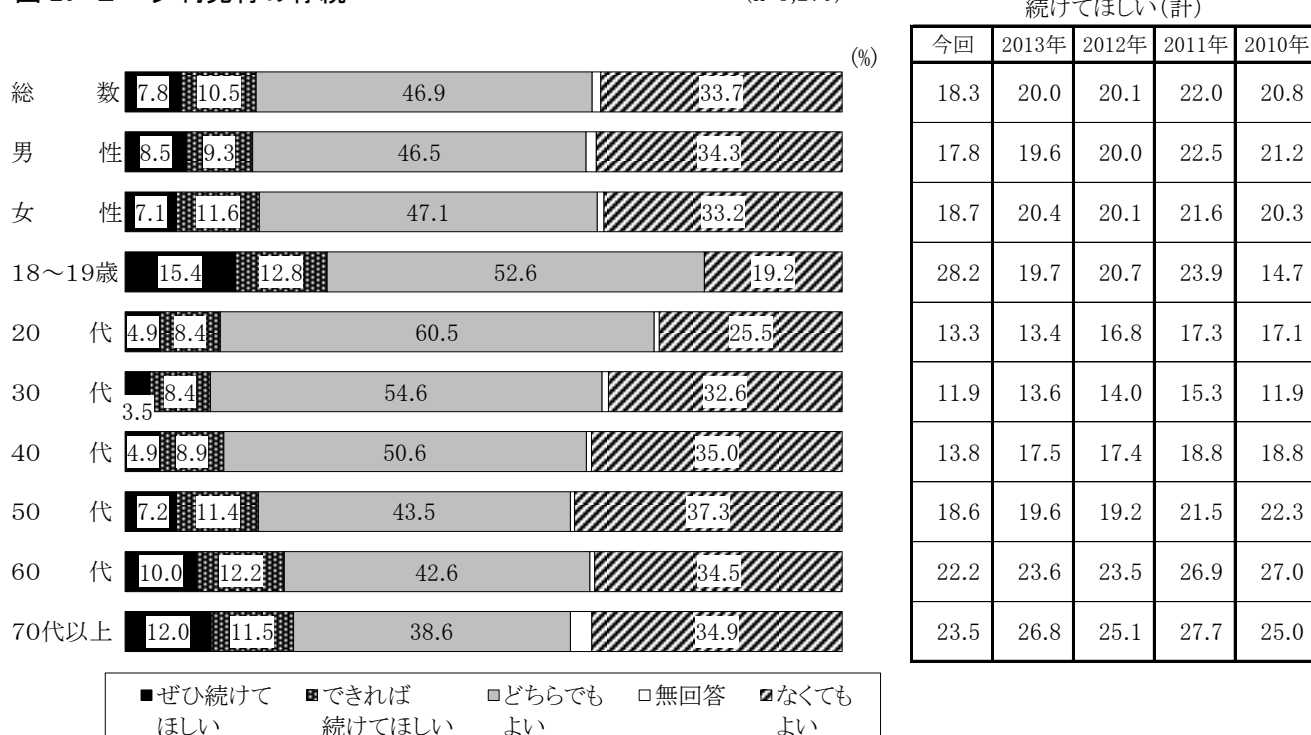


図 29-2 夕刊発行の存続

(n=3,270)



30. 月ぎめ新聞の購読状況は？（＊）

－ 78%が購読、購読率は初めて8割を切る －

- ・ 自宅で月ぎめで新聞を購読している人は 78.0%であった。新聞の種類を見ると、「全国紙」を購読している人が 53.9%、「県紙・地方紙」を購読している人が 35.0%、「ブロック3紙」を購読している人が 13.6%となった。また、全国紙を購読している人のうち、「2紙以上」の購読は 6.5%と少なく、ほとんどが「1紙のみ」(93.2%)の購読であった。さらに、全国紙を購読している人のうち、「紙の新聞」が 97.5%、「電子新聞」が 0.7%、「両方」が 1.2%であった。
- ・ 過去の調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は、調査開始の 2008 年度以降、ゆるやかな減少傾向にあるが、今回調査では調査開始以来、初めて8割を切った。新聞の種類で見ると、2013 年度調査から今年度調査にかけては、全国紙が 3.1 ポイント減、県紙・地方紙は横ばい、ブロック3紙は 1.6 ポイント減となった。
- ・ 年代別で見ると、月ぎめ新聞を購読している人は、30 代で6割弱（57.7%）と最も少なく、20 代で約6割（60.8%）、40 代で7割強（72.1%）、50 代以上で8割台（83.4%～89.1%）となった。
- ・ 年代別に昨年度調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は全年代で減少し、減少幅が大きい順に 20 代（8.9 ポイント減）、40 代（5.0 ポイント減）、30 代（3.9 ポイント減）、50 代（3.2 ポイント減）であった。

図 30-1 月ぎめでとっている新聞の有無

(n=3,270)

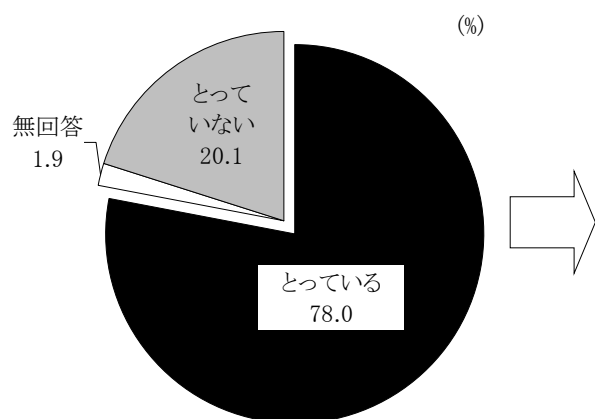


図 30-2 月ぎめでとっている新聞の種類

(複数回答、n=2,552)

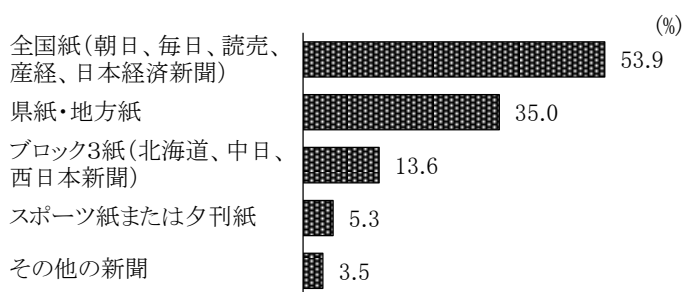


図 30-3 全国紙を何紙とっているか

(n=1,375)



図 30-4 購読は紙の新聞か電子新聞か

(n=1,375)

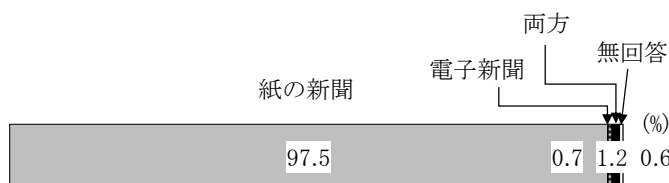


図 30-5 月ぎめでとっている新聞（時系列）

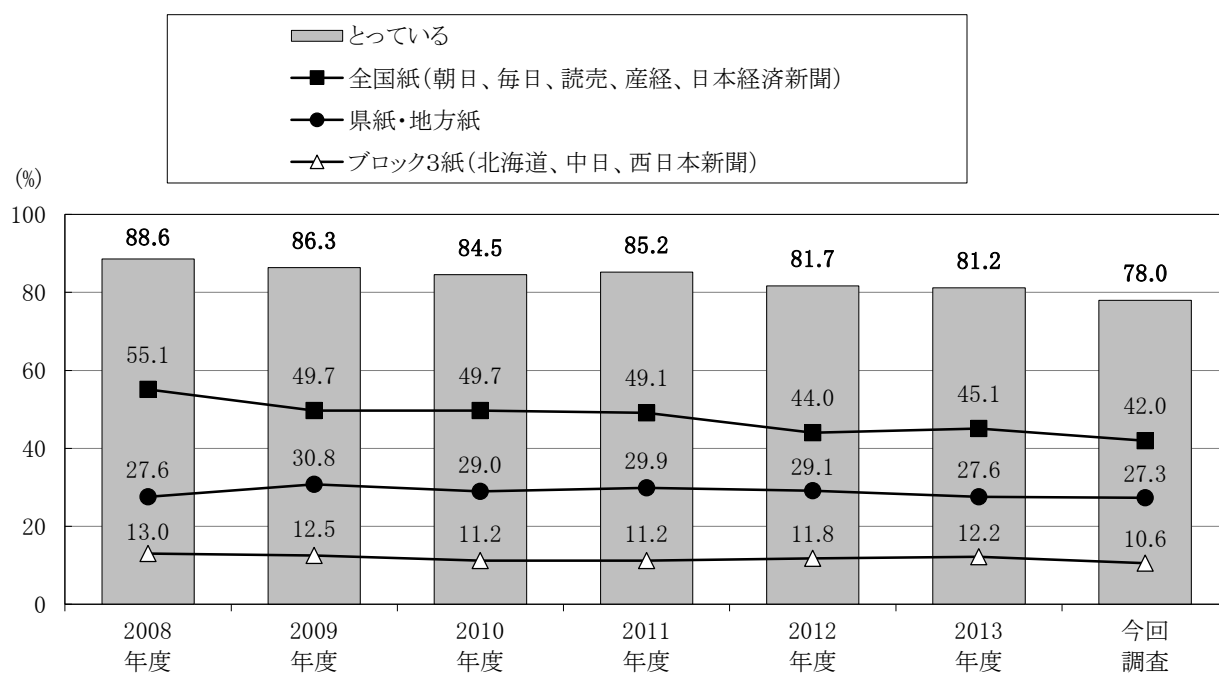
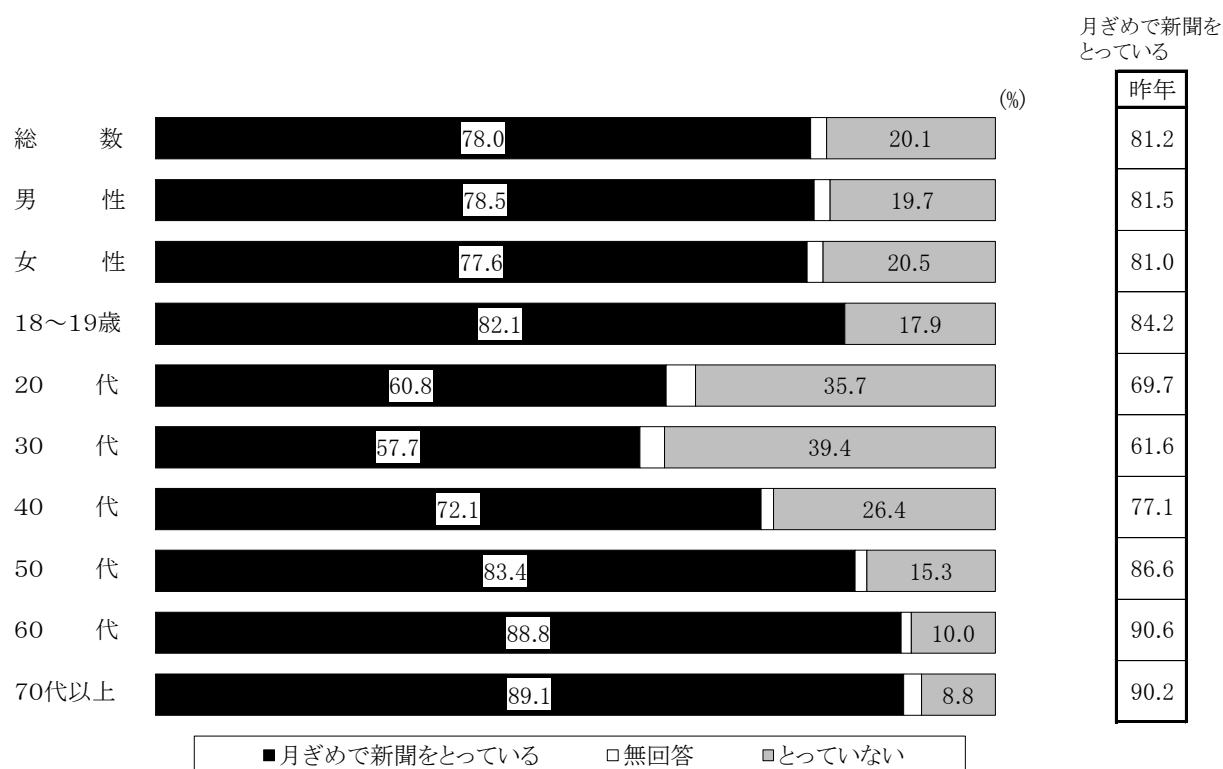


図 30-6 月ぎめでとっている新聞の有無（性・年代別）

(n=3,270)



31. 新聞の購読料をどう思う？（＊）

－ 「高い」とする人は53%。若い世代で負担感が大きい －

- ・新聞の1ヶ月の購読料（朝刊と夕刊のセットでおよそ4,000円）について、「かなり高い」は11.6%、「少し高い」は41.7%の回答であった。両者を合わせた『高い(計)』は53.3%となり、半数以上の人が購読料を負担に感じていることが分かった。「妥当である」は43.7%、「少し安い」と「かなり安い」を合わせた『安い(計)』は1.9%とごく少数に留まった。
- ・年代別に見ると、『高い(計)』は50代では5割（53.6%）を超え、40代以下の年代では6割（60.1%～63.2%）を超えた。一方、60代以上では、『高い(計)』（46.0%、43.3%）を押さえ、「妥当である」とする人が半数以上（51.5%、52.5%）を占め、新聞に金額相応の価値を置いていることがうかがえる。
- ・過去の調査と比較すると、減少傾向にあった『高い(計)』の割合は、今回3.3ポイント増加した。

※『高い(計)』＝「かなり高い」＋「少し高い」
『安い(計)』＝「少し安い」＋「かなり安い」

図 31-1 新聞の購読料

(n=3,270)

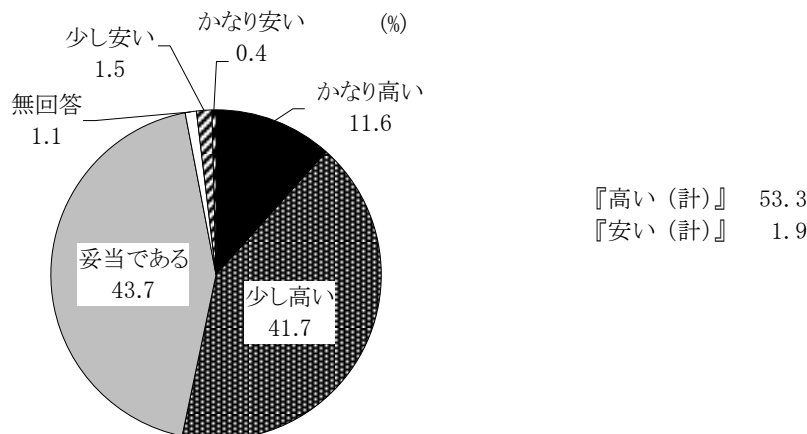
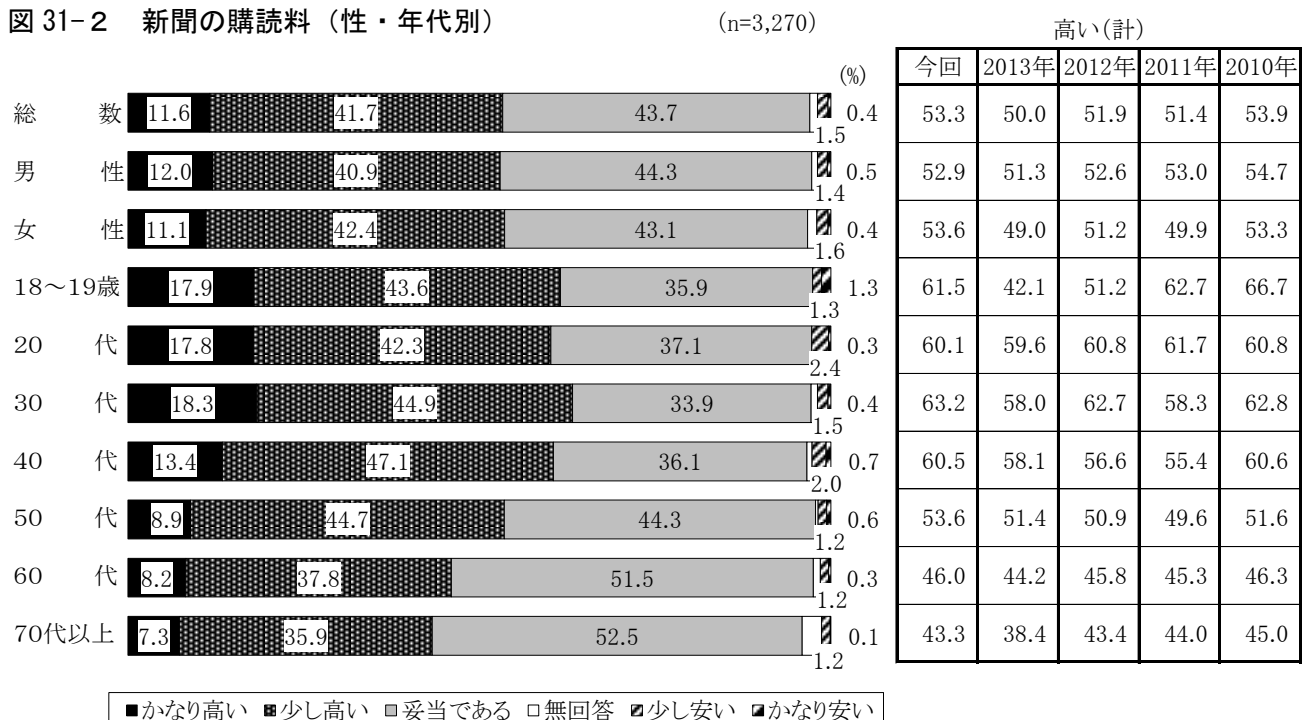


図 31-2 新聞の購読料（性・年代別）

(n=3,270)



32. 通信社の役割を知っている？（＊）

－ 「役割を知っている」人の割合は前年に続き 50%超
「知っている」51%、「知らない」48%

- ・通信社が新聞社や放送局、インターネットサイトなどにニュースを配信していることを「知っている」人は 51.2%、「知らない」人は 48.3%であった。
- ・性別で見ると、「知っている」人は、女性（43.8%）よりも男性（59.2%）に多い。
- ・年代別に見ると、通信社の役割を「知っている」人は、18-19 歳では 29.5%と少なく、30～60 代で 5 割台（53.1%～59.8%）と多かった。
- ・過去の調査と比較すると、「知っている」人の割合は調査開始以来 45%前後であったが、2012 年度に初めて半数を超え、今回調査でも横ばいであった。年代別に昨年度調査と比較すると、「知っている」人の割合は 20 代で 6.8 ポイント減、40 代で 2.8 ポイント減、60 代で 3.3 ポイント減となった。一方、30 代は 6.0 ポイント増となった。

図 32-1 通信社の役割の認知

(n=3,270)

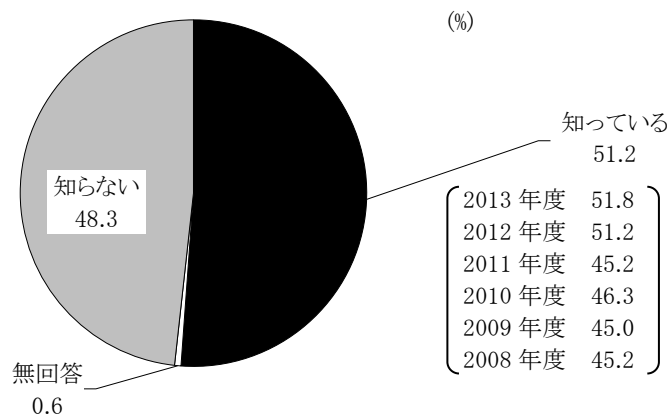
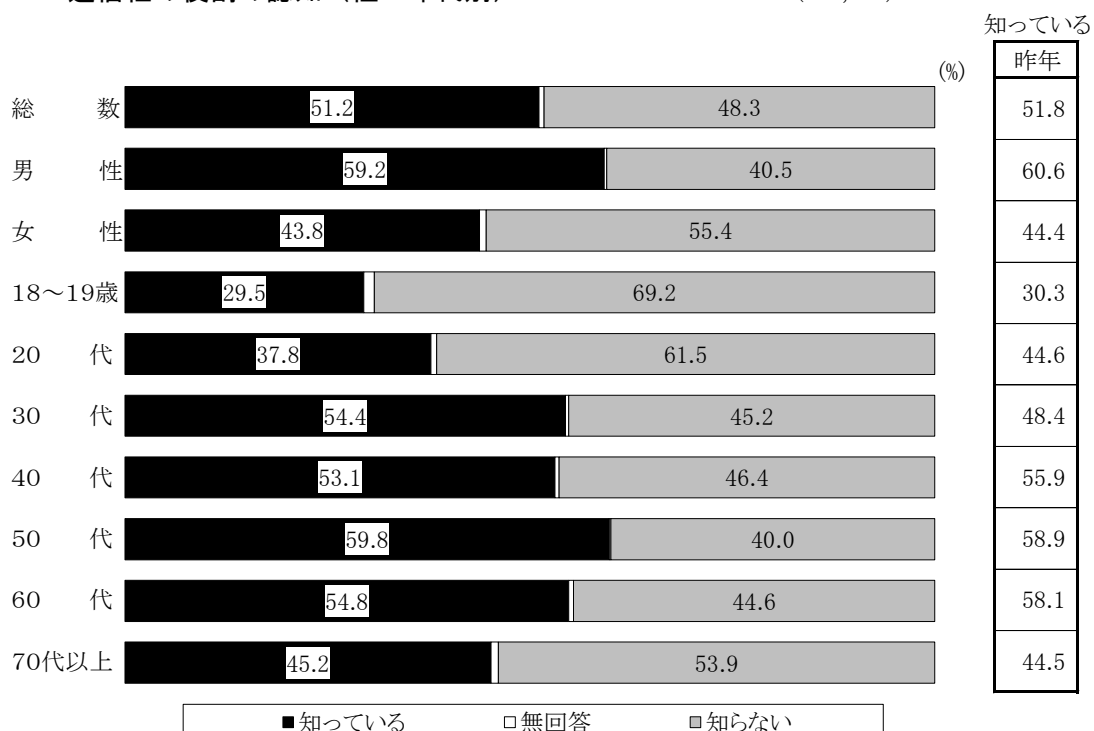


図 32-2 通信社の役割の認知（性・年代別）

(n=3,270)



33. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？（＊）

－ 1 位「共同通信社」（69%）、2 位「ロイター通信」（68%）で順位変わらず －

- ・見たり聞いたりしたことがある通信社の名前をひとつでも挙げた人は 80.9%である。最も知名度が高いのは「共同通信社」で 69.1%の人が挙げた。次いで「ロイター通信」が 68.3%、「AP 通信」が 49.8%、「時事通信社」が 45.2%、「新華社」が 43.0%となった。
- ・年代別に見ると、50 代以上では「共同通信社」の知名度が最も高かったが、40 代以下では「ロイター通信」の知名度が最も高かった。
- ・過去の調査と比較すると、2012 年度から 2013 年度にかけてほとんどの通信社の認知度が上がったが、今回調査では新華社を除いて若干低下した。

図 33-1 知っている通信社の有無 (n=3,270)

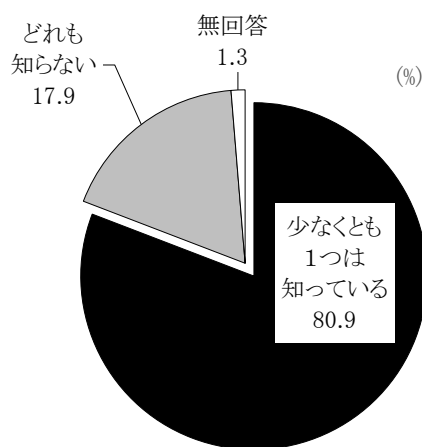
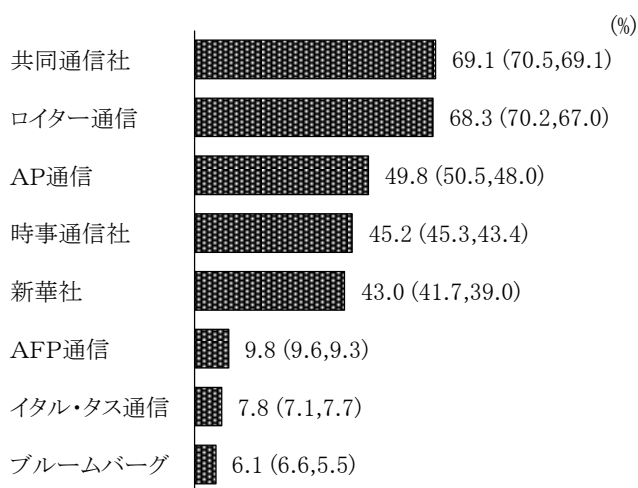


図 33-2 知っている通信社 (複数回答、n=3,270)



注：（ ）内は左から 2013 年度調査、2012 年度調査の数値

表 33-1 知っている通信社（性・年代別）

(複数回答、n=3,270)

	知っている通信社 (%)				
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
総 数	共同通信社 69.1	ロイター通信 68.3	AP通信 49.8	時事通信社 45.2	新華社 43.0
男 性	共同通信社 76.3	ロイター通信 72.7	AP通信 56.3	時事通信社 54.2	新華社 50.4
女 性	ロイター通信 64.2	共同通信社 62.5	AP通信 43.7	時事通信社 37.0	新華社 36.2
18-19歳	ロイター通信 48.7	共同通信社 33.3	AP通信 28.2	時事通信社 20.5	新華社 15.4
20 代	ロイター通信 62.2	共同通信社 51.4	AP通信 46.9	時事通信社 31.8	新華社 24.5
30 代	ロイター通信 72.2	共同通信社 65.4	AP通信 55.3	時事通信社 48.0	新華社 35.7
40 代	ロイター通信 80.7	共同通信社 74.6	AP通信 62.5	時事通信社 49.7	新華社 46.4
50 代	共同通信社 81.6	ロイター通信 79.1	AP通信 61.7	時事通信社 51.6	新華社 51.1
60 代	共同通信社 74.7	ロイター通信 68.0	新華社 52.1	時事通信社 47.0	AP通信 45.2
70代以上	共同通信社 63.2	ロイター通信 51.3	時事通信社 41.2	新華社 40.7	AP通信 33.7

《新聞のこれからとインターネット》

34. インターネットのニュースをどの程度見る？（＊）

－ 「インターネットニュースを毎日見る」20代・30代では半数超。－

インターネットニュースの毎日閲覧は全年代で前回より増加 －

- ・インターネットのニュースを閲覧している人は64.7%と6割を超えた。内訳を見ると、「毎日」見ている人（31.4%）が3割強であった。
- ・年代別に見ると、インターネットのニュースを閲覧している人は若年層に多く、特に40代以下では9割前後（86.7%～96.9%）と、新聞朝刊の閲読率を上回った。また、インターネットのニュースを「毎日」見ている人は20代・30代では5割以上（52.4%、58.6%）に達している。
- ・前回調査と比較すると、インターネットのニュースを閲覧している人は50代以上の年代での増加（5.9～8.5ポイント）が大きい。「毎日」見ている人は全年代で前回より増加し、特に18-19歳、30代、50代で大きく増加（8.1～8.9ポイント）した。

図 34-1 インターネットニュースの閲覧状況

(n=3,270)

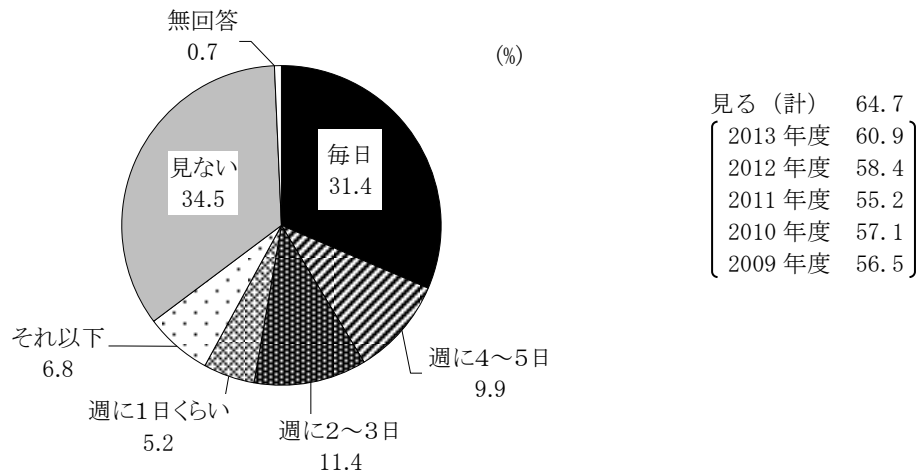


図 34-2 インターネットニュースの閲覧状況
（見る（計））（性・年代別） (n=3,270)

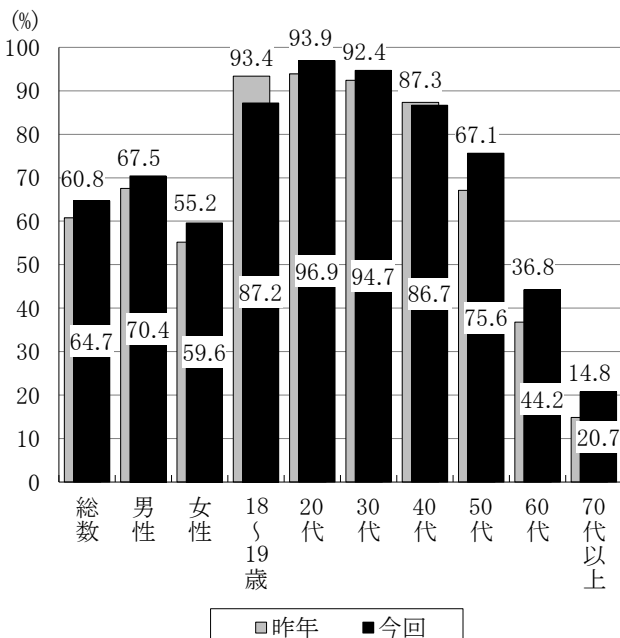
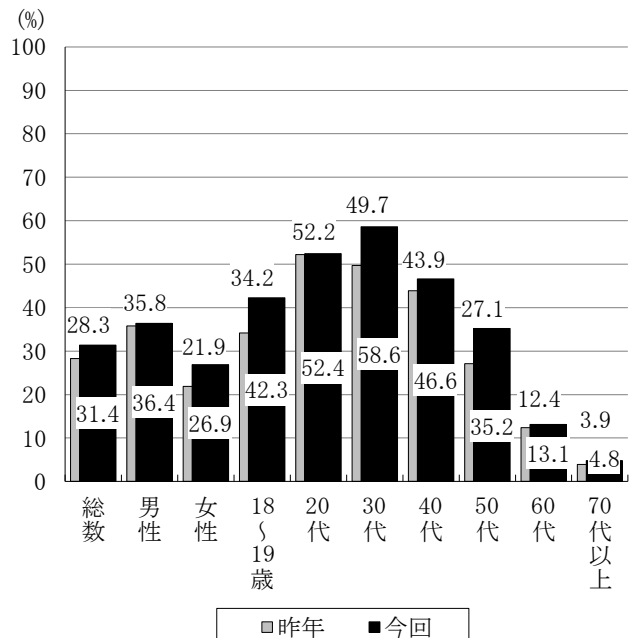


図 34-3 インターネットニュースの閲覧状況
（毎日）（性・年代別） (n=3,270)



(インターネットニュースを見ている人に)(全体の 64.7%)

35. よく見るインターネットニュースの記事は？（＊）

ー 1 位「スポーツ・芸能に関する記事」(70%)、

2 位「社会に関する記事」(58%) ー

- ・よく見るインターネットニュースの記事としては、「スポーツ・芸能に関する記事」(69.8%) を挙げる人が約7割と最も多く、次いで、「社会に関する記事」(58.1%) を挙げる人が半数を超えた。
- ・性別に見ると、「経済に関する記事」「政治に関する記事」は男性の方が多く、「生活・健康に関する記事」は女性の方が多い結果となった。
- ・年代別に見ると、「スポーツ・芸能に関する記事」は20～50代で7割台(71.1%～78.3%)と多かった。「社会に関する記事」は30代以上で5割(52.9%～63.5%)を超えた。
- ・昨年度調査と比較すると、「社会に関する記事」「生活・健康に関する記事」「国際情勢に関する記事」が2.1～2.5ポイント増加した。

図 35-1 インターネットニュースでよく読む記事

(複数回答、n=2,117)

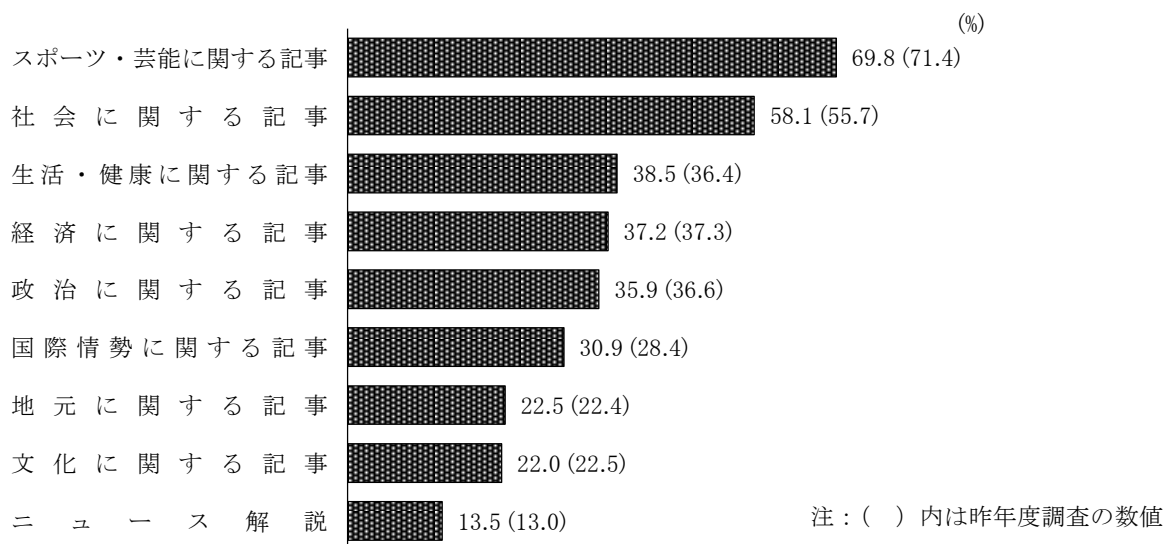
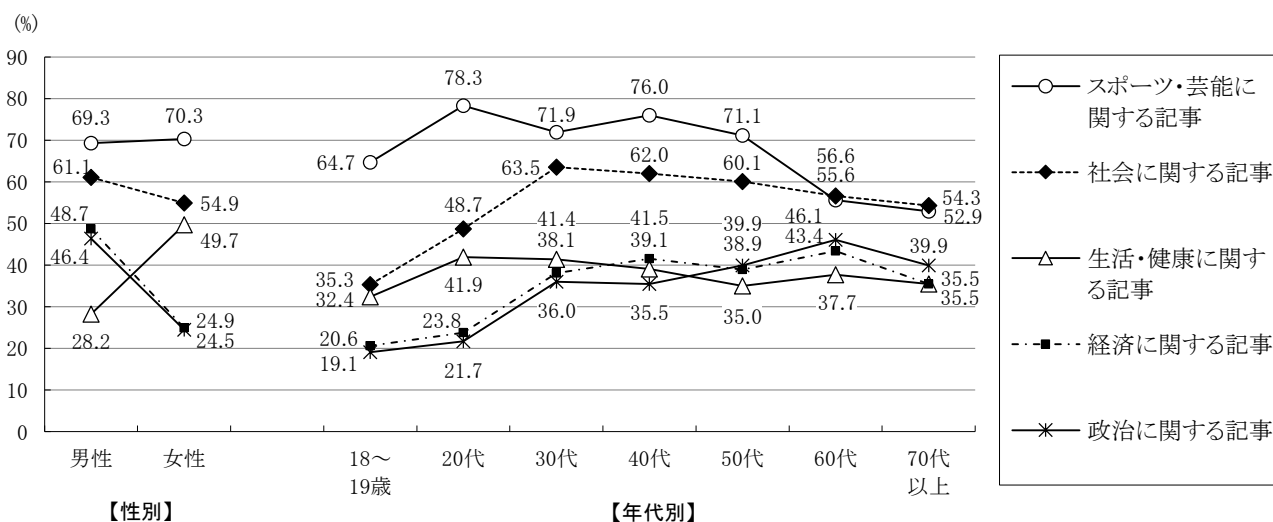


図 35-2 インターネットニュースでよく読む記事（性・年代別）

(複数回答、n=2,117)



(インターネットニュースを見ている人に) (全体の 64.7%)

36. インターネットニュースを見るサイトは？（＊）

－ ポータルサイトが 89%、新聞社の公式サイトは 22% －

- ・インターネットニュースを見るサイトを質問したところ、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」(88.6%) が突出して最も多かった。「新聞社・通信社の公式サイト」(22.3%)、「テレビ放送局の公式サイト」(8.3%) は大きく水をあけられる結果となった。
- ・年代別に見ると、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」はいずれの年代においても最も多く、40 代以下では 9 割台 (92.4%～95.6%)、50 代以上では年代の上昇と共に少なくなるが、70 代以上でも 6 割 (63.8%) を超えた。一方、「新聞社・通信社の公式サイト」「テレビ放送局の公式サイト」は年代が上がるほど概ね多くなる傾向が見られた。
- ・昨年度調査と比較すると、ほとんど変化は見られなかった。

図 36-1 インターネットニュースを見るサイト

(複数回答、n=2,117)

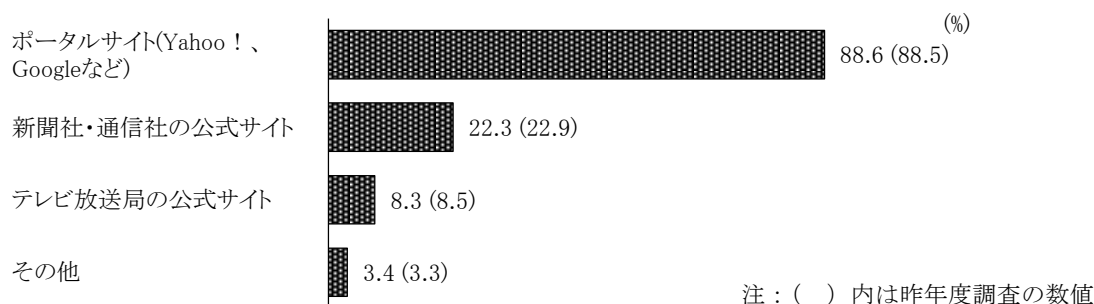
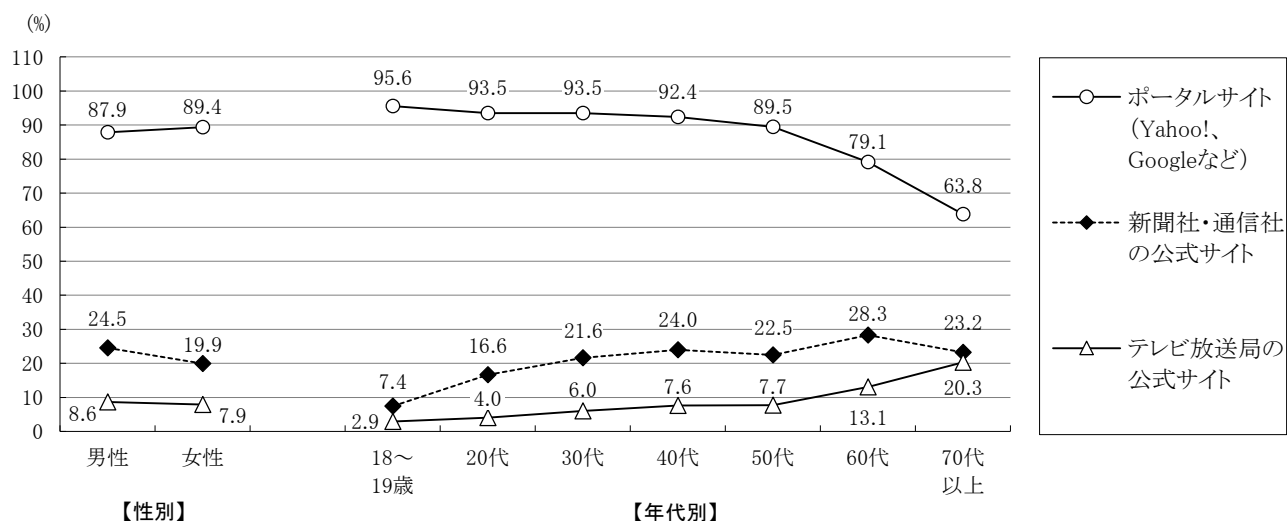


図 36-2 インターネットニュースを見るサイト（性・年代別）

(複数回答、n=2,117)



37. 将来の新聞の役割についてどう思う？（＊）

－ 新聞の役割減少派 43%、役割持続派 40%。

役割減少派が初めて役割持続派を上回る

- ・将来の新聞について、「A：インターネットなどの普及により新聞の役割が少なくなってくる」と考える役割減少派は 43.1%、「B：今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」と考える役割持続派は 40.2%と、役割減少派の方が多くなった。
- ・昨年度調査と比較すると、役割減少派が 2.9 ポイント増、役割持続派が 3.5 ポイント減となり、この質問を始めた 2009 年度調査以来、初めて役割減少派が役割持続派を上回った。

※役割減少派：「Aに近い」＋「どちらかと言えばAに近い」
役割持続派：「どちらかと言えばBに近い」＋「Bに近い」

図 37-1 将来の新聞についての意見

(n=3,270)

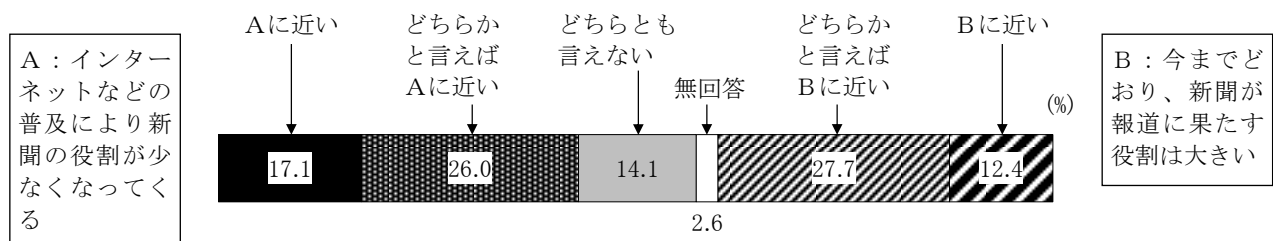
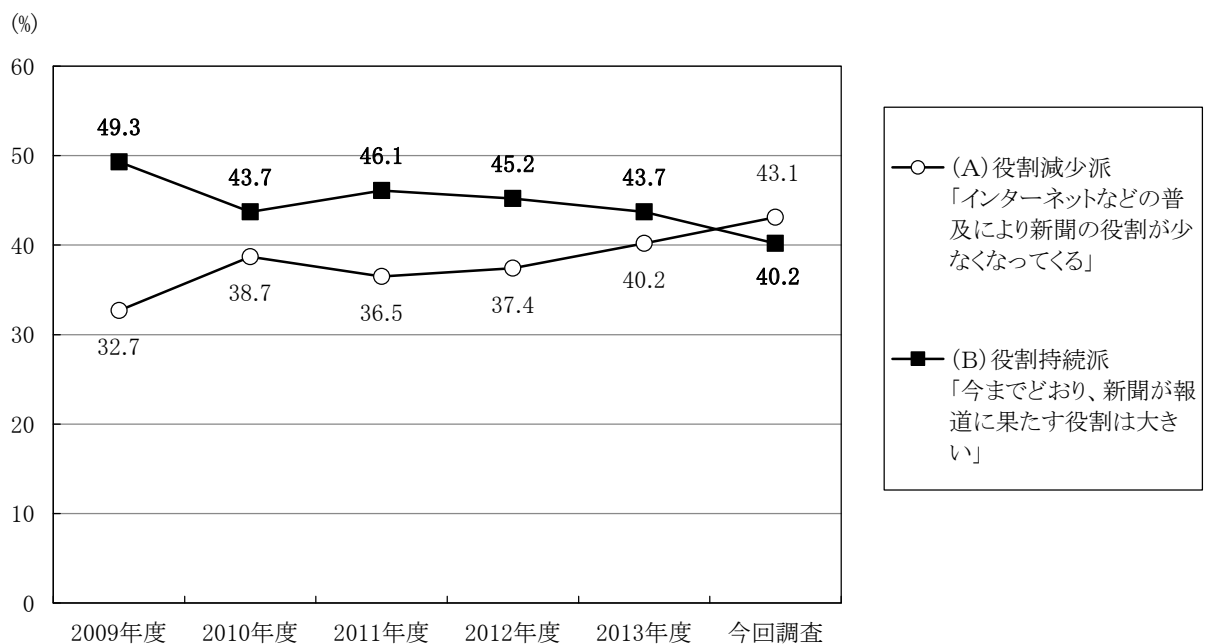
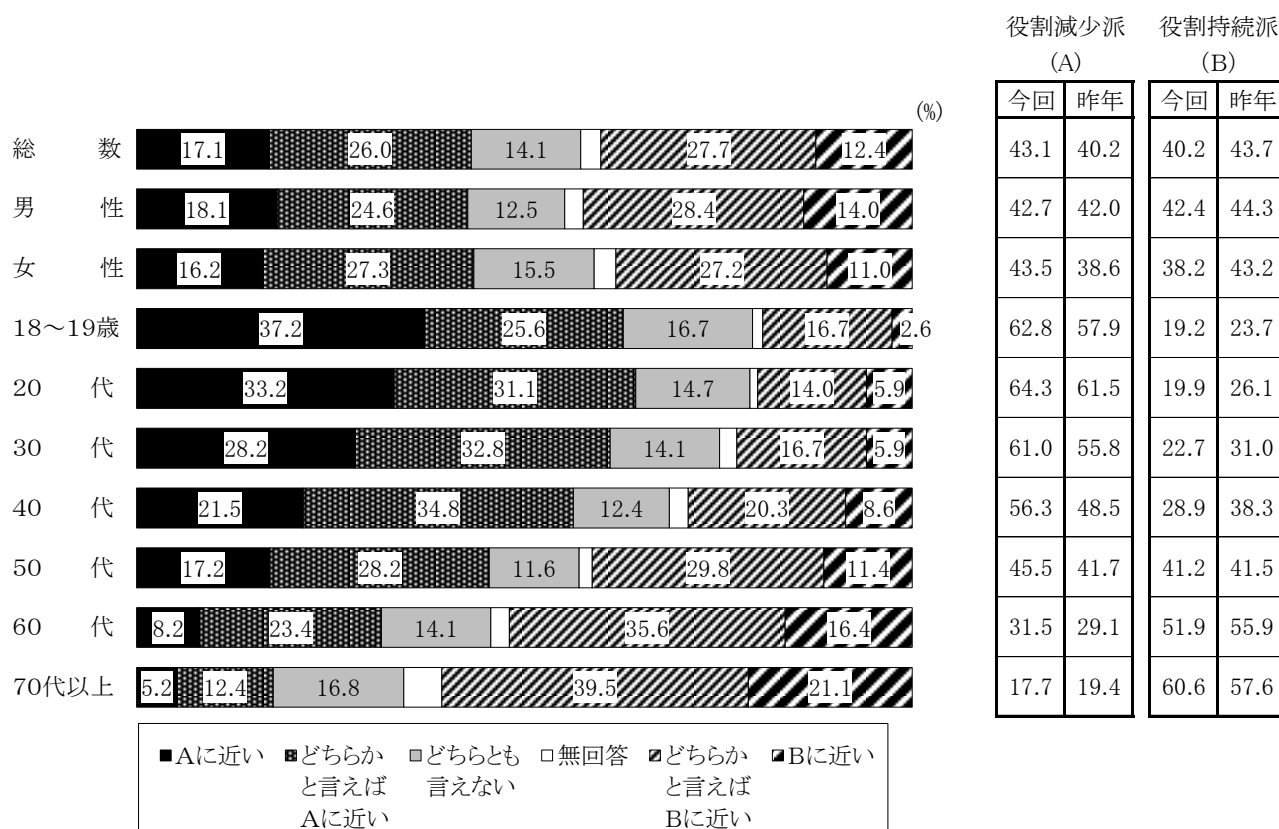


図 37-2 将来の新聞についての意見（時系列）



- ・年代別に見ると、役割持続派は18-19歳（19.2%）で最も少なく、年代が上がるほど多くなり、60代以上では5割（51.9%、60.6%）を超えた。一方、40代以下では役割減少派が過半数（56.3%～64.3%）と多く、持続派（19.2%～28.9%）を上回っており、若い世代で将来、新聞がインターネットなどの影響を受けると見ている人が多いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、全体で役割減少派が2.9ポイント増、役割持続派が3.5ポイント減となったが、年代別でも、60代以下の全年代で役割減少派が増加し、役割持続派が減少した。特に30代・40代で増減が大きく、役割減少派は30代で5.2ポイント増、40代で7.8ポイント増となり、役割持続派は30代で8.3ポイント減、40代で9.4ポイント減となった。

図 37-3 将来の新聞についての意見（性・年代別） (n=3,270)

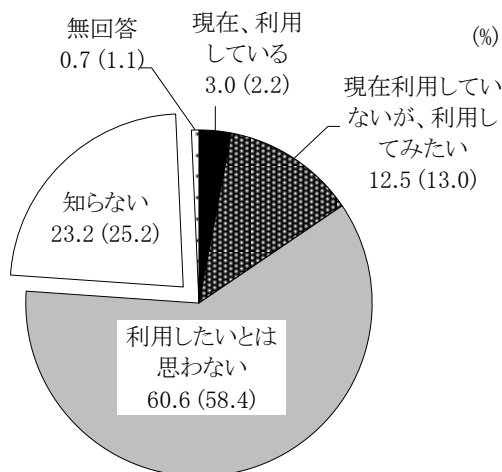


38. 電子新聞の利用意向は？（＊）

－ 利用希望は伸びず。「利用してみたい」は13% －

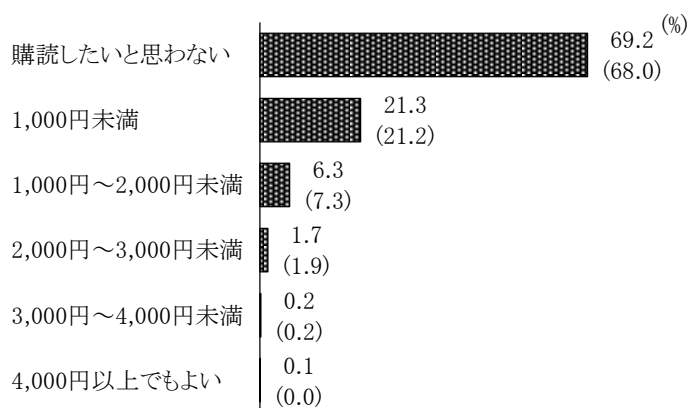
- ・パソコンや携帯電話、タブレットなどで読むことができる電子新聞の認知率（「現在、利用している」3.0％と「現在利用していないが、利用してみたい」12.5％と「利用したいとは思わない」60.6％の合計）は76.1％と、昨年調査より2.4ポイント増加した。有料の電子新聞に限定して利用意向を聞いたところ、「現在、利用している」が3.0％、「現在利用していないが、利用してみたい」が12.5％と昨年から変化は見られなかった。
- ・電子新聞の購読料としては「1,000円未満」が21.3％、次いで「1,000円～2,000円未満」が6.3％となった。
- ・電子新聞の利用を年代別に見ると、利用している人の割合はいずれの年代でも5％に満たない。「現在利用していないが、利用してみたい」は20～50代で1割台後半（15.3％～17.5％）となった。

図 38-1 電子新聞の認知度と利用意向 (n=3,270)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

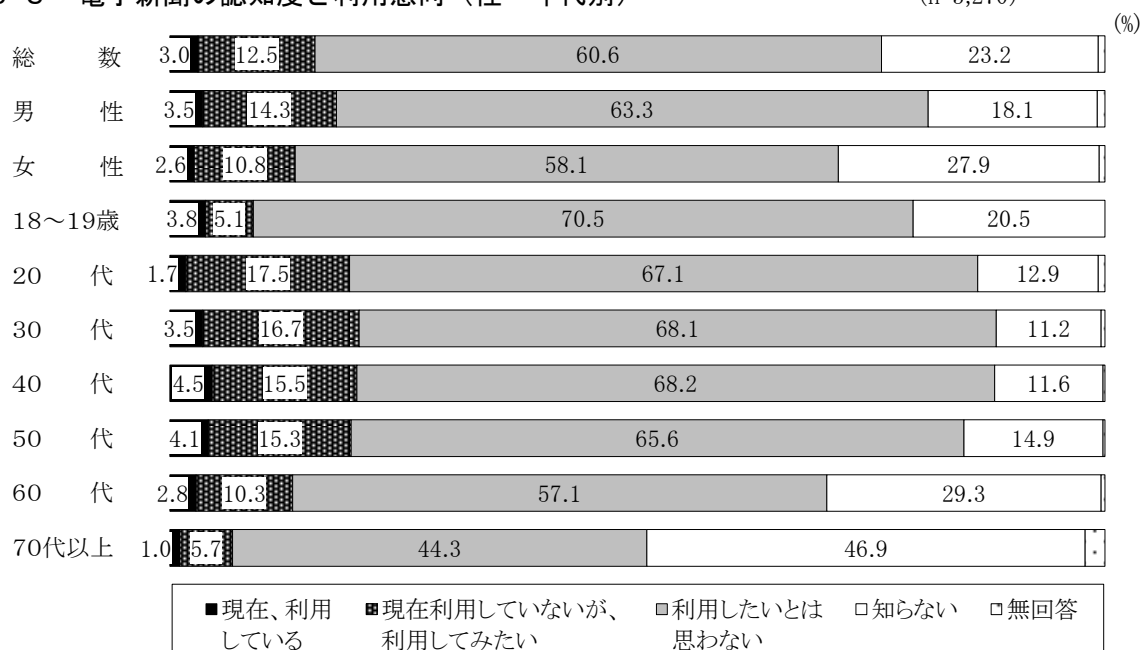
図 38-2 電子新聞の許容購読料 (n=3,270)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 38-3 電子新聞の認知度と利用意向（性・年代別）

(n=3,270)



調査の概要

●調査地域

全国

●調査対象

18 歳以上男女個人（5,000 人）

●サンプリング法

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

●回収サンプルの構成

回収数 3,270（65.4%）

<性別>

総数	男性	女性
3,270	1,562	1,708
100.0%	47.8%	52.2%

●調査方法

専門調査員による訪問留置法

●実査時期

2014 年 9 月

●調査委託機関

一般社団法人 中央調査社

<年代別>

18～ 19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代 以上
78	286	454	595	517	672	668
2.4%	8.7%	13.9%	18.2%	15.8%	20.6%	20.4%

第7回 メディアに関する全国世論調査（2014年）

2014年10月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都千代田区内幸町2-2-1

日本プレスセンタービル1階

電話 03-3593-1081